

市町村名	豊見城市						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-③	とみぐすく祭り事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ア		
担当部課名	企画部 商工観光課	事業実施(予定)年度	平成26~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際的な沖縄観光ブランドの確立 Ⅲ-1-(1)		
事業内容	歴史文化に育まれた子どもエイサーや豊見城ハーリーなど貴重な地域資源を活用した祭りを開催し、本市の成長力、若い力を県内外に広くアピールし、新たな観光の場として誇りと愛着の持てる「ひと・そら・みどりがつなぐ響むまちとみぐすく」の実現を目的とする。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
	(a) 当初予算額	25,000	22,000	22,000			
	(b) 予算現額	22,000	12,827	22,000			
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 3,000	▲ 9,173	0			
	(d) 繰越額	-	-	-			
	A. 計 (b+d)	22,000	12,827	22,000			
	B. 執行済額	22,000	12,827	22,000			
	うち交付金充当額	17,600	10,261	17,600			
	次年度繰越額	-	-	-			
	執行率 (%) (B/A)	100.0%	100.0%	100.0%			
予算の状況の説明	実行委員を組織し、予定通り予算の執行を行った。						
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)	達成状況					
			28年度	29年度	30年度	31年度	
	とみぐすく祭りの開催	目標	(祭りの開催)	()	()	()	
		実績	祭りの開催				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	第33回とみぐすく祭りに係る経費助成について、遅滞なく助成し、祭りを成功裏に終えた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)	基準値(26年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)	
	とみぐすく祭りの開催 とみぐすく祭りの来場者数:91,500人 基準年:H26・90,765人	目標	(90,500人)	(55,000人)	(91,000人)	(祭りの開催 91500)	()
		実績		90,765人	中止	祭りの開催 71365	
	県外観光客数:14%	目標	()	()	()	(14%)	()
		実績				8%	
進捗状況説明	観光振興を図るため、県内外の有名アーティストをキャスティングし、TVCMやSNS等を活用し、県内外に広く周知を行った。 ・来場客数や課題抽出のため、来場者へのアンケートを実施(調査人数400名) ・荒天のため一部プログラムが実行できなかったため集客数が目標値を下回ったが、全体的に好調な集客が見込めた。 ・アンケート回答者400人中、県外からの来客は約8%の31人だった。荒天のため一部プログラムが実行できなかったことにより目標値である14%には満たなかったが、総来客数で換算すると、県外から約5,700人の客が訪れていることになり、認知度は年々高まっていると言える。						

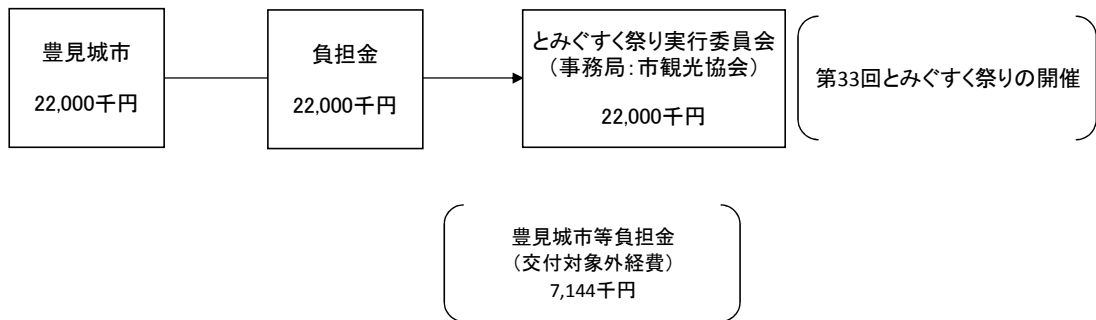
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	・アンケートの結果、会場へのアクセスについて、約57%の来場客が自家用車を利用していることが解る。会場周辺の臨時駐車場の確保や交通渋滞が慢性的な課題となっている。	・臨時駐車場の拡大、市内路線バスの増便やシャトルバス導入による公共交通機関利用の推進。
	・アンケートの結果、来場客のうち50代が約7%、60代が3%となっており、高齢層の集客が課題となっている。	・老若男女が楽しめるイベントプログラムの構築及び高齢者に優しい会場アクセスの確立。
	・アンケートの結果、県外からの来場客は8%となっており、観光振興の観点からさらなるアピールが必要である。	・より知名度の高いアーティストの起用等によるイベントプログラムの充実及び県内外への広告宣伝のさらなる強化。

今後の取り組み方針

当該祭りの認知度も年々向上し、来場客数も増加傾向にある。また、県外からの問い合わせも多く、人気は高まっている。しかし車社会という沖縄の県民性も背景にあることから会場の駐車場不足や交通渋滞が慢性的な課題となっている。今後は、祭り会場付近の未利用地の所有者との連携により臨時駐車場を確保することはもとより、バス会社等各機関と連携して臨時便の増便等の対応により公共交通機関の利用促進に繋げ、来場客の満足度の向上を図り、さらに充実した祭りを目指す。また、高齢者の来場率が低い状況であるため、市老人会、婦人会等が参加するステージスケジュールのさらなる充実を図り、また中高齢者層向けのゲストアーティストの起用を検討するなど、老若男女が楽しめるようイベントプログラムのさらなる充実を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
29,144	22,000	17,600	4,400	7,144

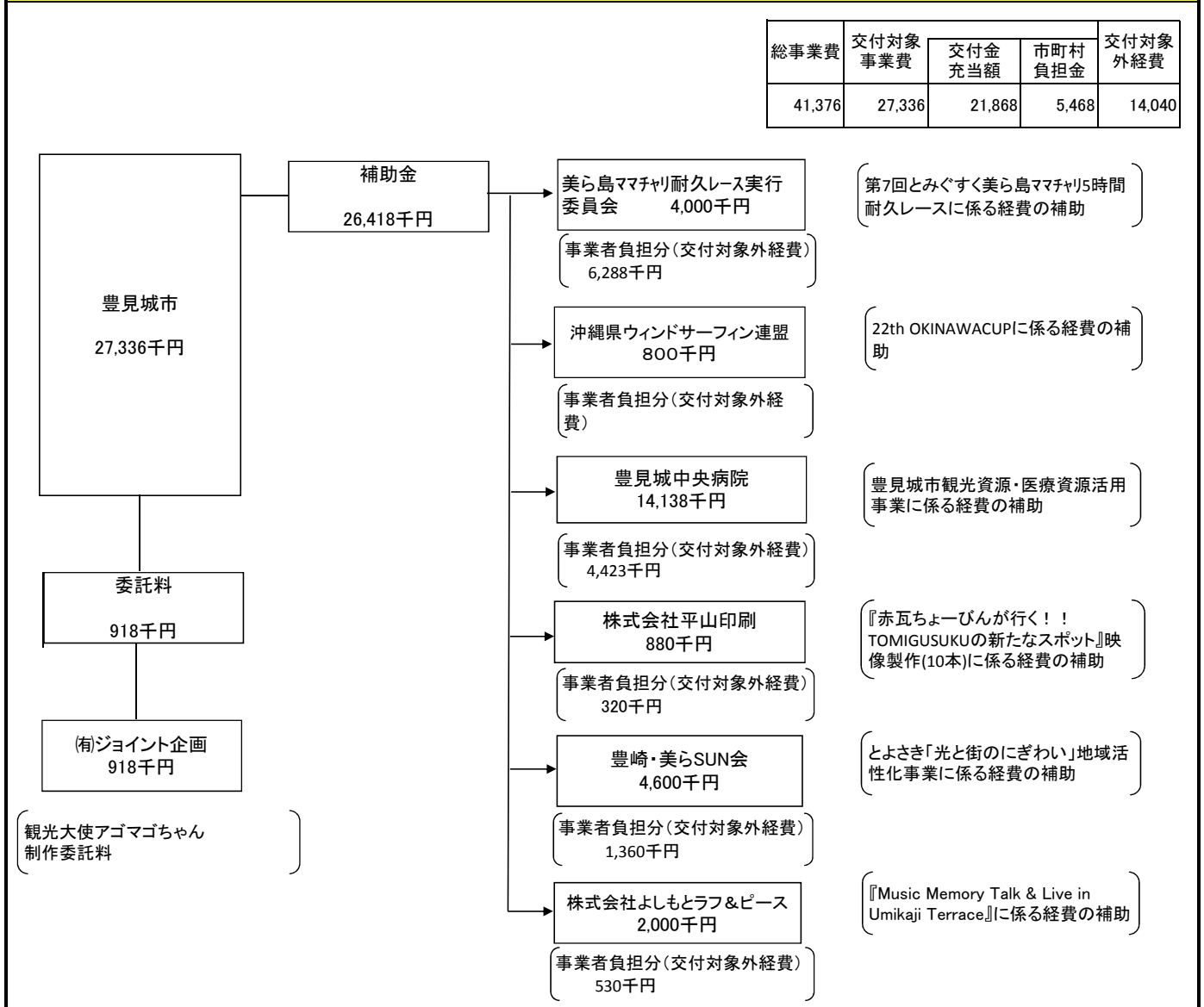


資金の用途の流れ、費目・	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○観光振興に資することを目的に市観光協会を事務局とするとみぐすく祭り実行委員会への負担金として支出したため、妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○荒天のため一部プログラムが実行できなかったが、全体的に好調な集客が見込めており、適正な予算規模であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○とみぐすく祭り実行委員会事務局との負担関係は、組織の財政規模、受益等を考慮して配分しており、妥当である。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については、事業目的達成の観点から要・不要等の判断を支出等に関する書類により確認しており、適正であった。

市町村名		豊見城市					
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-④	観光振興等支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ア	
担当部課名	企画部 商工観光課	事業実施(予定)年度	平成25~29年度		沖縄振興基本方針該当箇所	国際的な沖縄観光ブランドの確立 Ⅲ-1-(1)	
事業内容	市観光協会などが実施する観光資源の開発やイベント事業を支援することにより、観光振興や地域振興に取り組む担い手となるまちづくり団体を育成し、観光振興に取り組める環境づくりを図る。また、オフシーズンの誘客対策として新たな特色ある観光事業の誘致や開催を検討するとともに、観光PR活動を行う。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	20,000	30,000	30,000	31,000	
		(b) 予算現額	20,000	30,000	30,000	30,200	
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	▲ 800	
		(d) 繰越額	-	-	-	-	
	A. 計 (b+d)		20,000	30,000	30,000	30,200	
	B. 執行済額		19,581	23,607	27,924	27,336	
	うち交付金充当額		15,664	18,885	22,339	21,868	
	次年度繰越額		-	-	-	-	
	執行率 (%) (B/A)		97.9%	78.7%	93.1%	90.5%	
予算の状況の説明		・不用額2,782千円については、各補助事業者の実績報告書を精査した結果、事業における収入等の増加に伴い補助金額を確定したことで発生している。書類審査、選定委員会によるプレゼン審査を経て補助事業者選定を行い、事業実施したこと他、活動目標、成果目標である観光客誘客効果を鑑みて適正であったと考えている。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	豊見城市観光協会等の補助対象団体からの補助対象事業を公募し、選定委員会にて将来、豊見城市の観光振興に資する事業で自立が見込まれる内容を適切かつ公平に2~3団体選定、補助金交付。	目標	(20,000千円)	(30,000千円)	(30,000千円)	(30,000千円)	
		実績	19,581千円	23,607千円	27,924千円	26,418千円	
観光PRツール制作	目標	()	()	()	(制作)		
	実績				制作		
達成状況説明	6団体交付決定 ①美ら島マチャリ耐久レース実行委員会:4,000千円、②沖縄県ウインドサーフィン連盟:800千円、③豊見城中央病院:14,138千円、④株式会社平山印刷 880千円、⑤豊崎・美らSUN会 4,600千円⑥株式会社よしもとラフ&ピース 2,000千円 上記、計6団体 26,418千円交付決定。 1回目の公募での交付決定額が予算額に満たなかったため、2回公募を行った。しかし、補助金の交付決定額に対して、精査後の確定額が下回ったため目標を下回った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(23年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(29年度)
	観光地点等入込客数 約230万人(H23年度)→約299万人(H28年度)	目標	(230万人)	(271万人)	(285万人)	(299万人)	(307万人)
		実績		461万人	462万人	475万人	
		目標	()	()	()	()	()
	実績						
進捗状況説明	観光地点等入込客数においては、実績475万人となり、目標の299万人を大きく上回った。 補助金交付事業への入場者数等 ①美ら島マチャリ耐久レース実行委員会:「第7回とみぐすく美ら島マチャリ5時間耐久レース」 1,386人 ②沖縄県ウインドサーフィン連盟:「22th OKINAWACUP」 155人 ③社会医療法人 友愛会 豊見城中央病院:「豊見城市観光資源・医療資源活用事業」人材育成14人、関連事業により台湾の医療関係者が10名来沖 ④株式会社平山印刷:「赤瓦ちよーびんが行く!! TOMIGUSUKUの新たなスポーツ映像製作」10本 ⑤豊崎・美らSUN会:とよさき「光と街のにぎわい」地域活性化事業 ⑥株式会社よしもとラフ&ピース:「Music Memory Talk & Live in Umikaji Terrace」500人						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・「豊見城市観光振興等支援事業補助金」の名称で公募を行ったところ、10団体の応募があり、書類審査及びプレゼンテーションを経て、6団体を採択した。観光振興に取り組める環境づくりを図るため、早めの公募や周知を行い、新たな特色ある観光事業の誘致や開催が必要である。 ・平成28年度は、1回目の公募での交付決定額が予算額に満たなかったため、2回公募を行った。 ・補助金交付については、精算後に対象経費等が確定するため、概算交付を行う。平成27年度より、概算交付の割合を80%から20%へ変更した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな観光事業を誘致していくため、引き続き事業の周知活動を行う必要がある。
	今後の取り組み方針	
<ul style="list-style-type: none"> ・市広報やHPなどにより事業の周知活動を行い、引き続きさらなる観光振興に資する団体の育成及び観光商品の充実、新たな事業の創出を促し、更なる観光客誘客、地域活性化を図る。 		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ点検 評価 ・ 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助交付団体選定については、公平に判断するため、選定委員会を設置し、事業内容等を精査し、選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○補助交付団体の予算額(申請額)については、選定委員会において予算額を精査し交付決定を行っているものに対し、額の確定を行っているもので適正であったと思われる。また、全体予算額についても、事業数と内容からみても妥当であったと思われる。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○交付団体との負担関係は、豊見城市観光振興等支援事業補助金交付要綱に基づき、事業者の負担について定められている範囲で行っているもので妥当であったと考えられる。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○対象経費等については豊見城市観光振興等支援事業補助金交付要綱により事業目的達成の観点から必要なものか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。

市町村名		豊見城市					
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑤ 観光振興地域環境美化強化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3-(2)-ウ		
	担当部課名	経済建設部 道路課	事業実施(予定)年度	平成25~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備 Ⅲ-1-(1)	
事業内容	南国沖縄らしい景観や、魅力ある観光地づくりを図るため、大型商業施設及び宿泊施設などが所在する豊崎、瀬長地域の市道植樹樹の除草清掃や、プランターの植栽管理を行い美化強化に努め、魅力ある観光地づくりに取り組む。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	34,000	5,832	10,444	6,105	
		(b) 予算現額	21,447	5,832	10,023	6,105	
		(c) 増減額(b-a)	▲12,553	0	▲421	0	
		(d) 繰越額	-	-	-	-	
		A. 計(b+d)	21,447	5,832	10,023	6,105	
	B. 執行済額		21,447	5,832	10,022	6,105	
	うち交付金充当額		17,157	4,665	8,017	4,884	
	次年度繰越額		-	-	-	-	
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明		環境美化を強化し、予定通り予算の執行を行った。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	植栽樹の除草清掃(1390樹、3回除草清掃)	目標	(植栽樹の除草清掃)	(植栽樹の除草清掃)	(植栽樹の除草清掃)	(植栽樹の除草清掃(1390樹、3回除草清掃))	
		実績	植栽樹の除草清掃	植栽樹の除草清掃	植栽樹の除草清掃	植栽樹の除草清掃(1387樹、3回除草清掃)	
	プランターの植栽管理(464個)	目標	(プランターの設置及び花木等の植栽)	(プランターの植栽管理)	(プランターの植栽管理)	(プランターの植栽管理)	
		実績	プランターの設置及び花木等の植栽	プランターの植栽管理	プランターの植栽管理	プランターの植栽管理	
達成状況説明	・一般国道331号4車線化に伴い瀬長島交差点の形状が変更し、当該箇所の樹が3減となった。そのため、目標としていた1390樹を達成できなかった。 ・瀬長島、豊崎地区の植栽樹の抜根除草を行った。 ・平成25年度に設置したプランターへの灌水等、植栽管理を行うことで、目標を達成した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	植栽樹の除草清掃	目標	()	(1390樹 3回)	(1390樹 3回)	(1390樹 3回)	()
		実績	/	1390樹 3回	1390樹 3回	1387樹 3回	/
	プランターの植栽管理	目標	()	(植栽管理 464個)	(植栽管理464個 防風ネット 238個)	(植栽管理 464個)	()
		実績	/	植栽管理 464個	植栽管理 464個 防風ネット135個	植栽管理 464個	/
	進捗状況説明	・一般国道331号4車線化に伴い瀬長島交差点の形状が変更し、当該箇所の樹が3減となった。そのため、目標としていた1390樹を達成できなかった。 ・プランターへの灌水等、植栽管理を行うことで、目標を達成した。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・プランター内の花木が枯れてしまい減少しつつある。	・花木の追加や、灌水の回数、施肥の検討を行い適正な管理を行う。
今後の取り組み方針		
・引き続き植栽樹の除草清掃及びプランターへの灌水、施肥を行うとともに、花木の減少しつつあるプランターの調査を実施する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
	6,105	6,105	4,884	1,221	0
<pre> graph LR A[豊見城市 6,105千円] --> B[委託料 6,105千円] B --> C["(有)泉川園芸 6,105千円"] C --- D[植栽樹の除草清掃及びプランターへの灌水にかかる委託業務] </pre>					

資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名競争入札により決定しており、妥当であったと考えられる。 ○予算規模は、積算基準等に基づいて編成しており、適正であったと考えられる。 ○費目・使途について委託業務に必要な除草清掃費用、プランター灌水費用を計上しており、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	豊見城市						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑥	豊見城市景観重点地区調査検討事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-7			
担当部署名	都市計画部 都市計画課	事業実施(予定)年度	平成28~29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際的な沖縄観光ブランドの確立 Ⅲ-1-(1)		
事業内容	市景観計画に基づき、本市の自然や歴史・文化資源などの地域資源をまもり、育て、豊見城らしい景観まちづくりを推進し、地域資源を活用した新たな観光資源の創出や地域の活性化を図るため、景観重点地区(モデル地区)の指定に向けた、調査・検討を行う。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	8,498				
		(b) 予算現額	5,832				
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 2,666				
		(d) 繰越額	-				
		A. 計 (b+d)	5,832				
	B. 執行済額		5,832				
	うち交付金充当額		4,665				
	次年度繰越額		-				
	執行率 (%) (B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		発注の際、懇談会の開催数減等の業務内容の精査をした結果、交付決定額よりもプロポーザルの上限額が下回ったため、2,666千円減額した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			28年度	29年度	30年度	31年度	
	地域資源、住民意向を把握し、重点地区指定に向けて、住民の合意形成を図り地区方針等を検討する。	目標	(検討)	()	()	()	
		実績	検討				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	景観重点地区の指定に向けた調査・検討業務を発注(住民アンケート・地区住民懇談会・景観まちづくり塾・景観まちづくり審議会・庁内検討会議)し、景観重点地区の区域(案)及び景観まちづくりの目標(案)・方針(案)・方針図(案)を作成した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)
	景観重点地区指定基礎調査報告書の作成	目標	()	(報告書の作成)	()	()	()
		実績		報告書の作成			
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	景観重点地区の候補である「字豊見城地区」の指定に向けて、地域資源及び住民の意識調査を行いながら、地区住民懇談会等を通じて、本事業の周知及び啓発を図り、地区指定に向けて必要な基礎資料(報告書)を作成し、目標を達成した。					

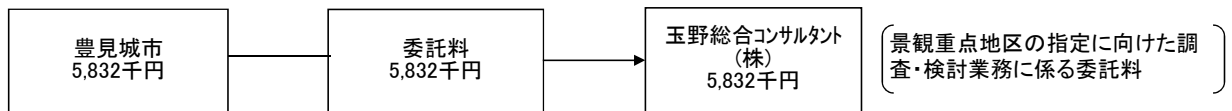
推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	景観重点地区の具体的なイメージや地区の景観まちづくりに対する行政の関わり方を示すことができず、地区住民等の役割に対する主体性を導き出せなかった。	地区OB会や婦人会、青年会等の幅広い世代で構成された組織づくりを図り、地区住民等の役割を明確にし、多くの住民等が参画できる機会を提供する。

今後の取り組み方針

景観重点地区の指定に向け、地域の実情に応じたルール(景観形成基準)を作成するため、専門家や住民代表等による協議及び検討会議を開催するとともに、地区住民の合意形成を図るため、引き続き説明会を実施する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
5,832	5,832	4,665	1,167	0



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は指名型プロポーザル方式で選定しており、妥当であったと考えている。 ○予定した価格で執行でき、適正な規模であった。 ○費目・用途については、完了検査を実施し適正なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		豊見城市					
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑦		新たな公共交通システム導入可能性調査検討事業		第3章-3-(2)-7		
	国際的な沖縄観光ブランドの確立						
担当部署名	都市計画部 都市計画課		事業実施(予定)年度	平成28~32年度		沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)
事業内容	公共交通機関の利用低下や沖縄県が行う鉄軌道を含めた新たな公共交通システムに対応し、観光客・住民の生活利便性の向上及び産業の振興を図るため、本市における公共交通の現状把握及び課題整理、新たな公共交通システムの導入の意義、将来像やモデルルートの設定と需要予測、実現に向けた施策の展開等の調査及び検討を行う。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	予算の状況	(a)当初予算額	13,952				
		(b)予算現額	13,952				
		(c)増減額(b-a)	0				
		(d)繰越額	-				
		A.計(b+d)	13,952				
	B.執行済額		13,889				
	うち交付金充当額		11,111				
	次年度繰越額		-				
	執行率(%) (B/A)		99.5%				
予算の状況の説明		計画的な予算執行に努め業務を遂行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			28年度	29年度	30年度	31年度	
	新たな公共交通システム導入可能性の調査及び検討	目標	(調査及び検討)	()	()	()	
		実績	調査及び検討				
		目標	()	()	()	()	
実績							
達成状況説明	委託により業務を発注し、調査及び検討を行った。調査及び検討の主旨は以下のとおり。 ・沖縄県バスOD調査を活用し公共交通の現状分析を行った。また、市民アンケート、市内一周バスアンケート及び観光客アンケートを実施して利用実態調査及び課題整理を行った。 ・第3回沖縄本島中南部都市圏パーソントリップ調査を中心としたデータ等を活用し本市に望ましいシステム・ルートを設定。需要予測、実現に向けた展開を検討した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)
	新たな公共交通システム導入可能性調査検討報告書の作成	目標	()	(報告書の作成)	()	()	()
		実績		報告書の作成			
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	以下の内容の報告書を作成したことにより、目標を達成した。 ・地域特性と公共交通の現状分析 ・利用実態調査及び各種ニーズの把握 ・公共交通に関する課題の整理 ・新たな公共交通体系の立案 ・将来の公共交通体系(将来像)の実現に向けた施策の検討 ・今後の検討課題 ※基幹軸については、市の厳しい財政状況を勘案し、将来的に国・県に要望していくことを明記した。						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>本市における道路混雑や市内の東西アクセス問題及びバスの定時・速達性の課題等を背景として当該事業を実施する運びとなった。</p> <p>取り組んだ内容として、公共交通現状分析、アンケート等を通じた利用実態調査、課題整理、新たな公共交通体系の立案及び実現に向けた検討を行った。</p> <p>事業を推進する上で明らかになった課題として、①那覇市等への広域的なモビリティの確保、②とみぐすく「まちの顔」拠点づくり等の拠点整備へのネットワーク化③高齢者等の交通弱者に対するモビリティの確保④観光客の周遊行動を支援するモビリティの確保⑤公共交通に対する意識啓発の必要性が挙げられる。</p> <p>また、将来的に、幹線軸について本市の財政状況を勘案すると市の単独負担は厳しい状況であることがわかった。</p>	<p>【短期】・既存主要バス路線の活用・市内105系統(一周バス)の再編・モビリティマネジメントの実施・バス待ち環境の改善等⇒左記③・⑤の課題の改善策</p> <p>【中長期】・幹線軸、支線軸、ディマンド交通の導入による階層的な交通体系の実現・各交通手段を結節する交通ターミナルの整備⇒左記①・②・③の課題の改善策</p> <p>【短期/中長期】・観光拠点を結ぶ幹線、支線軸の導入等⇒左記④の課題の改善策</p>

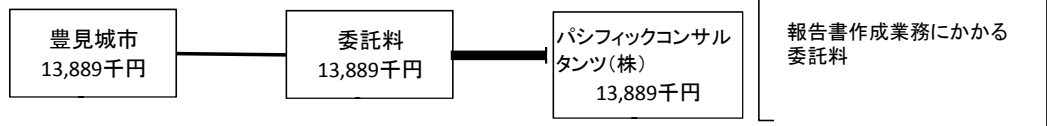
今後の取り組み方針

幹線軸導入前(短期)における今後の取組みは、(市内一周バス再編)社会実験に向けた実験計画を作成し、当該計画についてバス事業者等の関係者との調整を行う。また、公共交通の利用促進に向け、効果的に実施可能な施策(バス待ち環境の改善やモビリティマネジメント等)の検討も行う必要がある。

中長期的な取組みについては、幹線軸において上下分離方式等を踏まえた整備スキーム及び事業費削減に向けた検討を行い、自動車交通の影響や実際の導入空間を踏まえた概略ルートの精査を行っていく。また、支線軸となる公共交通の導入の検討や交通施設(ターミナル等)の整備検討も必要となる。そのため、今後の事業推進にあたっては、中長期的な公共交通の導入については、21世紀ビジョンにも示されている「中南部都市圏を縦貫する公共交通」として位置付けられるよう、関係機関との協議調整を行うとともに、短期的な対策として市中のバス路線ネットワークの改善を検討する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
13,889	13,889	11,111	2,778	0



資金の流 れ、費 目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○公募型プロポーザル方式による選定方法(随意契約)である。受注業者の広範かつ高度な知識と専門性、応用力、想像力、豊かな経験が求められる為、本選定方法は妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○執行率は99.5%であり、予算規模は適正な規模であった。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については、完了検査を実施し適正なものであったと判断した。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

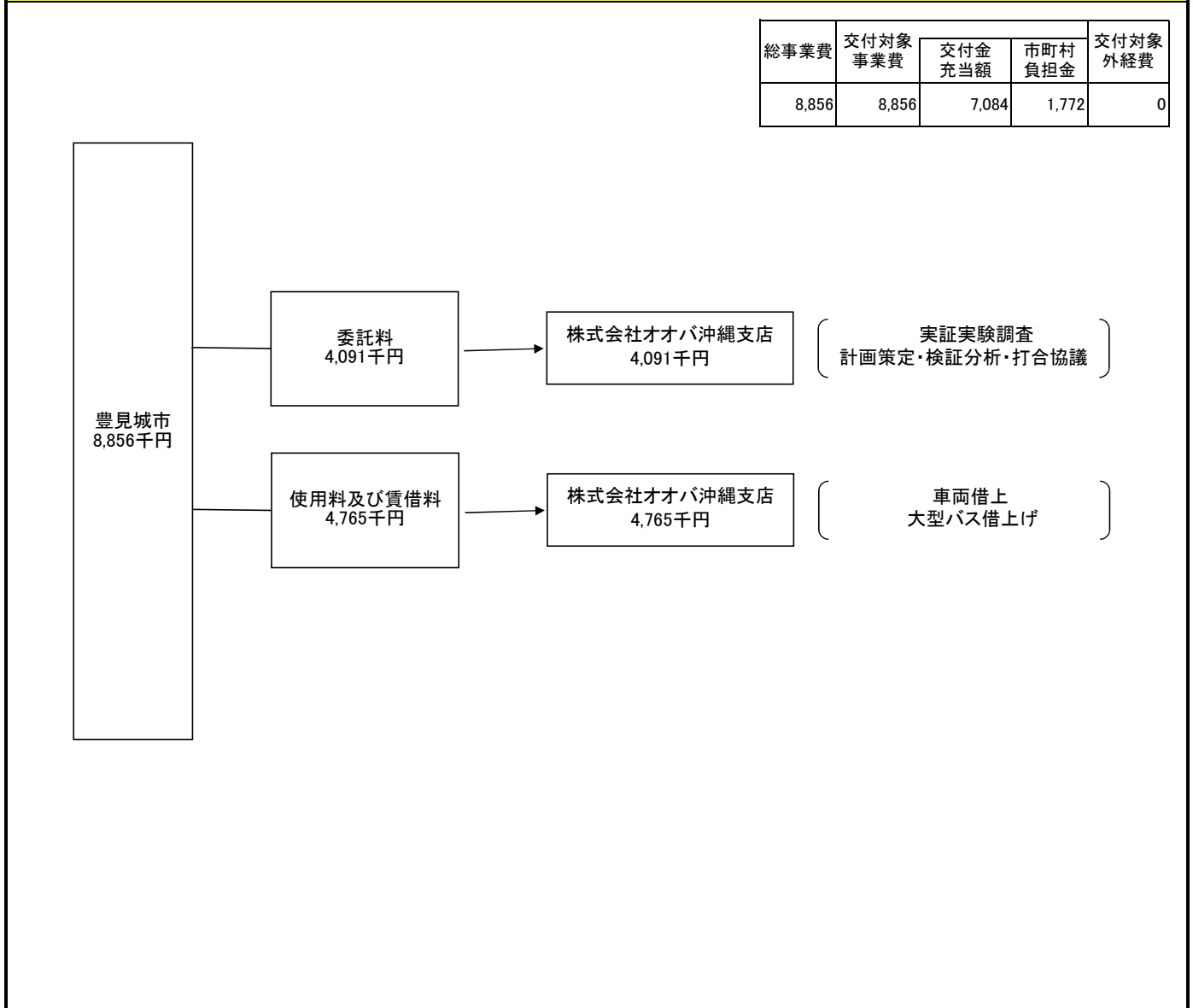
市町村名		豊見城市					
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑧	豊崎総合公園シャトルバス実証実験事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(7)-ウ		
	担当部課名	経済建設部 公園緑地課	事業実施(予定)年度	平成28年度	人に優しい交通手段の確保		
				沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)		
事業内容		豊見城市民体育館におけるイベント時の駐車場対策に対応するため、豊崎総合公園内のビーチ側から市民体育館までを往復するシャトルバスの試行・運行を実施する。					
実施方法		<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()					
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	10,259				
		(b) 予算現額	8,856				
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 1,403				
		(d) 繰越額	—				
		A. 計 (b+d)	8,856				
	B. 執行済額		8,856				
	うち交付金充当額		7,084				
	次年度繰越額		—				
	執行率 (%) (B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		入札の結果、契約額が積算よりも減となったことから不用となる1,403千円を減額した。入札により当初予算見積額より事業費を減額できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			28年度	29年度	30年度	31年度	
	バス運行の計画検討 大型バス2台/日	目標	(大型バス2台/日)	()	()	()	
		実績	大型バス2台/土日祝 大型バス1台/平日				
			目標	()	()	()	
		実績					
達成状況説明		実証実験調査の打合せ、協議を行いながら業務計画書、実証実験運行計画書を作成してシャトルバスを運行し、バス運行の計画検討を行った。豊見城市民体育館指定管理者との調整の結果、土日祝日の運行本数増、運行時間延長を行うこととし、平日は大型バス1台で運行することとしたため、大型バス2台での運行は平日に関しては達成できなかった。シャトルバスを運行する場合、イベントと一体的に実施することが効果的であることや運行経費を運賃で賄うことが難しいこと、バス車両の確保のため運行計画を立てる必要があるがイベントと一体的に実施することが困難となること、ビーチ側でイベントがある場合、駐車場の総量が不足すること、シャトルバスを安全に快適に運行させるためには、誘導標識の整備等の施設整備が必要であるなどが分かった。バス運行の計画を十分に検討した。					
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)
	実証実験の結果を出し、シャトルバス運行に向けての運営計画の策定	目標	()	(運営計画の策定)	()	()	()
		実績		運営計画の策定			
			目標	()	()	()	()
			実績				
進捗状況説明		豊見城市民体育館におけるイベント時の駐車場対策として、豊崎総合公園内のビーチ側から市民体育館までを往復するシャトルバス運行が有効かなど調査分析を行った。シャトルバスの利用者数を運行便別に把握し、利用者にはアライン調査を実施した。シャトルバスの利用があったのは市民体育館でのイベント実施日のみで、イベント主催者の案内により利用の促進が図れることが分かった。イベントと一体的に運行することが効果的である。運行計画書や協議簿、シャトルバス運行に向けての運営計画の検討結果として報告書を作成し、目標を達成した。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>豊見城市民体育館におけるイベント時は、駐車場が満車になり、体育館周辺が混雑することがある。イベント主催者は、教育目的など収益目的でない場合が多く費用がかかる警備員の確保などが難しい。</p> <p>シャトルバスの利用があったのは市民体育館でのイベント実施日のみであった。そのため、イベントと一体的に運行する必要があると考えられる。</p> <p>シャトルバスにより、市民体育館側の駐車場不足やそれに伴う周辺の渋滞などの問題に対して一定の効果があると判断されるが、ビーチ側のイベント状況によってはビーチ側と市民体育館側の駐車場そのものが不足する可能性が高く、シャトルバス運行だけでは問題解決は難しいと考えられる。</p>	<p>駐車場の新設や立体駐車場の増設、駐車場の有料化や公共交通利用促進による対策、イベント主催者によるシャトルバス運行は豊見城市民体育館におけるイベント時、駐車場が満車のために発生する混雑の解消に役立つと考えられる。また、駐車場の有料化については、体育館利用者の車の乗り合い、公共交通利用促進に繋がると考えられる。</p> <p>駐車場の増設は、高額な費用がかかるため実現には時間がかかる。駐車場有料化や公共交通利用促進による利用制限は利用者が減少する可能性がある。イベント主催者によるシャトルバス運行は効果的だが、バス車両の確保、非収益イベント時の費用の捻出などに課題がある。</p>

今後の取り組み方針

バス運行の実験を基に定期的な運行について検討したが、駐車場が満車となり混雑が発生するのは豊見城市民体育館におけるイベント時であり、シャトルバスの定期的な運行を行ったがほとんど利用されない時間帯も発生し、費用対効果がとても悪く、費用や設備、運行計画などで課題があり、ビーチ側のイベント状況によってはビーチ側と市民体育館側の駐車場そのものが不足する可能性が高く、シャトルバス運行だけでは問題解決は難しいためシャトルバスの定期運行は行わないこととした。一方、都市公園施設である駐車場を、民間企業等に有料駐車場として管理させる駐車場の有料化について検討を継続する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○業者選定は、本市指名委員会で選定した業者を指名競争入札により選定しており、妥当であったと考えている。 ○事業に見合った予算規模で適正であったと考えている。 ○費用・使途については、事業目的の観点から必要なものなのか等について額の確定時において検査、確認しており、適正であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	豊見城市						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑨	豊崎海浜公園景観保全事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ		
担当部課名	経済建設部 公園緑地課	事業実施(予定)年度	平成28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備		
事業内容	公園利用者の休養・散策・運動等に供する施設の提供として、公園内にある枯損木の植え替えを行う。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
	(a) 当初予算額	6,669					
	(b) 予算現額	5,588					
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 1,081					
	(d) 繰越額	—					
	A. 計 (b+d)	5,588					
	B. 執行済額	5,588					
	うち交付金充当額	4,470					
	次年度繰越額	—					
	執行率 (%) (B/A)	100.0%					
予算の状況の説明	入札の結果、工事請負費が積算よりも減となったことから不用となる工事請負費1,080千円を減額した。						
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)	達成状況					
			28年度	29年度	30年度	31年度	
	景観保全工事を行う。	目標	(工事実施)	()	()	()	
		実績	工事実施				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	豊崎海浜公園を花と緑あふれる沖縄らしい風景にし、公園利用者に休養・散策・運動等に供する施設を提供するため、公園内の現況調査を行い、工法の検討、設計、景観保全工事を実施した。現地調査、樹木選定、工事費を算出して工事設計書を作成し、年間管理計画表や工事施工計画書に沿って景観保全工事を行い目標を達成した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)	基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)	
	沖縄らしい景観を保つことにより、観光客増加を図りたい。	目標	()	(景観の保全)	()	()	()
		実績		景観の保全			
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	景観保全工事を行い目標を達成した。沖縄らしい景観を保つことにより観光客増加を図り、今後も公園指定管理者と共に観光地としての広報活動を行う。公園指定管理者にて公園利用者数の把握を行い、イベント等の実施を図る。						

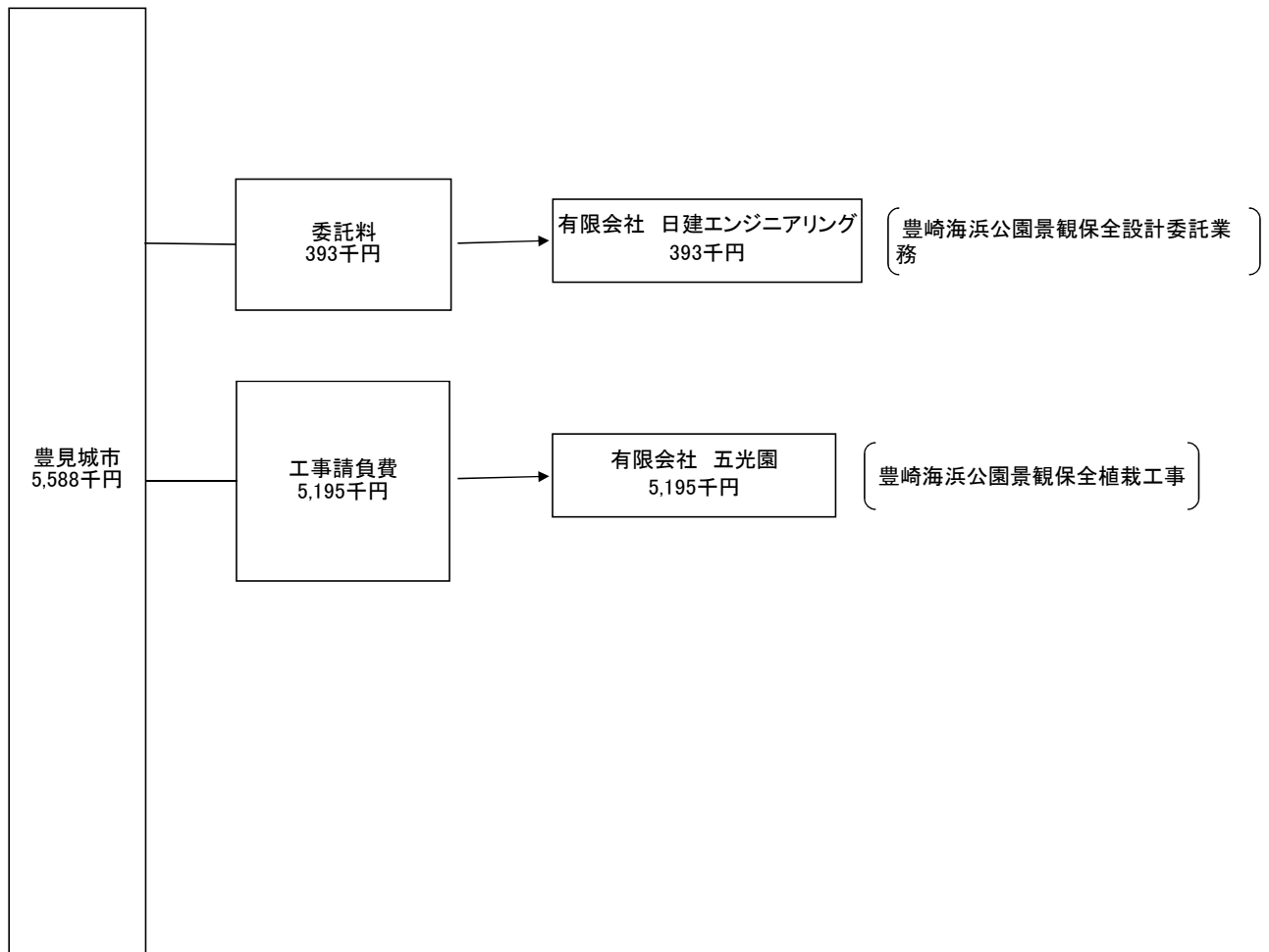
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	豊崎海浜公園に植える樹木の選定は、自然環境の保全と防風、防潮機能を考慮する必要がある。また、冬場の季節風や夏場の台風の被害を受ける環境下にあるため、定着するまで支柱が必要となる。そのため、公園内の現況調査や設計を経て景観保全工事を行った。	樹木が定着した際には支柱の撤去を検討し、緑化保全を行いながら更なる景観性の向上を図る。公園指定管理者と共に植栽管理を徹底し、植栽保全、景観保全を実施する。そして、更なる観光客増加を図る。

今後の取り組み方針

公園指定管理者から植栽管理、公園管理について報告させ、観光客増加に寄与するイベント状況、公園利用者数についても情報共有し、公園指定管理者における適切な管理を行い、景観を保全し公園の景観性向上を図り、更なる観光客増加を図る。今後も公園指定管理者と共に観光地としての広報活動を行い、公園利用者数の把握、イベント等の実施を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
5,588	5,588	4,470	1,118	0



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○工事業者選定は、本市指名委員会で選定した業者を指名競争入札により選定しており、妥当であったと考えている。 ○事業に見合った予算規模で適正であったと考えている。 ○費用・用途については、事業目的の観点から必要なものなのか等について額の確定時において検査、確認しており、適正であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	豊見城市						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑩	観光力向上事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-エ		
担当部課名	企画部 商工観光課	事業実施(予定)年度	平成28~30年度	沖縄振興基本方針該当箇所	世界に通用する観光人材の育成 Ⅲ-1-(1)		
事業内容	豊見城市の各種計画を踏まえ、将来への展望、背景等を考慮した提案を幅広く受け、豊見城市の観光に資するための人材育成を行い、今後の観光客の受け入れ態勢の充実を図る。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	10,000				
		(b) 予算現額	10,000				
		(c) 増減額 (b-a)	0				
		(d) 繰越額	-				
		A. 計 (b+d)	10,000				
	B. 執行済額		9,998				
	うち交付金充当額		7,997				
	次年度繰越額		-				
	執行率 (%) (B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		9月に総事業費の30%2,999千円を概算払い、3月に実績報告に基づき6,998千円を精算払いとした。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			28年度	29年度	30年度	31年度	
	観光に資する人材を育成するための事業実施	目標	(事業実施1件)	()	()	()	
		実績	事業実施1件				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	中国語及び観光英語、地域学、ホスピタリティ等を学ぶ講座を実施。8月に広報活動を行い9月開講。当初36名の申込みにに対し22名受講者を決定し、9月~2月の約半年、1回3時間の週3回のカリキュラムで計64回(207h)の講座を開催。現場実践や成果発表会を実施した。(延べ参加人数661)						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)
	人材育成された者等にアンケートを実施し【満足・やや満足・普通・やや不満足・不満足】の5つに分類し、不満足度が40%以下を目標値とする。※不満足度=やや不満足、不満足合計割合。	目標	()	(40%以下)	()	()	()
		実績		0%			
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	アンケート回収率45%うち、満足度が100%(満足80%、やや満足20%)となり、結果、不満足度が40%以下となったので目標が達成できた。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>中国語学習の初心者が多く、比較的短期の講座期間でカリキュラムに対応できるのか、また個人のやる気と生活状況等個人的な要因で成果に大きな違いが生じる。</p> <p>①夜間の授業では、就労者は特に日中業務の都合や繁忙期など欠席が多いことが課題。</p> <p>②夜間講座中の防犯への対応が必要。</p> <p>③講座レベルに追い付けない受講生へのフォローアップ及びモチベーション維持に取り組む必要がある。</p> <p>④受託者の当初企画提案内容の変更に関し、事後報告もあり、情報交換を定期的に行う必要がある。</p>	<p>①及び②について →1か所で夜間に開催する講座は、参加できる人材が限られ、安全面でも開催場所によって状況が変わる為、講座の開講形態や場所、時間帯の柔軟な対応の検討が必要。また、開校後、早期の段階で参加しない受講生も発生するため、勤務環境や家族の協力体制など事前の聞き取りを検討する。</p> <p>③について →検定試験等については、受講生のレベルに合うものを適切に選択することで、合格率向上につなげ受講生のモチベーションを維持させる。また、欠席者防止も含め、カリキュラムに成功事例の人物紹介や観光産業で活躍する具体例などを盛り込み、将来に向けてイメージを持たせることで、より学習意欲につながるような座学以外の工夫を検討する。</p> <p>④について →定期的な報告日及び内容をあらかじめ設定する。</p>

今後の取り組み方針

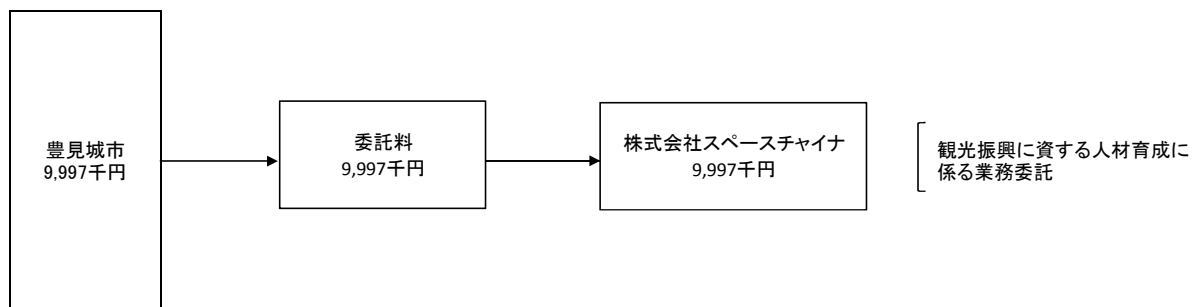
①及び②について:研修の実施形態、場所、時間帯の再検討が必要とみなし、募集を市民対象ではなく、市内観光産業等の事業所に従事する者を対象に、人材育成研修を募集する。また、実施場所については、一定の場所で夜間に行うのではなく、人材育成を希望する事業所にて日中開催するなど、出前支援的な形態を進めていく。

③について:受講生のモチベーションの維持及びフォローアップに関しては、座学中心型だけでなく、モニターアールの開催、ワークショップやセミナー等の実施、先進地視察を取り入れ、カリキュラムに工夫をこらす。(対象事業所との調整も)検定試験については、導入すると試験対策へ時間がとられより多彩なカリキュラムの実施が難しくなる面も想定されるので、受託者と協議し決める。

④について:月1回の報告会を設ける

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
9,997	9,997	7,997	2,000	0



資金の 使途の 流れ、 点検、 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○公募型プロポーザルにより受託業者を選定しており妥当と考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、当該事業の専門性をもつ受託事業所の少なさ、講座開催回数、夜間実施等を考慮し、事業達成の為に必要なものと判断した。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○検定受験料は受益者負担とし妥当と判断した。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目設定は考慮の余地があったが、使途については事業目的達成の為に必要なものと判断した。

市町村名	豊見城市						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑪	豊崎美らSUNビーチ浚渫基礎調査事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(6)-ア	
担当部課名	経済建設部 公園緑地課	事業実施(予定)年度	平成28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄らしい風景づくり Ⅲ-1-(1)	
事業内容	公園利用者の利便性向上のため、豊崎美らSUNビーチの南北2つの浜の測量・潮流等の調査業務を行う。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	19,829				
		(b) 予算現額	19,008				
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 821				
		(d) 繰越額	-				
		A. 計 (b+d)	19,008				
	B. 執行済額		19,008				
	うち交付金充当額		15,206				
	次年度繰越額		-				
	執行率 (%) (B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		入札の結果、契約額が積算よりも減となったことから不用となる821千円を減額した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			28年度	29年度	30年度	31年度	
	豊崎美らSUNビーチ基礎調査業務の実施	目標	(基礎調査業務完了)	()	()	()	
		実績	基礎調査業務完了				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	基礎調査業務を実施し、平成28年度内に業務を完了することが出来た。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)
	豊崎美らSUNビーチ基礎調査業務を実施し、対策工法の検討を行う。(基礎調査完了)	目標	()	(基礎調査完了)	()	()	()
		実績		基礎調査完了			
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	現況測量・潮流調査・解析・砂が堆積するシミュレーション・対策工法検討について報告書としてまとめる、基礎調査を完了し、成果目標を達成することが出来た。					

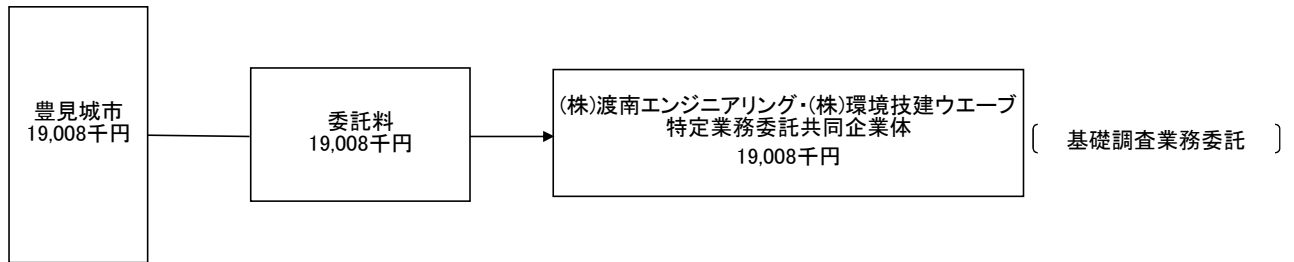
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>豊崎美らSUNビーチの利用者の利便性向上を図るために、堆積している砂の撤去および今後砂の堆積による遊泳やマリンスポーツの影響が出ないように対策工法の検討に取り組んだ。</p> <p>豊崎美らSUNビーチの利用者は、民間企業が観光関連施設の整備により、今後も増加が見込まれるため、整備に向けて検討を重ねることが重要である。</p>	<p>基礎調査業務において、対策工法の検討にて最良の工法を決定したが、海岸へ構造物設置は、ビーチ前面の漁場に潮流の変化等による影響等が考えられるため、シミュレーション結果のみならず、実際の工事を行う前に模型実験等を行い、対策工法の詳細な検証を行った上で、対策工事を行っていく必要がある。</p>

今後の取り組み方針

豊崎美らSUNビーチの利便性向上に向けた今後の整備を行う目的で基礎調査を実施し、対策工法検討の結果より今後の整備や継続的な維持管理において多額の費用が発生することが分かり、また対策を行うことによる漁業や景観を損ねる懸念があるため、本市関係部署及び地元漁業協同組合等と慎重に議論を重ね、堆積した砂の除去方法等の検討を行っていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
19,008	19,008	15,206	3,802	0



資金の用途の流れ、費目・	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○委託の業者選定は、本市指名委員会で選定した業者を指名競争入札により実施しており、妥当であったと考える。</p> <p>○予算規模については、基礎調査を行う上で必要と考える項目を精査し積算を行っており適正であったと考える。</p> <p>○費用・使途については、事業目的の観点から、額の確定時において検査、確認しており、適正であった。</p>
	○	予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	豊見城市						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑫	豊崎海浜公園東屋改修事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ		
担当部課名	経済建設部 公園緑地課	事業実施(予定)年度	平成28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備		
					Ⅲ-1-(1)		
事業内容	公園利用者が快適に施設を利用できるよう、東屋の柱のタイル工を行う。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額 (b-a) (d) 繰越額 A. 計 (b+d)		7,917				
			7,612				
			▲ 305				
			—				
			7,612				
	B. 執行済額		7,612				
	うち交付金充当額		6,089				
	次年度繰越額		—				
	執行率 (%) (B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		入札の結果、委託費と工事請負費が積算よりも減となったことから不用となる委託費63千円と工事請負費242千円、併せて事業費305千円を減額した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			28年度	29年度	30年度	31年度	
	東屋の柱のタイル張り工事の実施	目標	(工事実施)	()	()	()	
		実績	工事実施				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	豊崎海浜公園の東屋の柱の塗装が剥がれ景観も悪いため、東屋を改修、長寿命化し、公園利用者が快適に施設を利用できるよう東屋の柱のタイル張り工を実施した。現地調査、工法の検討、工事費を算出して工事設計書を作成し、工程表に沿ってタイル張り工を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)
	東屋の柱のタイル張り工の完了	目標	()	(工事完了)	()	()	()
		実績		工事完了			
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	東屋の柱のタイル張り工を行い、剥がれた塗装へ対応し景観性を向上させ、東屋を改修、長寿命化を図った。対象の東屋の柱のタイル張り工事が完了し目標を達成した。公園利用者が快適に施設を利用できるよう適切な管理を実施する。					

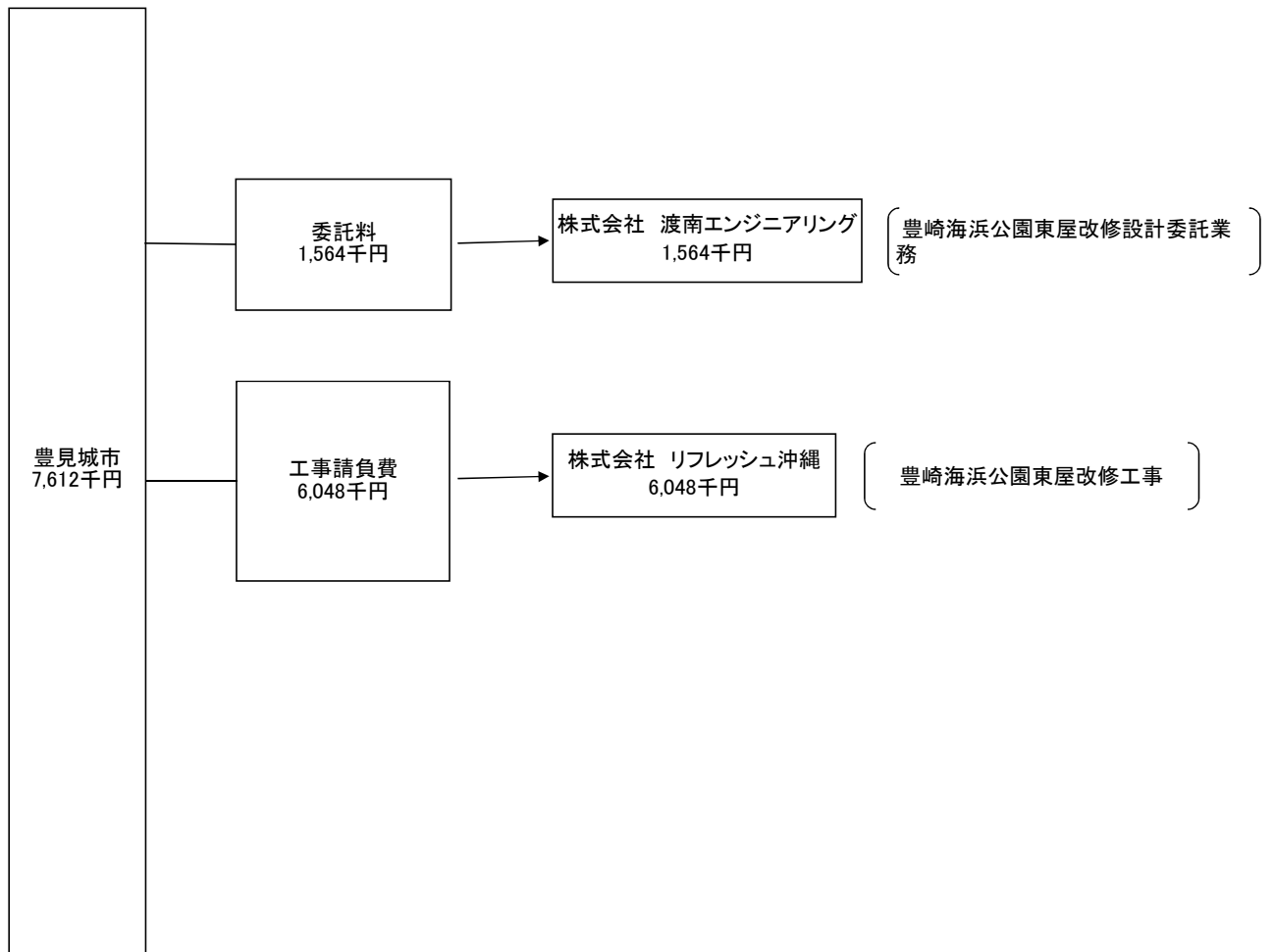
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>豊崎海浜公園の東屋の柱の塗装が砂の飛散により剥がれており、景観が悪く、劣化しているため東屋の柱をタイル張りに改修、長寿命化を図り、公園利用者が快適に施設を利用できるようタイル張り工事を実施した。豊崎海浜公園では防風、防潮について考慮する必要がある。そのため、公園内の現況調査や設計を経てタイル張り工事を行った。</p>	<p>豊崎地区は、民間企業による観光関連施設の整備も進められていることから、今後更なる集客が見込まれるため、今後も公園利用者が快適に施設を利用できるよう配慮していく必要がある。</p>

今後の取り組み方針

工事を行った柱について、タイル張りとしたことで一定の長寿命化は図れたが、そのタイルが剥がれないよう公園指定管理者に管理させ、施設の長寿命化を図り、施設を健全な状態で保つことにより、景観を保全し、公園利用者が快適に施設を利用できるよう配慮する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
7,612	7,612	6,089	1,523	0



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○業者選定は、本市指名委員会で選定した業者を指名競争入札により選定しており、妥当であったと考えている。</p> <p>○事業に見合った予算規模で適正であったと考えている。</p> <p>○費用・用途については、事業目的の観点から必要なものなのか等について額の確定時において検査、確認しており、適正であったと考えている。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

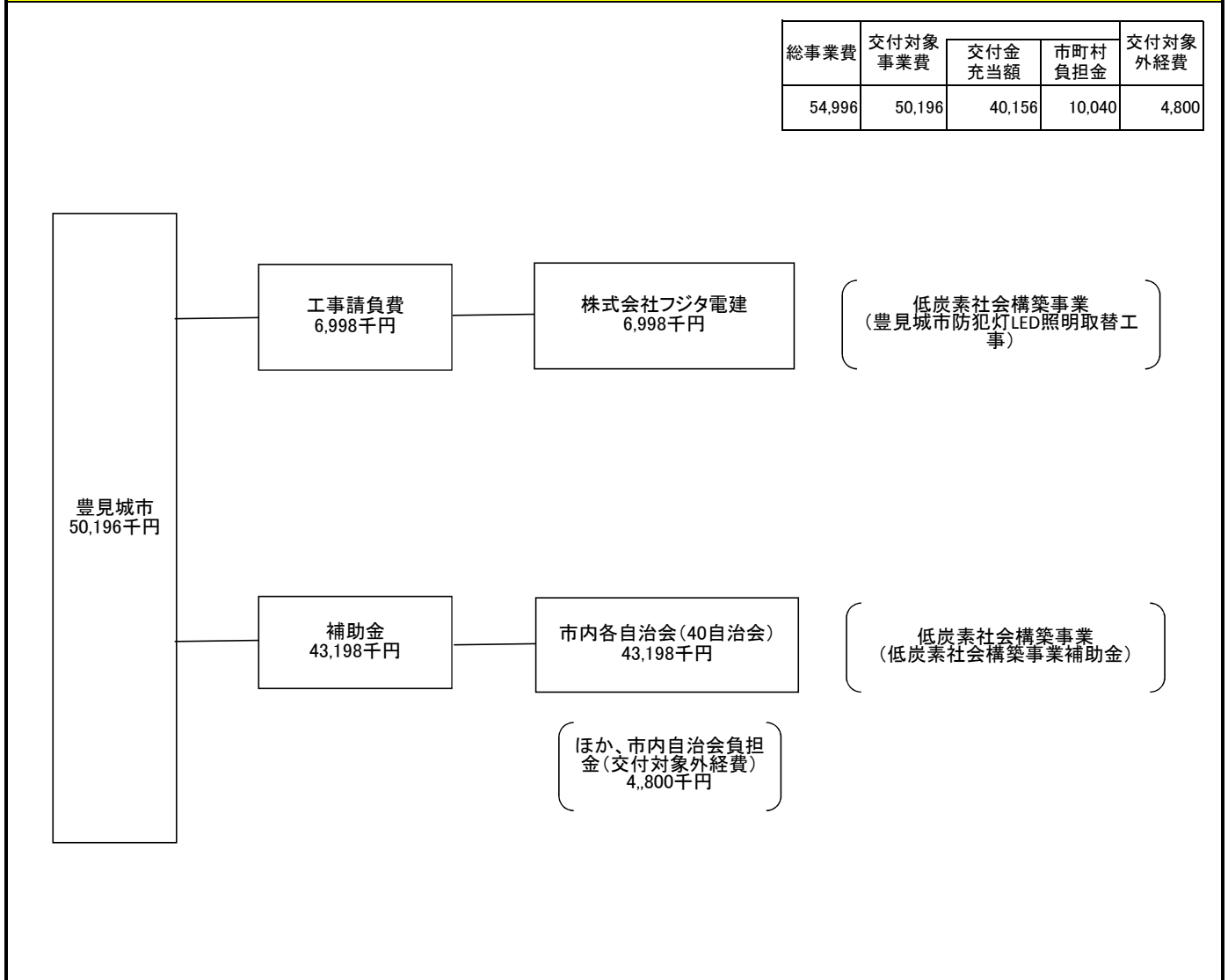
市町村名		豊見城市					
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-① 低炭素社会構築事業(省エネ設備導入促進事業)		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-1-(3)-ウ		
	市民健康部 協働のまち推進課		事業実施(予定)年度 平成26~28年度		低炭素都市づくりの推進		
担当部課名			沖縄振興基本方針該当箇所		Ⅲ-10-(2)		
事業内容	積極的な省エネルギー設備の導入により環境負荷の少ない低炭素社会の構築を図るため、防犯灯(水銀灯、蛍光灯)等を環境負荷の少ないLED照明に切り替え、温室効果ガス(CO2)の排出を抑制する。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			26年度	27年度	28年度	29年度	29年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	11,700	45,000	57,788		
		(b) 予算現額	11,124	44,795	50,261		
		(c) 増減額(b-a)	▲ 576	▲ 205	▲ 7,527		
		(d) 繰越額	-	-	-		
		A. 計(b+d)	11,124	44,795	50,261		
	B. 執行済額		11,124	44,325	50,196		
	うち交付金充当額		8,899	35,459	40,156		
	次年度繰越額		3	-	-		
	執行率(%) (B/A)		100.0%	99.0%	99.9%		
予算の状況の説明		当初、防犯灯約700基のLED化を予定していたが、事業を実施しない自治会があったため、その分の予算を12月補正で減額した。不用額65千円は入札残や、事業実施自治会の事業実施費減に伴う残額である。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	自治会等所有の防犯灯約700基をLED化	目標	(900基)	(約700基)			
		実績	690基	667基			
	豊見城市所有の防犯灯約80基をLED化	目標	()	(約80基)			
		実績		87基			
達成状況説明	当初は自治会が所有する防犯灯約700基をLED化する予定であったが、予算を確保できず、事業を実施できない自治会があったため、667基のLED化となり、当初の活動目標を達成することができなかった。市所有の防犯灯については、平成26年度調査の際に確認したLED切替え対象87基全てをLED照明に切り替えた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(27~28年度)
	自治会等が設置した防犯灯等が排出するCO2約126,892kg減量 基準年度:平成26年度(422,976kg) 自治会等及び豊見城市が所有している防犯灯等の温室効果ガス(CO2)排出量の合計値	目標	(116,915kg)	(126,892kg)			
		実績	150,601kg	121,621kg			
	【参考指標】 ※全体の目標値 自治会が設置した防犯灯等が排出するCO2約253,785kg(約60%)の削減 基準年度:平成26年度(422,976kg) 自治会及び豊見城市が所有している防犯灯等の温室効果ガス(CO2)排出量の合計値	目標	()	()			(約60% 約253,785kg)
		実績					64.3% 272,222kg
	進捗状況説明	当初は、基準年度である、平成26年度(422,976kg)のCO2排出量に対し、126,892kg(約30%)の削減を目標としたが、予算を確保できず、事業を実施できない自治会があり、121,621kg(28.7%)の削減となり、当初成果目標を達成することができなかった。事業全体(参考指標)でみると、目標値(253,785kg※約60%の削減)に対し、272,222kg(64.3%)の削減を達成することが出来た。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	低炭素社会構築事業にあたり、CO2排出量を30%削減する目標を設定。平成28年度には、市内自治会が所有している防犯灯のうち667基及び、市が所有している防犯灯87基について環境負荷の少ないLED照明への切替えを行い、28.7%のCO2削減となった。成果目標を達成できなかった要因としては、事業を実施する自治会において、自治会負担分の事業費の確保が出来ず、事業を実施することが出来なかったことがあげられる。	<ul style="list-style-type: none"> 事業を実施できなかった自治会へ市が単独で予算を確保することは厳しい。今後は、市が毎年度予算を組んでいる防犯灯が故障した際に活用できる修繕補助金を使い、修繕の際にLED照明に切り替えられるようにする。 切り替えるワット数を可能な限り低くするよう周知していれば、さらにCO2の排出量の削減に繋がっていたと考える。

今後の取り組み方針

事業自体は平成28年度で終了するが、今後、修繕補助金等による既存の防犯灯のLED照明への切り替え、及び新規設置の際には、自治会に可能な限りワット数が低い防犯灯を設置するよう自治会長会で周知を行うなどして、CO2排出量の抑制に努める。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流れ、費目・用途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○防犯灯を管理する市内自治会への支出及び、行政管理分の防犯灯工事に関しては、一般競争入札による事業者選定を行っており、選定方法は妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は事業内容に見合った適正な規模であったと考えている。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者である各自治会等は総事業費の1割を負担しており、事業内容からしても妥当であったと考えている。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・用途については、事業目的の達成のために必要なものであるということを額の確定時において支出等に関する書類により確認し、適正であった。

市町村名		豊見城市						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	2-②		低炭素社会構築事業 (給食センター省エネ設備導入促進事業)		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-1-(3)-ウ		
	担当部課名	学校教育部 学校給食センター		事業実施 (予定)年度	平成28年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	低炭素都市づくりの推進 Ⅲ-10-(2)	
事業内容	積極的な省エネルギー設備の導入により環境負荷の少ない低炭素社会の構築を図るため、照明設備(蛍光灯)を環境負荷の少ないLED照明に切り替え、温室効果ガス(CO2)の排出を抑制する。							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	1,428					
		(b)予算現額	1,286					
		(c)増減額(b-a)	▲142					
		(d)繰越額	0					
		A.計(b+d)	1,286					
	B.執行済額		1,285					
	うち交付金充当額		1,028					
	次年度繰越額		0					
	執行率(%) (B/A)		99.9%					
予算の状況の説明		入札の結果、契約額が積算よりも減となったことから不用となる142千円を減額した。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況					
			28年度	29年度	30年度	31年度		
	学校給食センターLED照明設置 (LED灯設置 234本)	目標	(234本)	()	()	()		
		実績	235本					
		目標	()	()	()	()		
		実績						
達成状況説明	照射時間の長い調理場、附帯設備(ボイラ室、残菜室、調味料室、食品庫、洗濯室、ポンプ室、消毒室、湯沸室)、事務室の蛍光灯をLED照明に切り替えた。尚、事業執行時に照明具の数量を精査しLEDを1本追加している。							
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値 (26年度)	28年度	29年度	30年度	目標値 ()	
	・学校給食センター照明施設 CO2年間削減量 7,400kg 基準年度:平成26年度(17,532kg)	目標	(17,532kg)	(7,400kg)	()	()	()	
		実績		7,400kg				
		目標	()	()	()	()	()	
		実績						
	進捗状況説明	LED照明設備の導入によりエネルギー使用の効率化が図られ、CO2排出の削減目標を達成することができた。 消費電力 × 本数 × 稼働日数 × 稼働時間 × 排出係数 = CO2年間削減量 (36W-17.8W) × 235本 × 259日 × 12時間 × 0.555 = 7,377,568 ≒ 7,400Kg						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	平成28年度現在、8,440食/年の学校給食を調理供給しているが、園児・児童・生徒の増加に伴い、平成32年度には、9,360食/年の供給が見込まれていることから、厨房設備・衛生設備等の稼働時間が長くなることが予想される。	省エネルギー設備の導入だけではなく、物資管理、給食調理、食器具洗浄・殺菌、保管等の各工程における運用においても、これまで以上に消費電力の削減・温室効果ガス排出の抑制に努め、低炭素社会の構築に向けて取り組んでいく。
今後の取り組み方針		
設備の稼働時間短縮と調理機材・衛生機材の有効活用を念頭に、物資搬入時間の調整、工程ごとの時間短縮などの運用の効率化を図り、消費電力の削減とCO2排出量の削減を図る。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
	1,285	1,285	1,028	257	0
<pre> graph LR A[豊見城市 1,285千円] --> B[工事請負費 1,285千円] B --> C[株式会社 フジタ電建 1,285千円] C --- D[省エネ設備整備(調理場LED)工事] </pre>					

資金の流 れ、費 目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○工事業業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○不用額は無く、適正な規模の事業実施であったと考えている。 ○費目、用途については、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		豊見城市					
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-①		とみぐすく産業まつり事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(9)-イ	
	企画部 商工観光課		事業実施(予定)年度	平成25~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	県産品の販路拡大と地域ブランドの形成	
担当部署名						Ⅲ-1-(7)	
事業内容	豊見城市産品を一堂に会したイベントを実施することにより、市民および観光客等に対し、市内の各種産業のPRを行い産業の振興を図る。また、異業種間での情報交換や交流の場とすることで、産業間の連携を生み出し新たな産業の創出を図る。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	予算の状況	(a)当初予算額	20,000	15,000	12,500	11,000	
		(b)予算現額	20,000	15,000	12,500	11,000	
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	
		(d)繰越額	-	-	-	-	
		A.計(b+d)	20,000	15,000	12,500	11,000	
	B.執行済額		19,723	14,524	11,672	10,775	
	うち交付金充当額		15,778	11,619	9,337	8,619	
	次年度繰越額		-	-	-	-	
	執行率(%) (B/A)		98.6%	96.8%	93.4%	98.0%	
予算の状況の説明		・実行委員会を組織し、各事業計画どおりに執行を行った。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	とみぐすく産業フェスタの開催に係る経費の負担	目標	(経費負担)	(経費負担)	()	()	
		実績	経費負担	経費負担			
		目標	()	()	()	()	
実績							
達成状況説明	予定通りにイベントを実施することができた。来場者アンケートではまた来場したいと答えた割合が98%だった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	とみぐすく産業フェスタの来場者数 36,000人 (H25:30,190人)	目標	()	(32,500人)	(33,000人)	(36,000人)	()
		実績		32,837人	中止	34,512人	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	目玉企画として「ミニとまと掘り」を実施した。集客のための広報活動として、出展者の顔入り広告を全面に打ち出した。さらに、出展者にラジオ出演していただくことで賑わい感や主催者と出展者で作り上げていくイベントであるということをアピールしたが来場者目標に届かなかった。要因として、当日は天候には恵まれたが、気温が急に下がったことで屋外でのイベントが敬遠されたことや例年開催されていた「鮮魚即売会」が漁協組合の都合上出展が厳しくなり開催できなかったことなどが考えられる。						

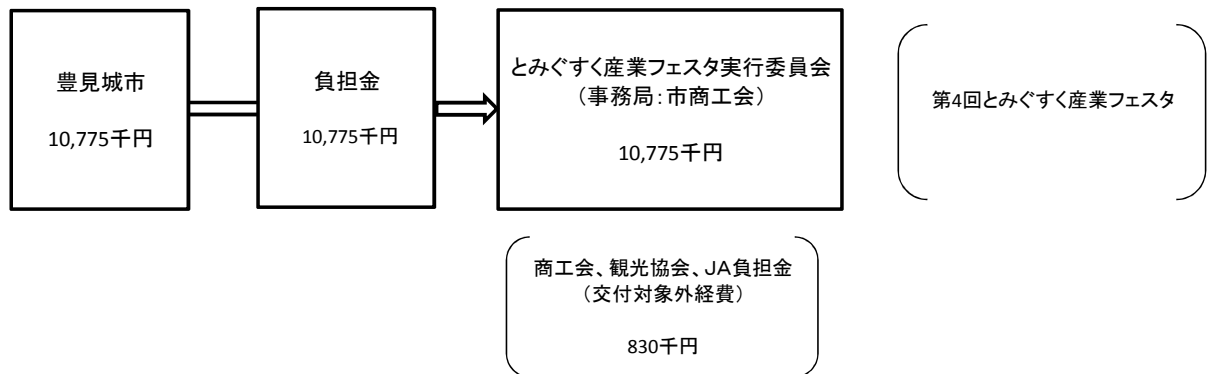
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	①来場者を36,000人目標としていたが、34,512人だった。	①各種企画に工夫が必要と考える。
	②5年後のイベントの自走化を図るため出展料を5,000円から10,000円へ変更したが、出展者のアンケートでは10,000円が上限と感じられた。	②出展料を上げて魅力があるようなイベントにするため、多くの市内業者へイベントの周知を行い、出展してもらうことで、イベントの活性を図りたい。
	③98%の方が自家用車による来場であった。駐車場についても会場近くに臨時駐車場を借りたが今後利用できるか不明のため検討が必要と考える。	③なるべく公共機関を利用して来場していただくよう周知する。

今後の取り組み方針

多くの方に来場していただくため、老若男女問わず楽しめる新たな企画の提案や出展内容の多様化をめざしていく。また、広報誌やSNS等を活用や商工会と連携し市内業者へ当イベント周知に力を入れる。加えて、市内一周線の増便やシャトルバスの運行などを予算の範囲内で検討する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
11,605	10,775	8,619	2,156	830



資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○市内の各種産業のPRを行い産業の振興を図ることを目的に、商工会を事務局とする実行委員会への負担金として支出したため、妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○祭り実施に係る必要経費の支出であったため適正だったと考える。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○各構成団体の財政規模、受益等を踏まえた負担額となっており妥当であったと考える。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○収支決算書や事業報告書を基に市の完了検査を行い、最終支出を行っているので事業目的に沿った支出であったと考える。

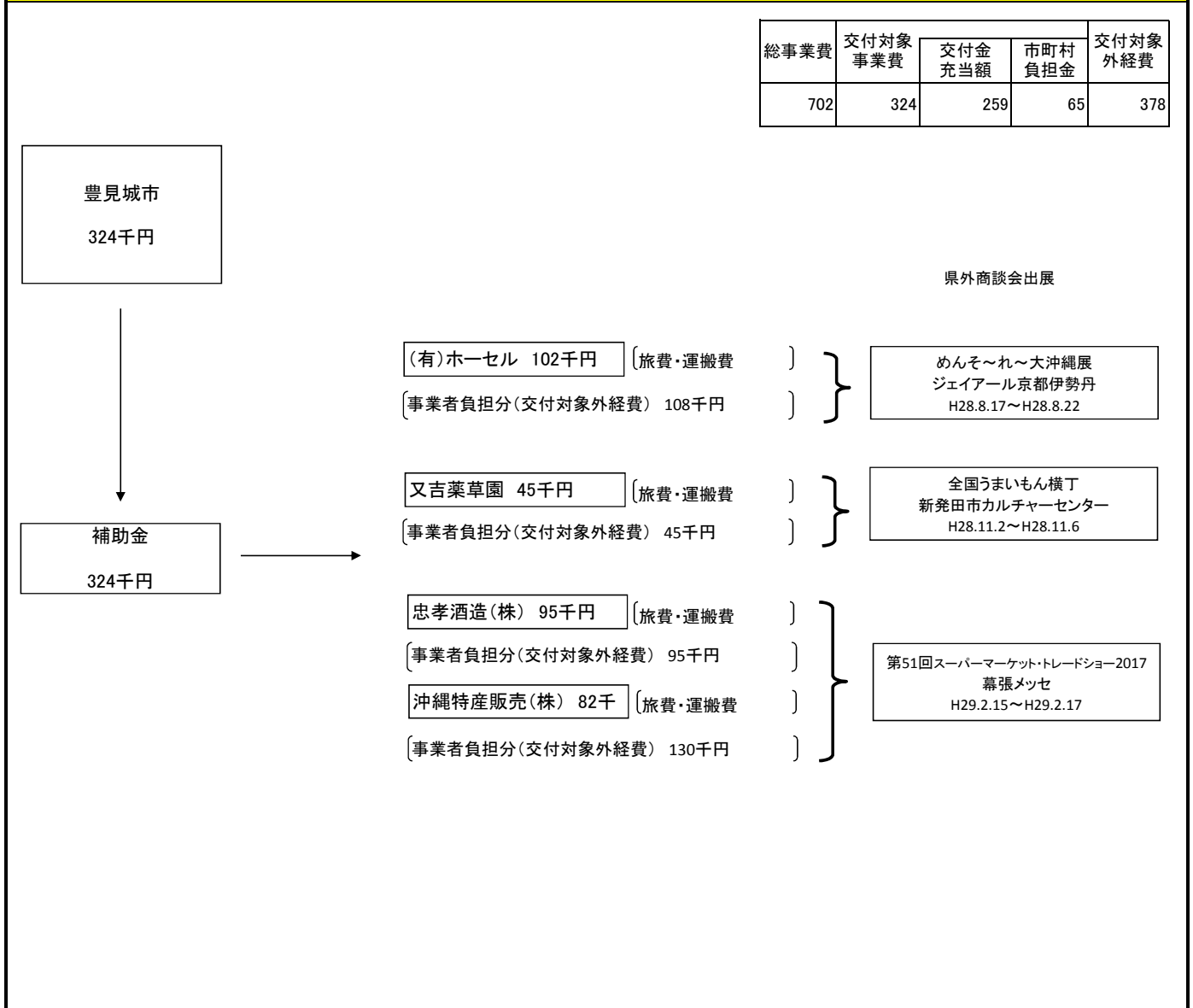
市町村名	豊見城市						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-②	県外販路拡大支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(9)-イ		
担当部課名	企画部 商工観光課	事業実施(予定)年度	平成26~31年度	沖縄振興基本方針該当箇所	県産品の販路拡大と地域ブランドの形成 Ⅲ-1-(7)		
事業内容	市内事業所が開発した商品・サービスの販路拡大を図るため県外において開催される展示会・見本市等への出展に対する支援を行う。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	3,000	3,000	1,000		
		(b)予算現額	815	1,000	1,000		
		(c)増減額(b-a)	▲2,185	▲2,000	0		
		(d)繰越額	-	-	-		
		A.計(b+d)	815	1,000	1,000		
	B.執行済額		611	601	324		
	うち交付金充当額		488	480	259		
	次年度繰越額		-	-	-		
	執行率(%) (B/A)		75.0%	60.1%	32.4%		
予算の状況の説明		平成26、27年度ともに当初予算額と執行済額に開きがあるため、平成28年度は当初予算額を1,000千円で計上するも、執行率が32.4%と少ない結果に終わっている。渡航費や宿泊費のほか、現地での出展料が20万円以上かかる物産展等もあり、小規模事業者が活用するには費用負担が大きい場合もあり、申請まで至らなかった事が考えられる。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	県外で開催される、展示会・見本市等へ出展する事業所に経費の助成を行う。	目標	(15事業者)	(15事業者)	()	()	
		実績	9事業者 (同事業者2回含む)	4事業者			
		目標	()	()	()	()	
	実績						
達成状況説明	商工会より推薦を受けた市内事業者4社に対し経費の助成を行い、県外の展示会等へ派遣を行ったが、目標達成とまでは至らなかった。支援数が目標に達していない理由は、事業者の費用負担が大きく(出展料等)、県外への渡航に消極的な小規模事業者が多い事が考えられる。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)
	県外展示会・見本市等において、市特産品のPRを行い、販路拡大につながるネットワークを構築	目標	()	(ネットワークを構築)	()	()	()
		実績		ネットワークを構築			
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	県外からの受注件数について、3件を目標としていたところ9件の実績があり、販路拡大につながるネットワークを構築したといえ、目標を達成することができた。主な要因として、事業者や商品が魅力的であったこと、事業者が県外での物産展等に慣れておりPRに工夫がされている事が考えられる。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	15事業者の支援を目標としていたが、4事業者しか達成出来なかった。また、例年同じような事業者が商談会等へ参加しており、参加希望する事業者と希望しない事業者に温度差がある。	商工会と連携を図りながら、市内の事業者にあっせん可能な商談会等の情報入手に努め、長期から短期等様々な条件を含め随時情報提供を行っている必要がある。また、渡航費や宿泊費のみならず、出展料も補助の対象として検討していく必要がある。

今後の取り組み方針

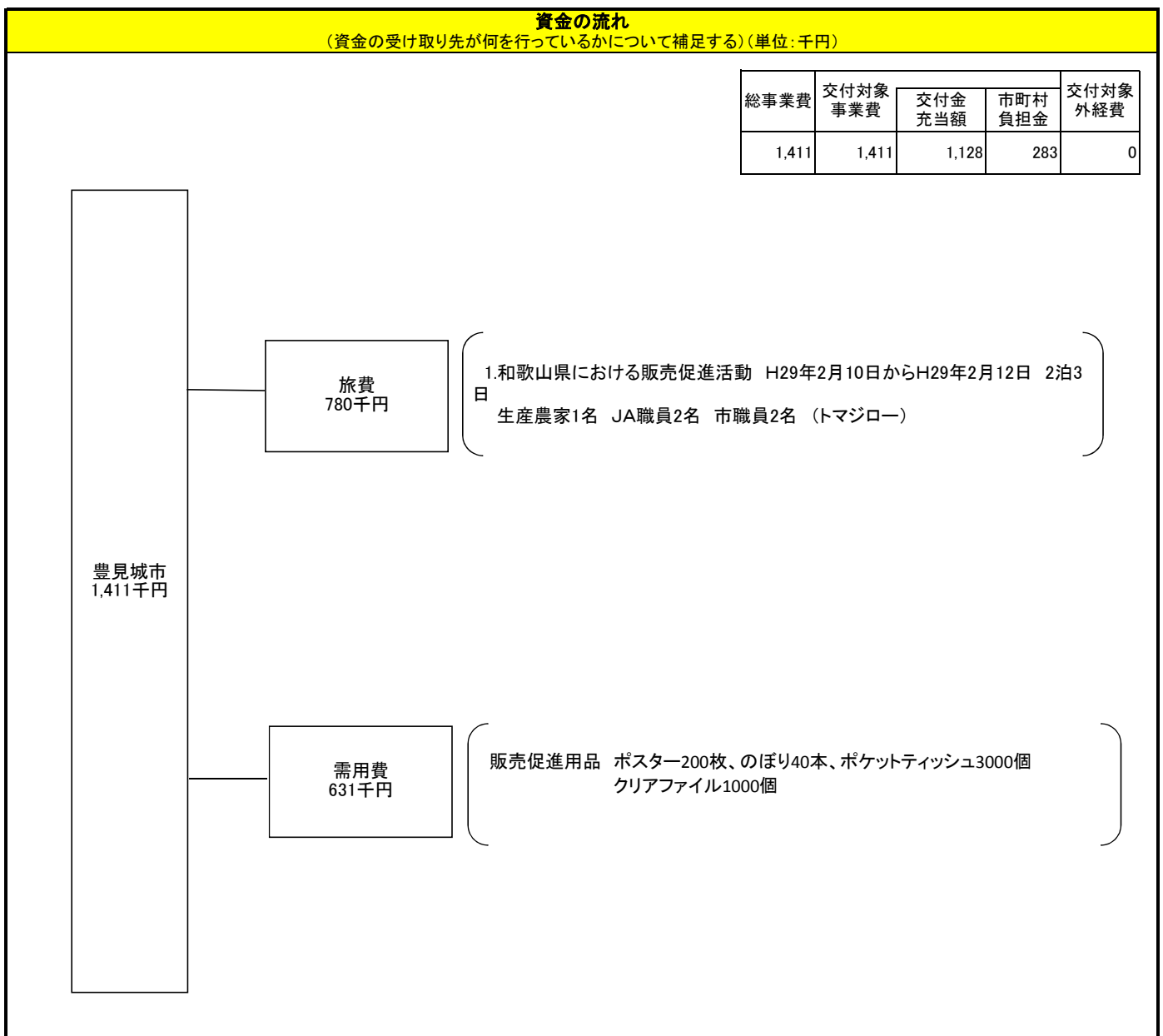
商工会が全会員へ発送する郵便物に県外販路拡大支援事業の募集案内を同封し、県外販路拡大支援事業や商談会等の情報提供を幅広く行い、参加事業者の増を目指す。また、出展料を補助の対象として計上できないか国や県の一括交付金担当に確認する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



市町村名		豊見城市					
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-③ 豊見城産トマト・葉野菜販売促進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3-(7)-ア		
	経済建設部 農林水産課		事業実施(予定)年度	平成27~29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備	
担当部課名					Ⅲ-1-(7)		
事業内容	<p>豊見城産トマト・葉野菜は施設整備が進み生産量も増加傾向にあるため、今後県内への出荷が集中することによる価格の下落が懸念されている。豊見城産トマトは、県の拠点産地に認定されており又、葉野菜は県内有数の産地となっていることもあり、豊見城産ブランドをPRし、県内外において新たな販路拡大のための販売促進活動を実施する。</p>						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	2,940	1,527			
		(b) 予算現額	2,637	1,527			
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 303	0			
		(d) 繰越額	0	0			
		A. 計 (b+d)	2,637	1,527			
	B. 執行済額		2,636	1,411			
	うち交付金充当額		2,108	1,128			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率 (%) (B/A)		100.0%	92.4%			
予算の状況の説明		<p>昨年と比べて委託料(豊見城産トマトイメージキャラクターの着ぐるみとイラストデザインの製作委託業務)が無くなったことが、減少した理由である。計画していた事業内容はほぼ実施しており活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えられる。</p>					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	豊見城産トマト・葉野菜販売促進活動6回	目標	(6回)	(6回)	()	()	
		実績	県内4回 県外2回	県内4回 県外2回			
			目標	()	()	()	
		実績					
達成状況説明		<p>一年を通して、豊見城産トマトのイメージキャラクターであるトマジローのイベント等での活用や、豊見城産トマト・葉野菜の試食アンケート、販売促進品の配布により効果的な販売促進活動が行えた。 具体的には①菜々色畑8周年祭 ②第4回とみぐすく産業フェスタ ③菜々色畑における販売促進活動 ④和歌山県紀の川市JAめっけもん広場における販売促進活動 ⑤山形県東根市 JAさくらんぼひがしねよってけボボラにおける販売促進活動 ⑥JAおきなわAコープとみえ〜るにおける販売促進活動を行った。</p>					
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(25年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	豊見城産トマト・葉野菜県外出荷量 H28:543t(2年目)【H25:369t(基準)】	目標	(369)	(528)	(543)	()	()
		実績		393.53 t	276.50 t		
			目標	()	()	()	()
			実績				
進捗状況説明		<p>種植時期の秋口の気温が例年より高く、発芽しない種があったことが要因となり、出荷量が減少し目標は未達成となった。しかし一年を通して計画に基づいた販売促進活動を行うことができ、県内外で広く豊見城産トマト・葉野菜のPRが出来た。</p>					

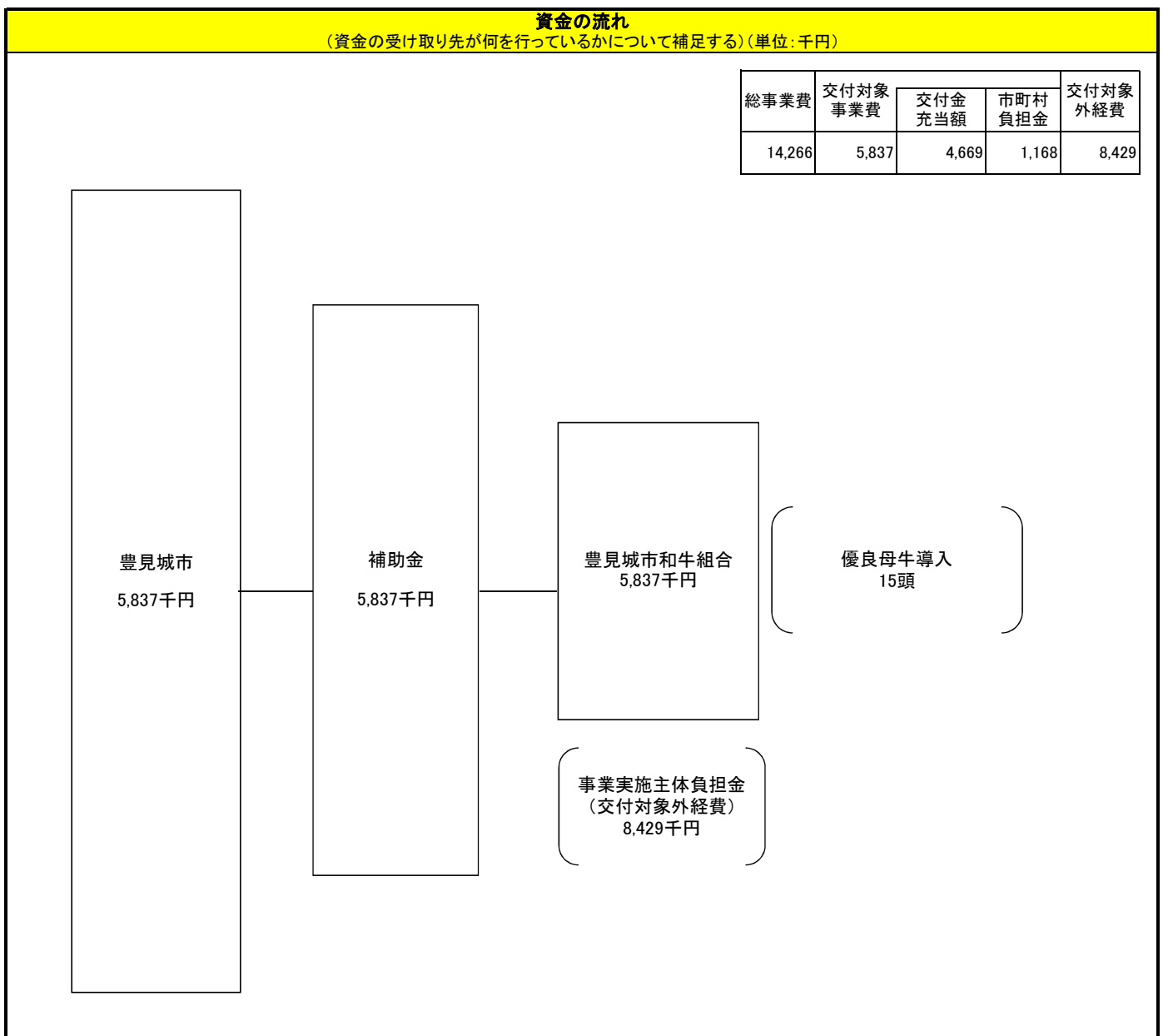
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	①試食アンケートでは、県外での知名度が低いという意見が見受けられた。 ②県外出荷量が目標に達していないので、県外の販売促進活動において、今まで以上に豊見城産トマト・葉野菜をPRする必要がある。	①試食アンケートで寄せられた、県外での知名度が低いという意見を関係機関(JAおきなわ豊見城支店・ファーマーズマーケット)で共有し、県外での知名度向上を意識した今後のPR活動に取り組む。 ②県内外の販売促進活動をより効果的に行える店舗を、集客数の多さやイベント等のタイミングと合わせて選定する。また、豊見城産トマトのイメージキャラクターであるトマジローの着ぐるみの活用をし、イベント等でのPR活動を行う。
今後の取り組み方針		
効果的な豊見城産トマト・葉野菜販売促進事業を実施するため、県内外での販売促進活動の実施のほかに、関係機関(JAおきなわ豊見城支店及びトマト・葉野菜農家)と協力し、また、豊見城産トマトのイメージキャラクターであるトマジローの着ぐるみを積極的に活用し、県内外出荷量の目標達成に努める。		



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○豊見城市契約規則等により支出先は適切に選定している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算執行率92.4%であり、適正な予算規模になっている。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費用・用途については、事業目的の観点から必要なものなのか等について額の確定時において検査、確認しており、適正であったと考えている。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	豊見城市						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-④	優良母牛導入支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-ア	
担当部課名	経済建設部 農林水産課	事業実施(予定)年度	平成27~29年度		沖縄振興基本方針該当箇所	おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備 Ⅲ-1-(7)	
事業内容	優良母牛の導入を促進し、畜産農家の生産基盤の確立及び経営の安定、農業振興を行う。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
	予算の状況 (a)当初予算額 (b)予算現額 (c)増減額(b-a) (d)繰越額 A. 計(b+d)		6,000	6,000			
			6,000	6,000			
			0	0			
			-	-			
			6,000	6,000			
	B. 執行済額		5,645	5,837			
	うち交付金充当額		4,516	4,669			
	次年度繰越額		-	-			
	執行率(%) (B/A)		94.1%	97.3%			
予算の状況の説明		15頭導入計画で計画どおり事業完了。1頭あたりの補助額がセリ落札価格の1/2以内、上限額40万円に定められており、セリ落札額が80万円を割り込んだ場合において執行残が生じた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	優良母牛導入に対する補助	目標	(補助)	(補助)	()	()	
		実績	補助	補助			
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	牛のセリ価格が高騰傾向にあるなか、家畜セリ上場頭数の情報共有化及び県内外での購入を行う事によりスムーズに対応することが出来た。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(29年度)
	優良母牛の導入頭数 H28年度:15頭	目標	()	(15頭)	(15頭)	()	(45頭)
		実績		15頭(33%)	15頭(67%)		
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	5月鹿児島県(与論セリ市場)2頭、沖縄県(八重山セリ市場)2頭、7月鹿児島県(与論セリ市場)1頭、(曾於セリ市場)3頭、8月沖縄県(南部セリ市場)1頭、9月熊本県(熊本セリ市場)1頭、沖縄県(南部セリ市場)1頭、10月(与論セリ市場)1頭、11月沖縄県(南部セリ市場)2頭、1月沖縄県(南部セリ市場)1頭、合計15頭を導入し、目標を達成した。2ヶ年導入実績30頭。3年計画のため平成29年度事業完了時45頭導入予定。					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	①当初計画では3ヶ年の事業計画であったが、本市は、小規模の畜産経営が多数を占めており、セリ価格が高騰してるなかでの家畜の更新・増頭・改良を行うのが厳しい状況であることから農家から事業延長の要望がある。	①畜産農家の経営基盤の確立を図る上でも引続き優良母牛導入の支援を行い、セリ価格も高騰傾向あることから補助金額上限見直しも併せて実施に向けた検討が必要である。
	②母牛の基本登録時期について見逃す傾向が多少あった。	②基本登録時期を出産1ヶ月前から、2ヶ月前に設定し時期を逃さないように経過観察を行う。
	③導入牛の受精状況や発情時期等を見逃さないために、受精のタイミングや分娩間隔・飼養管理技術向上に向けて講習会を行った。	③分娩間隔について、本市平均423日で沖縄県平均415日と比べると長い傾向にある。発情時期を逃さず受精をタイミングよく行うことで沖縄県平均まで近づける。
今後の取り組み方針		
優良母牛への更新・増頭を行うのと並行して、和牛群改良に向け血統・系統で能力の高い優良種雄牛の種付けを専門関係機関指導のもと推進していく。		



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○事業実施主体は、補助金交付要綱により適正に事業実施している。
	○	予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者である豊見城市和牛組合は総事業費の5割を負担しており、事業内容や他の事業の負担割合から判断しても妥当であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に則し、必要なものであったと判断した。

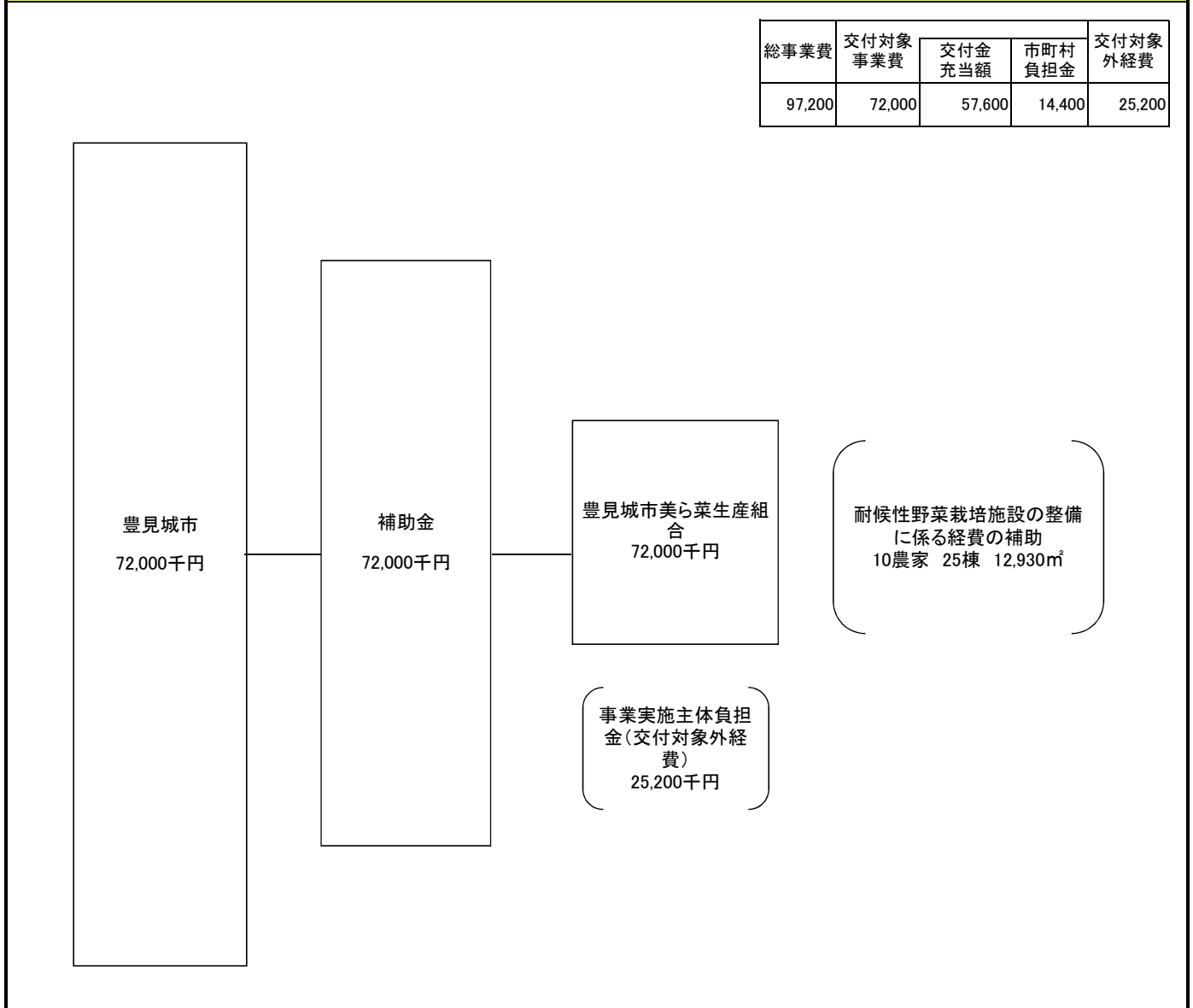
市町村名	豊見城市						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-⑤	豊見城市いきいき野菜生産支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-ア	
担当部課名	経済建設部 農林水産課	事業実施(予定)年度	平成24~28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備 Ⅲ-1-(7)	
事業内容	豊見城産野菜について、市場や量販店の求める定時・定品質等の安定供給を推進するためにも、天候悪化に左右されない耐候性野菜栽培施設を導入する。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	30年度	
	(a) 当初予算額	124,514			74,320		
	(b) 予算現額	112,720			72,000		
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 11,794			▲ 2,320		
	(d) 繰越額	-			-		
	A. 計 (b+d)	112,720			72,000		
	B. 執行済額	112,720			72,000		
	うち交付金充当額	90,176			57,600		
	次年度繰越額	-			-		
	執行率 (%) (B/A)	100.0%			100.0%		
予算の状況の説明	入札結果、契約額が積算よりも減となったことから不要となる2,320千円減額した。 入札により当初予算見積額より事業費を減額できた。						
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)	達成状況					
		25年度	26年度	27年度	28年度		
	耐候性野菜栽培施設導入に対する補助	目標	(24,540㎡ 49棟、19農家)	()	()	(12,930㎡ 25棟、10農家)	
		実績	(24,540㎡ 49棟、19農家)			(12,930㎡ 25棟、10農家)	
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	耐候性野菜栽培施設(パイプハウス12,930㎡・25棟・10農家)の導入により当初計画どおり成果目標達成。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)	基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)	
	H28年度: 耐候性野菜栽培施設導入	目標	()	(施設の導入)	()	()	()
		実績		施設の導入			
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	強風や長雨等の影響を受けない施設の設置により、生産農家の経営安定を図るための施設整備が整った。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	①露地栽培から施設栽培への変更に対応するための栽培技術の確立が必要である。 ②施設の台風等の自然災害対策が必要である。	①現在野菜を施設栽培で行っている生産農家や、沖縄県農業協同組合指導のもと栽培技術向上講習会を開催する。 ②現在、野菜の施設栽培を行っている生産農家による暴風対策講習会や、沖縄県農業共済組合職員による自然災害対策指導を行う。園芸施設共済の説明会は実施済み。

今後の取り組み方針

施設栽培技術の向上により、市場の求める安定生産や、生産農家の経営安定を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費目・	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○事業実施主体は、補助金交付要綱により適正に事業実施している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額はなく適正な規模であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○沖縄県災害に強い栽培施設の整備事業が8/10であり、事業内容や負担割合から判断しても妥当である。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に則し、必要なものであったと判断した。

市町村名		豊見城市					
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-①	特別な支援を必要とする子の巡回相談事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(2)-イ	
担当部課名	福祉部 保育幼稚園課	事業実施(予定)年度	平成26~33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	地域における子育て支援の充実 Ⅲ-4	
事業内容	公立幼稚園及び公立・法人・認可外保育施設における「特別な支援を必要とする子」への保育の充実ときめ細かい対応及び早期発見を図るため、臨床心理士の専門指導員を配置し、巡回相談・支援を行う。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
	(a) 当初予算額	2,894	5,183	5,242			
	(b) 予算現額	2,814	5,183	2,969			
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 80	0	▲ 2,273			
	(d) 繰越額	—	0	0			
	A. 計 (b+d)	2,814	5,183	2,969			
	B. 執行済額	2,514	4,969	2,780			
	うち交付金充当額	2,011	3,975	2,223			
	次年度繰越額	0	0	0			
	執行率(%) (B/A)	89.3%	95.9%	93.6%			
予算の状況の説明	事業計画では当初、臨床心理士を2名配置予定であったが、臨床心理士募集への応募がなく、採用できなかった期間における約1名分の予算を12月、2月補正で減額した。						
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			28年度	29年度	30年度	31年度	
	臨床心理士配置数:2人	目標	(2人)	()	()	()	
		実績	約1人				
		目標	()	()	()	()	
	実績						
達成状況説明	平成28年4月から12月までは臨床心理士募集への応募がなく、人材不足により採用できなかったため、臨床心理士1人のみ配置となり、活動目標を達成できなかった。平成29年1月から2月初旬まで2人配置となったが、1人退職により2月中旬から3月までは1人配置となった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	「特別な支援を必要とする子」への対応や保護者への相談・支援件数120件	目標	()	(50件)	(80件)	(120件)	()
		実績		113件	326件	218件	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	218件の巡回相談を実施し、「特別な支援を必要とする子」の保護者や担当保育士等の相談に対し臨床心理士の専門性を活かした助言を行うことで、育児不安の軽減、保育の室向上を図るとともに、成果目標を達成することができた。年4期の巡回相談計画を実施し、効率的な保育所、幼稚園巡回を行ったことで目標を大きく上回る実績を残すことができた。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・ハローワークや市広報媒体を活用し、臨床心理士の確保に努めたが、人材不足等の理由により、年間を通した2人配置体制を実施できなかった。 ・臨床心理士が配置されていることで、保護者の「特別な支援を必要とする子」に対する育児不安など、保護者のニーズに対応することができたが、多様な相談内容があることから、児のライフステージの移行を見据えた関係機関との連絡調整も重要となってきた。 ・多くの対象児の相談・支援を実施したが、保護者の満足度や新たなニーズを把握できていない課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハローワークや市広報媒体の活用を継続しつつ、その他の臨床心理士の確保策を検討する必要がある。 ・多様な相談に対応し、関係機関との調整や適切な連携を図るため、相談・支援を行う臨床心理士の更なるスキルアップや資質向上が必要である。 ・満足度や新たなニーズを把握し、より充実した支援の在り方を検討する。

今後の取り組み方針

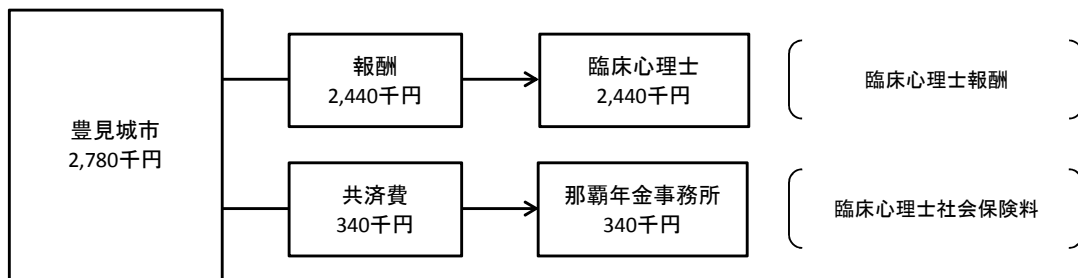
・平成28年度事業においては、ほとんどの期間で2人配置体制を実施できず臨床心理士の負担が大きかったため、ハローワークや民間の求人情報誌の活用により早めの人材確保に努める。

・臨床心理士が研修参加や支援学校等視察による児童観察の経験を増やすことで、更なるスキルアップや資質向上を図る。

・満足度や新たなニーズを把握することで、より充実した支援の在り方を検討するため、相談・支援を実施した保護者に対し利用者アンケートを実施する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,780	2,780	2,223	557	0



資金の流 れ、費 目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○臨床心理士の任用は公募であり、適正な選定である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○臨床心理士の人件費としては、過大ではなく適正である。成果目標は達成できたが、児童の今後の発達への影響や保護者の心情を考慮しなければならぬデリケートな事業であることから、臨床心理士2名配置で時間をかけて更に丁寧に対応することが適当である。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○臨床心理士の人件費として最低限必要な報酬、社会保険料の支出に限定されており、適正である。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		豊見城市					
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-②		心理相談事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(2)-イ	
	担当部課名	市民健康部 健康推進課		事業実施(予定)年度	平成26~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	地域における子育て支援の充実 Ⅲ-4
事業内容		乳幼児健診において臨床心理士を配置し、乳幼児健診の充実を図るとともに、発達支援を要する乳幼児の早期発見に努める。また、乳幼児健診後の事後フォローとして親子教室、個別相談を行い、適切な関わり方の助言や、育てにくさを抱える保護者の育児不安軽減を図る。発達支援を必要とする乳幼児については、保育所、療育機関、医療機関等と連携し早期支援につなぐ。					
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	5,183	2,605			
		(b) 予算現額	5,183	2,605			
		(c) 増減額 (b-a)	0	0			
		(d) 繰越額	-	-			
		A. 計 (b+d)	5,183	2,605			
	B. 執行済額		4,969	2,454			
	うち交付金充当額		3,975	1,963			
	次年度繰越額		-	-			
	執行率 (%) (B/A)		95.9%	94.2%			
予算の状況の説明		事業計画通りに予算を執行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	乳幼児健診等における心理相談30回	目標	(47回)	(30回)	()	()	
		実績	47回	30回			
	親子教室における心理相談12回	目標	(12回)	(12回)	()	()	
		実績	12回	12回			
達成状況説明	乳幼児健診会場に心理相談コーナーを常設。1歳6ヶ月・3歳児健診のすべてにおいて心理相談を実施できた。医師から心理相談が必要とされたもの、保健師や関係者が気になった児、保護者からの発達に関する相談も、その場で心理相談ができ、また、後日の個別相談の予約につなげることができた。臨床心理士が親子教室を担当することで、乳幼児健診と個別相談から親子教室への参加について保護者への動機付けができた。また、参加が途絶えてしまう対象者へも連絡を入れ指導が増えた。教室終了者には子育て支援サービスや医療機関への受診の相談対応ができた。保健師、保育士のスタッフにも、教室前後に対象者と保護者への対応のアドバイスがあった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	健診事業等での発達相談 80件 個別相談 80件	目標	()	(80件)	(80件)	()	()
		実績		255件	235件 48件		
	親子教室から早期支援のための関係機関への移行 7組	目標	()	(7組)	(7組)	()	()
		実績		3組	2組		
	進捗状況説明	健診事業での発達相談は、即日心理士による相談ができ、235件実施できた。当初の目標は80件で、健診会場での相談内容に応じて、時間をかけて面談を行っていた。現在は、発達相談対象児の全数にアプローチできるように、健診会場では、予約制心理相談への案内と動機付け、顔つなぎの場とし、できるだけ多くの対象児と面談するよう取り組み、件数が大きく増える結果となった。また、個別相談の目標は当初80件としていたが、健診会場での相談対応件数が増えた結果、健診当日の相談対応で終結できたケースもいたことから、再来所による個別相談件数は減っている。就労している保護者にとっては、何でも足を運ぶよりも健診当日で、相談したいことが解決できるため、メリットが大きいと思われる。親子教室から親子通園への移行件数について、2組の実績となった理由は、親子通園側の受け入れ体制等により移行できないケースがあったことや、教室対象児でも、関係機関への移行を必要としない場合もあった。よって、この指標は、他の要因が影響することもあるため、指標の変更が必要である。					

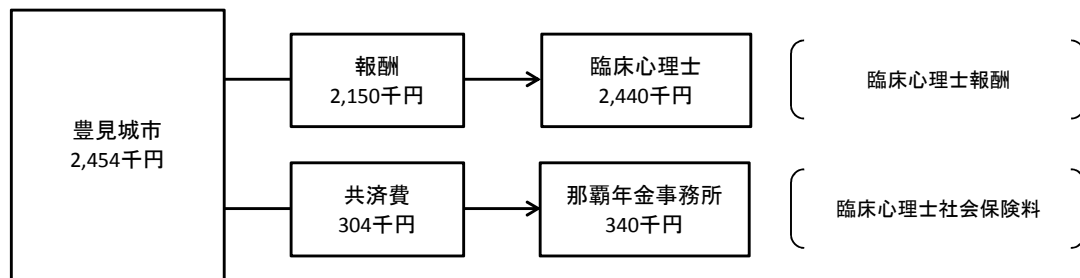
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>発達障害児の支援は、早期発見・早期支援が要であり、乳幼児健診は早期発見の機会として重要な場である。健診会場で「心理相談」を常設し、会場で発達の気になる児をタイムリーに心理士につなげることができた。</p> <p>また、健診後も心理士が継続して個別支援を行い、関係機関(保育園巡回心理相談、療育機関、医療機関等)へのつなぎを行っており、専門性を活かした個別対応ができた。</p> <p>相談支援の質の向上のために、心理相談後アンケートにより事後評価を行った。</p> <p>支援者の増により、関係機関、スタッフ間の連携がより大事となる。臨床心理士だけの把握ではなく、その他保健師等との密な情報共有が必要である。</p> <p>現在、県内でも臨床心理士の確保が難しい状況にあり、常に確保できる保証がないことが課題である。</p>	<p>健診事後フォローには、臨床心理士以外に關係する事業担当の保健師、地区保健師などのスタッフの関わりがあるため、定期的な個別支援検討会議等を開催し、情報を共有し、連携の仕組みを確立していく。</p> <p>臨床心理士確保のために、県内の臨床心理士会への呼びかけ、毎月の市広報やハローワークによる公募等、細やかな呼びかけを行う。</p>

今後の取り組み方針

事業の推進を図るため、下記の改善策に取り組む
 連携の仕組み確立
 ①臨床心理士と地区保健師の役割分担の明確化 ②支援状況の進捗管理 ③個別支援検討会議の定期開催 ④関係機関との連絡会議の開催
 臨床心理士の確保
 ①臨床心理士会への募集掲載依頼。②市広報誌へ毎月掲載③ハローワークへの求人依頼

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
2,454	2,454	1,963	491	0



資金の流 れ、費 目・ 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○臨床心理士の任用は公募であり、適正な選定である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算額の執行率は94.2%となっており、適正な額であったと考える。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○事業の性質上、受益者の負担は無で妥当と考える。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○事業予算は完了時に検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。

市町村名		豊見城市					
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-③		預かり保育事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(2)-イ	
	担当部課名	福祉部 保育幼稚園課		事業実施(予定)年度	平成24~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	地域における子育て支援の充実 Ⅲ-4
事業内容	市立幼稚園教育時間終了後、幼稚園施設内で預かり保育を実施し、園児の健やかな子育て環境の充実を図る。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
		(a) 当初予算額	18,640	20,666	53,398		39,164
	(b) 予算現額	20,284	13,319	9,584		17,885	
	(c) 増減額 (b-a)	1,644	▲ 7,347	▲ 43,814		▲ 21,279	
	(d) 繰越額	—	0	0			
	A. 計 (b+d)	20,284	13,319	9,584		17,885	
	B. 執行済額	19,042	13,319	9,584		7,041	
	うち交付金充当額	5,609	10,655	7,667		5,632	
	次年度繰越額	0	0	0			
	執行率 (%) (B/A)	93.9%	100.0%	100.0%		39.4%	
予算の状況の説明	当初40名の預かり保育担当教諭配置予定であった事業計画を人材不足等の事由により見直し、12月、2月補正で予算減額したが、その後も途中雇用予定の職員を配置できず執行率が低くなった。						
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)	達成状況					
		25年度	26年度	27年度	28年度		
	預かり保育担当教諭配置:40名予定	目標	(21人)	(28人)	()	(40人)	
		実績	21人	23人		20人	
	目標	()	()	()	()		
	実績						
達成状況説明	就労等により午後の保育を必要とする共働き世帯やひとり親世帯からの申請517人(H28.4~H29.2延べ人数月平均)を受け入れるため、各幼稚園に20人の預かり保育担当教諭を配置した。当初事業計画では40人配置の予定であったが、人材不足により配置目標の40人を下回る20人の配置にとどまり、活動目標値を達成できなかった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)	基準値(23年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)	
	預かり保育を要する全園児の受入	目標	(323人)	(500人)	()	(517人)	()
		実績		499人		517人	
	目標	()	()	()	()	()	
	実績						
進捗状況説明	就労等により午後の保育を必要とする共働き世帯やひとり親世帯からの申請517人(H28.4~H29.2延べ人数月平均)全てを受け入れることができた。人員確保については活動目標の保育担当教諭人数を確保できなかったが、預かり保育希望世帯3園分を1園において合同実施する臨時的対応を行い、成果目標を達成することができた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	本市の人口増加傾向や保護者の就労形態の多様化により今後も預かり保育事業の必要性が継続すると想定されるが、全体的に幼稚園教諭、保育士不足の状況にあるため、目標の預かり保育担当教諭人数が確保できていない状況にある。	平成28年度においては、預かり保育担当教諭確保のため、人材募集強化や賃金引き上げ改定を行ったが、活動目標値を達成できなかったため、更なる確保策を検討する必要がある。
今後の取り組み方針		
幼稚園教諭、保育士確保のため、ハローワークや民間の求人情報誌、幼稚園教諭・保育士の横の繋がりを利用した人材募集を行う。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
	39,165	7,041	5,632	1,409	32,124
<pre> graph LR A[豊見城市 7,041] -- "賃金 6,161千円" --> B[臨時職員 6,161千円] A -- "共済費 880千円" --> C[那覇年金事務所 880千円] B --- D["(交付対象外経費 28,513千円)"] C --- E["(交付対象外経費 3,611千円)"] B --- F["(預かり保育担当教諭賃金)"] C --- G["(預かり保育担当教諭社会保険料)"] </pre>					

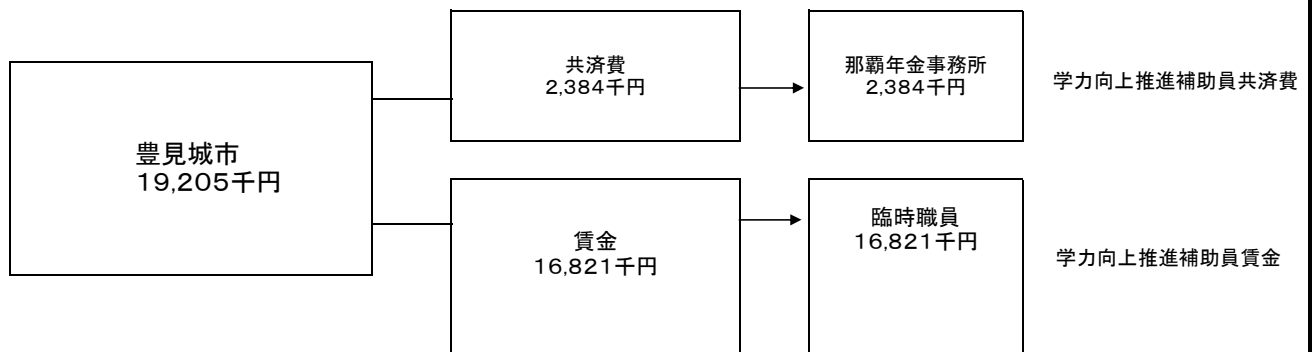
資金の 流れ、 点検 評価 ・ 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○預かり保育担当教諭の任用は公募、かつ有資格者であり、適正な選定である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○当初予算規模については、当初見込んでいた人員を確保できなかったため過剰となったが、預かり保育の質向上のため適正であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○利用者から預かり保育料を徴収しており、受益者との負担関係は適正である。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○預かり保育担当教諭の人件費として最低限必要な賃金、社会保険料の支出に限定されており、適正である。

市町村名		豊見城市					
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-①	学力向上サポート事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-イ	
	担当部課名	学校教育課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	豊かな心とたくましい体を育む教育の推進 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	市内各小中学校への教員の補助として学力向上推進補助員を配置し、きめ細かい支援を行うことで学力向上を図る。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	5,380	27,183	27,333	22,400	23,491
		(b) 予算現額	13,305	27,183	26,534	21,859	19,831
		(c) 増減額 (b-a)	7,925	0	▲ 799	▲ 541	▲ 3,660
		(d) 繰越額	—				
		A. 計 (b+d)	13,305	27,183	26,534	21,859	19,831
	B. 執行済額		12,790	25,286	21,934	21,340	19,205
	うち交付金充当額		10,231	20,228	17,547	17,072	15,364
	次年度繰越額						
	執行率 (%) (B/A)		96.1%	93.0%	82.7%	97.6%	96.8%
予算の状況の説明		平成28年度当初よりハローワーク・広報・ホームページにより求人を行ったが人材の確保ができず、執行残が生じた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	学力向上推進補助員配置数(各学校1人) 小学校8人、中学校3人	目標	(11人)	(小学校:8人 中学校:3人)	(小学校:8人 中学校:3人)	(小学校:8人 中学校:3人)	
		実績	11人	小学校:8人 中学校:3人	小学校:8人 中学校:3人	小学校:8人 中学校:3人	
			目標	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	児童生徒の学力向上のために、豊見城市立全小中学校に学力向上推進補助員11人を配置し、授業にあたる教師と連携を図りながら、児童生徒に対し、一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援を行うことで、教育環境の充実を図れた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(33年度)
	全国学力調査での全国平均との差 ①小学校4教科平均+2.0ポイント ②中学校4教科平均-5.0ポイント	目標	()	(+0.8)	(小:+0.8 中:-6.0)	(小:+2.0 中:-5.0)	(小:+2.0 中:+0.0)
		実績		+1.62	小:+3.8 中:-5.78	小:+3.3 中:-3.07	
			目標	()	()	()	()
			実績				
進捗状況説明	児童生徒の学力向上のために、豊見城市立全小中学校に学力向上推進補助員を配置し、授業にあたる教師と連携を図りながら、児童生徒に対し、一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援を行うことで、教育環境の充実を図れた。そのため、全国平均との差において、小学校、中学校ともに目標値を上回る結果を得ることができた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>昨年度に引き続き、学力向上推進補助員を各小中学校へ配置し、教育環境の充実を図っており、きめ細やかな指導を行うことができた。そのため、小学校においては全国平均を上回り、中学校においてはマイナスの幅を縮めることができた。</p>	<p>目標値を上回ることができたのは、補助員と学級担任及び教科担任との調整が十分に行われ、児童生徒に対してのきめ細かい指導ができたためだと考えられる。今後も教科研究や授業に遅れている児童生徒の支援等関係教諭との連携を図りながら、指導に従事する。</p>
今後の取り組み方針		
<p>各小中学校においては、補助員との連携、活用について計画を立て、補助員のスキルアップのために、継続的な研修を行うこととする。 また、平成28年度の全国学力調査において、小学校の平均は全国平均を上回っているため今後も維持できるように、中学校においては全国平均との差を目標値以上に縮めることができているため、今後事業を継続して実施していきたい。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
19,205	19,205	15,364	3,841	0



資金の 使途の 流れ、 点検 評価 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○学力向上推進補助員の採用については、面接を行い採用している。 ○予算規模は、事業に見合った規模と考える。 ○費目・使途については、出勤簿や業務日誌等の書類により確認、適正である。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

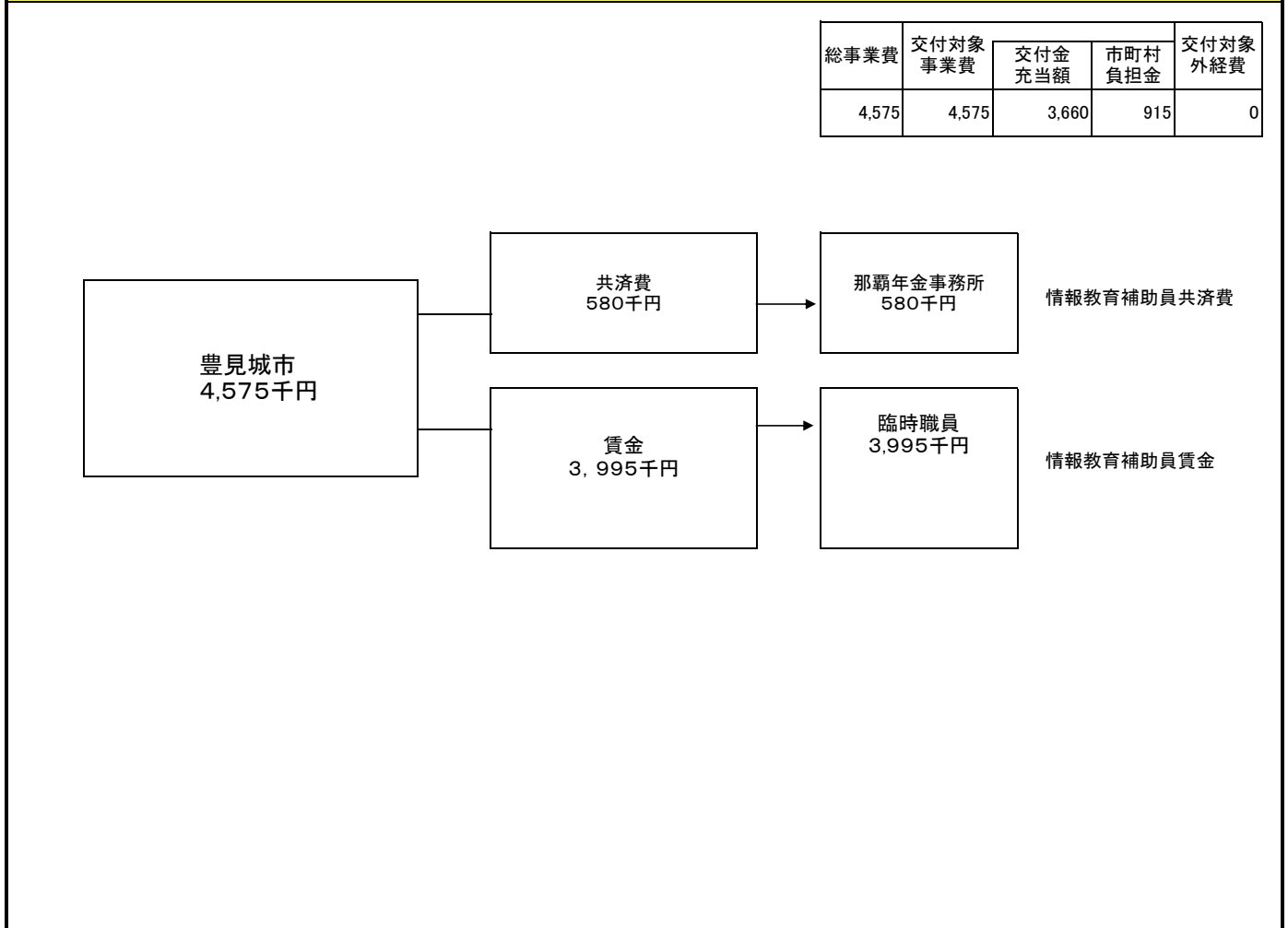
市町村名		豊見城市					
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-②		情報教育補助員派遣事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(3)-ウ	
	学校教育部 学校教育課		事業実施(予定)年度	平成24~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	多様な情報系人材の育成・確保	
担当部課名						Ⅲ-3-(1)	
事業内容	コンピューター、電子黒板を使用する授業へICT教育補助員を派遣し、ICTを活用した授業をサポートする。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	982	5,902	5,934	4,960	5,200
		(b) 予算現額	1,928	4,664	4,565	3,992	4,559
		(c) 増減額 (b-a)	946	▲ 1,238	▲ 1,369	▲ 968	▲ 641
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
	A. 計 (b+d)		1,928	4,664	4,565	3,992	4,559
	B. 執行済額		1,892	4,259	3,677	3,986	4,575
	うち交付金充当額		1,512	3,407	2,941	3,188	3,660
	次年度繰越額		-	-	-	-	-
	執行率 (%) (B/A)		98.1%	91.3%	80.5%	99.8%	100.4%
予算の状況の説明		情報教育支援補助員の配置について概ね適正に執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	情報教育支援補助員配置数:3人	目標	(3人)	(3人)	(3人)	(3人)	
		実績	3人	3人	3人	3人	
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	情報教育支援補助員を各小中学校へ派遣し、PC教室、電子黒板を活用し授業を行う教員の支援や児童生徒へ直接支援することで、教員や子どもたちの情報リテラシーの向上が図れた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(33年度)
	ICT機器等活用率前年比+0.5ポイント(操作・理解・関心・意欲)	目標	()	小学校:85.1% 中学校:50.1%	小学校:72.3% 中学校:25.1%	小学校:66.7% 中学校:34.9%	小学校:90% 中学校:90%
		実績		小学校:71.8% 中学校:24.6%	小学校:66.2% 中学校:34.4%	小学校:65.8% 中学校:45.2%	
			目標	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	情報教育補助員を各小中学校へ巡回派遣し、PC教室、電子黒板を活用し授業を行う教員の支援や児童生徒へ直接支援することで、教員や子どもたちの情報リテラシーの向上が図れた。小学校においては、タブレット/パソコンとソフトの導入により「パソコンで名刺をつくる」の項目に該当する機能が含まれておらず、活用率が前年度より大きくマイナスとなっていることから目標の達成に至らなかった。中学校においては、アンケート項目「ワープロソフトを使って文書を編集・作成することができる」「表計算ソフトを使って計算をしたり、表やグラフを作成することができる」の項目で、活用率が前年度より大きくプラスとなっており、活用率の上昇が見られ、目標値を達成した。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>近年、ICT活用で効果的に理解を深める授業展開を目標に、電子黒板やデジタル教科書を導入しており、活用推進を図っているが、まだ活用に慣れていない児童生徒や新しく市内に赴任してきた教員等については支援を行う必要がある。小学校においては前年比よりマイナスとなっており、改善が課題となる。</p>	<p>児童生徒に対しては引き続き授業の中で遅れが見られる子を中心に丁寧な対応を行うことで、活用率の向上に努め、情報機器の活用ができる子を増加させる。教員に対しては、学校の実態に応じた電子黒板やデジタル教科書の研修を行い、活用の促進を図る。</p>

今後の取り組み方針

次年度以降も引き続き情報教育補助員を派遣し、児童生徒及び教職員のサポートを行うことで、より良い学習環境の整備に努める。また、教職員を対象に操作研修等を実施し、資質向上に努める。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

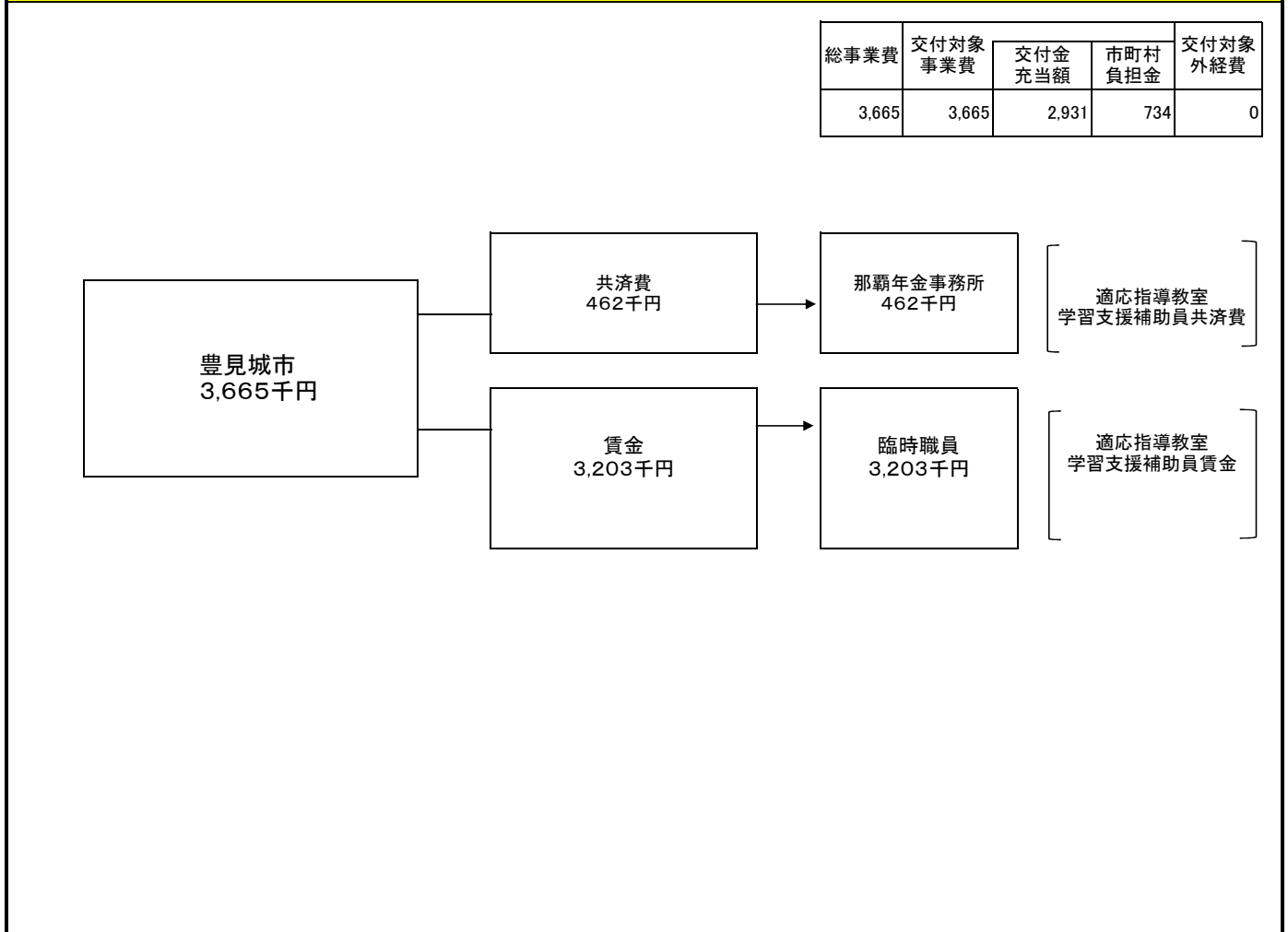


資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○情報教育補助員の採用については、面接を行い採用している。</p> <p>○予算規模は、事業に見合った規模と考える。</p> <p>○費目・使途については、出勤簿や業務日誌等の書類により確認、適正である。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		豊見城市					
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-③	適応指導教室学習支援員配置事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-イ	
担当部署名	学校教育課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	豊かな心とたくましい体を育む教育の推進 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	不登校児童生徒やその保護者に対し指導員を配置し、教育相談や適応指導等の適切な支援を行うことにより学校復帰及び社会的自立を支援する。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	2,466	4,943	4,970	4,072	4,272
		(b) 予算現額	2,421	4,943	4,843	3,967	3,649
		(c) 増減額(b-a)	▲45	0	▲127	▲105	▲623
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
	A. 計(b+d)		2,421	4,943	4,843	3,967	3,649
	B. 執行済額		2,367	4,637	4,015	3,961	3,665
	うち交付金充当額		1,893	3,709	3,212	3,168	2,931
	次年度繰越額		-	-	-	-	-
	執行率(%) (B/A)		97.8%	93.8%	82.9%	99.8%	100.4%
予算の状況の説明		年度当初に1名人材の確保ができず、配置できない期間があり、執行残が見込まれたので、減額補正した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	適応指導教室支援員配置数 適法指導教室:2人	目標	(2人)	(2人)	(2人)	(2人)	
		実績	2人	2人	2人	2人	
	目標	()	()	()	()		
	実績						
達成状況説明	学習支援補助員を2人配置したことにより、不登校児童生徒を小中学校別にきめ細かく指導・支援できた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(33年度)
	学校復帰率:10%(学校復帰した児童生徒/教室に在籍した児童生徒)	目標	()	(30%)	(10%)	(10%)	(30%)
		実績		12.5%	30.77%	7.1%	
		目標	()	()	()	()	()
実績							
進捗状況説明	学習支援補助員を2人配置したことにより、不登校児童生徒の支援ができ、中学校においては1名が学校復帰することができたが、昨年度の復帰率に比べ大きく落ちている状態となった。その理由として、年度当初よりハローワーク・広報・ホームページにより求人を行ったが学習支援補助員1名の人材確保ができず、配置できない状態があり、雇用について空白期間があったことや学習支援員の入れ替わりにより児童生徒との信頼関係を築くのに新たに時間を要した等十分な支援を行えない状況があったことが挙げられる。						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>適応指導教室に通室する児童生徒の多くは、普段の学校生活におけるいじめや、友人関係や部活動等のトラブルが要因となっている。そのため、本人から原因を確認することが難しく、改善につなげにくいケースが多い。どの面からの支援を行うのが重要となる。</p> <p>また、学習支援を行う支援員の確保についても切れ目のない支援が必要となる。</p>	<p>児童生徒との関係構築だけではなく、その保護者や学級担任、学校の関係者と密に情報共有・意見交換を行うことで、様々な角度から対象児の登校復帰に向けて支援を行う必要がある。</p>
	今後の取り組み方針	
<p>今後も継続的に補助員を配置することで、児童生徒を見守りながら支援を行う。最終的な目標は学校復帰であるため、母体校の教員と意見交換を密に行い、児童生徒が登校しやすい環境整備を行う。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 目・ 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○適応指導教室学習支援補助員の採用については、面接を行い採用している。</p> <p>○予算規模は、事業に見合った規模と考える。</p> <p>○費目・使途については、出勤簿や業務日誌等の書類により確認、適正である。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

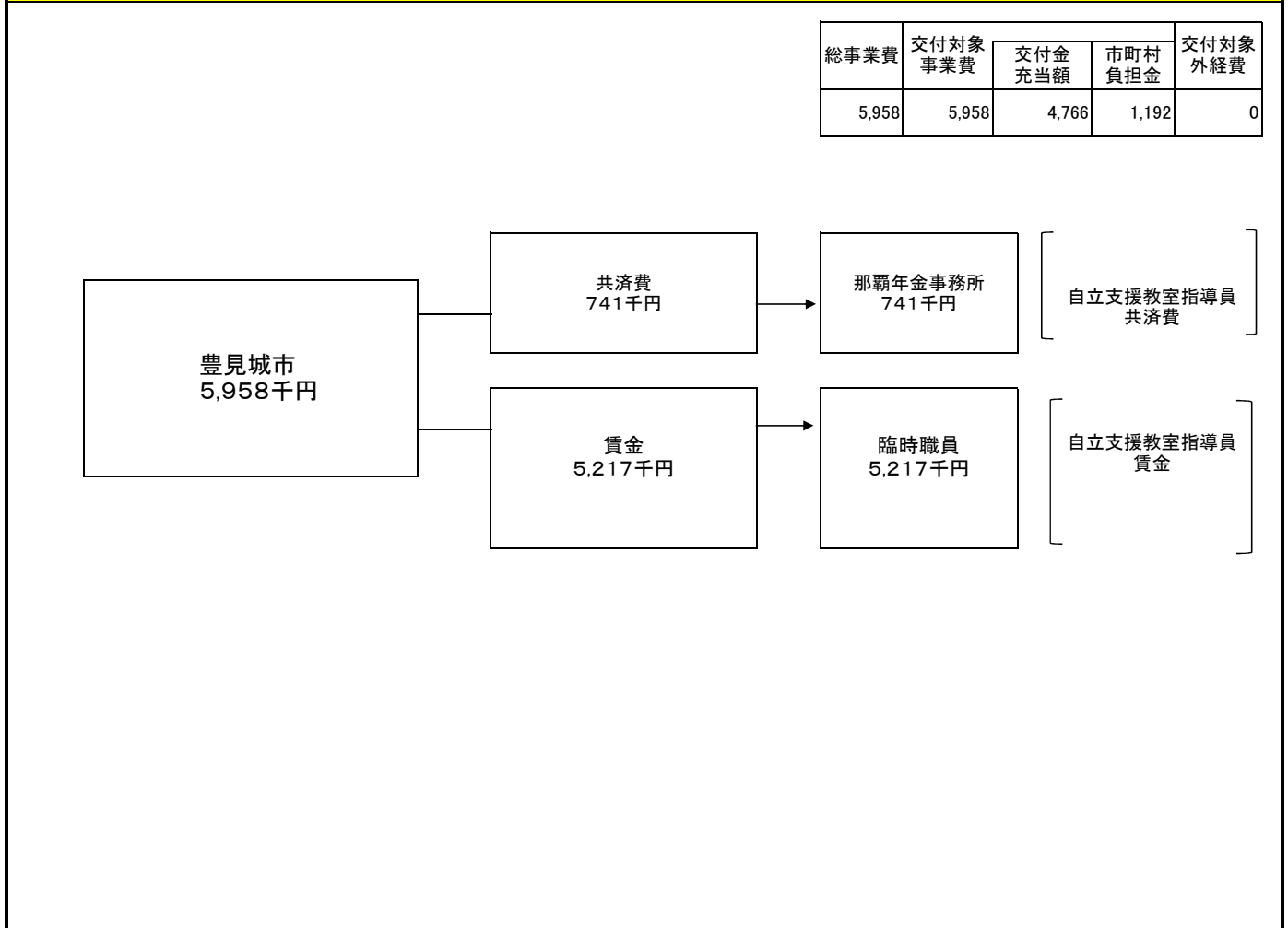
市町村名		豊見城市					
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-④	自立支援教育指導員配置事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-イ	
担当部課名	学校教育課	事業実施(予定)年度	平成25～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	豊かな心とたくましい体を育む教育の推進 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	不登校や問題行動のある児童生徒の日中の居場所を確保し、学級復帰及び社会的自立を支援するため、指導員を配置する。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	(a) 当初予算額	7,414	7,455	6,109	6,406		
	(b) 予算現額	7,414	7,316	5,989	5,932		
	(c) 増減額(b-a)	0	▲139	▲120	▲474		
	(d) 繰越額	—	—	—	—		
	A. 計(b+d)	7,414	7,316	5,989	5,932		
	B. 執行済額	6,988	5,954	5,985	5,958		
	うち交付金充当額	5,590	4,762	4,787	4,766		
	次年度繰越額	—	—	—	—		
	執行率(%) (B/A)	94.3%	81.4%	99.9%	100.4%		
予算の状況の説明	社会保険料や賃金について、当初の積算よりも実際の支出額が少なかったため減額補正を行った。						
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	自立支援教室指導員配置人数 中学校:3人(各中学校1人)	目標	(3人)	(3人)	(3人)	(3人)	
		実績	3人	3人	3人	3人	
	目標	()	()	()	()		
	実績						
達成状況説明	自立支援教室指導員3人の雇用を行い、遊び非行型不登校生徒の学校復帰支援を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(33年度)
	市内中学校における問題行動発生率 前年比-5%	目標	()	(100%)	(-5%)	(-5%)	(1.5%以内)
		実績		100%	-3.77%	+1.92%	
		目標	()	()	()	()	()
	実績						
進捗状況説明	中学校へ自立支援教室指導員を3人配置することで、不登校生徒を中学校別にきめ細かく指導・支援し、一時的な登校につなげることができたが、特定の生徒の生徒間暴力について件数の増加がみられ、問題行動の全体の件数の増加につなり未達成となった。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	遊び非行型不登校児童生徒を中心に支援を行うことにより、一時的な登校復帰、問題行動の改善につなげることができたが、完全な学校復帰ができていない生徒や生徒間暴力の件数の増加がみられ、目標値の達成には至っていないため、継続的に関わっていく必要がある。	指導員のみが生徒へ関わりを持つだけではなく、生徒指導主任や学級担任、その他多くの教職員が積極的にアプローチしていくことで、学校へ足を向けさせることができ、問題行動の改善につながっていくことや、生徒間暴力の件数について減少させるように他の教職員との連携が一層必要となる。

今後の取り組み方針

引き続き、自立支援教室指導員を配置し、遊び非行型不登校生徒等の学校復帰及び社会的自立を支援する。また、研修等を重ねることにより、指導員の資質の向上を図り対象生徒との信頼を構築する。さらには、児童相談所や福祉事務所などの機関と結びつけるスクールソーシャルワーカーとの連携が構築できるよう取り組みたい。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の 使途の 流れ、 点検 評価 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○自立支援教室指導員の採用については、面接を行い採用している。 ○予算規模は、事業に見合った規模と考える。 ○費目・使途については、出勤簿や業務日誌等の書類により確認、適正である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	豊見城市					
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】						
事業番号・事業名	5-⑤	スクールソーシャルワーカー配置事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-イ	
担当部課名	学校教育課	事業実施(予定)年度	平成27~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	豊かな心とたくましい体を育む教育の推進 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	問題を抱える児童生徒を取り巻く環境改善を図り、児童相談所等の関係機関とのネットワークの構築のため、スクールソーシャルワーカーを配置し、社会福祉の観点から支援を行う。					
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()					
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
	(a) 当初予算額	1,687	6,481			
	(b) 予算現額	1,687	5,524			
	(c) 増減額 (b-a)	0	▲ 957			
	(d) 繰越額	-	-			
	A. 計 (b+d)	1,687	5,524			
	B. 執行済額	1,484	5,496			
	うち交付金充当額	1,186	4,396			
	次年度繰越額	-	-			
	執行率 (%) (B/A)	88.0%	99.5%			
予算の状況の説明	事業計画通り適正に執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)	達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度
	SSW配置数:3人 市内小学校8校、中学校3校への巡回配置	目標	(1人)	(3人)		
		実績	1人	3人		
達成状況説明	目標	()	()			
	実績					
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)	基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(33年度)
		支援対象ケース改善率3%(改善ケース/支援対象ケース件数)	()	(3%)	(3%)	
	実績		31.25%	31.52%		
	目標	()	()	()		()
	実績					
	進捗状況説明	スクールソーシャルワーカーを3名配置し、学校と関係機関のつなぎ役として問題を抱える児童生徒及びその保護者の支援を行った。92件中29件の改善の達成が実現できたが、支援対象児童生徒のケース改善については、簡易なものから複雑なものまで幅があり、その環境改善の難度は年度によって違いがある。今年度については31.52%の改善が行え、目標を達成できた。				

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>支援対象ケースの改善については目標値を大きく超えた。 H27年度の支援対象32人に対して、H28年度は支援対象が約3倍の約92人となっており、対象人数の増加が顕著である。</p>	<p>スクールソーシャルワーカーの支援対象ケースの増に対して改善ケースの割合をあげるべく、学校と関係機関とのつなぎを積極的に行い、様々な環境から生じる問題の検証・支援のあり方について検証・対応していく必要がある。</p>
今後の取り組み方針		
<p>引き続き、スクールソーシャルワーカーを巡回配置し、学校と福祉部門を中心とした関係機関のつなぎ役として、児童生徒の置かれた様々な環境に働きかけ支援を行っていく。また、各校区ごとに配置し、支援を拡大していく。</p>		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
	5,496	5,496	4,396	1,100	0
<pre> graph LR A[豊見城市 5,496千円] --> B[共済費 396千円] A --> C[報酬 5,100千円] B --> D[那覇年金事務所 396千円] C --> E[嘱託員報酬 5,100千円] D --- F[スクールソーシャルワーカー共済費] E --- G[スクールソーシャルワーカー報酬] </pre>					
資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明		
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○スクールソーシャルワーカーの採用については、面接を行い採用している。 ○予算規模は、事業に見合った規模と考える。 ○費目・使途については、出勤簿や業務日誌等の書類により確認、適正である。</p>		
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。			
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。			
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。			

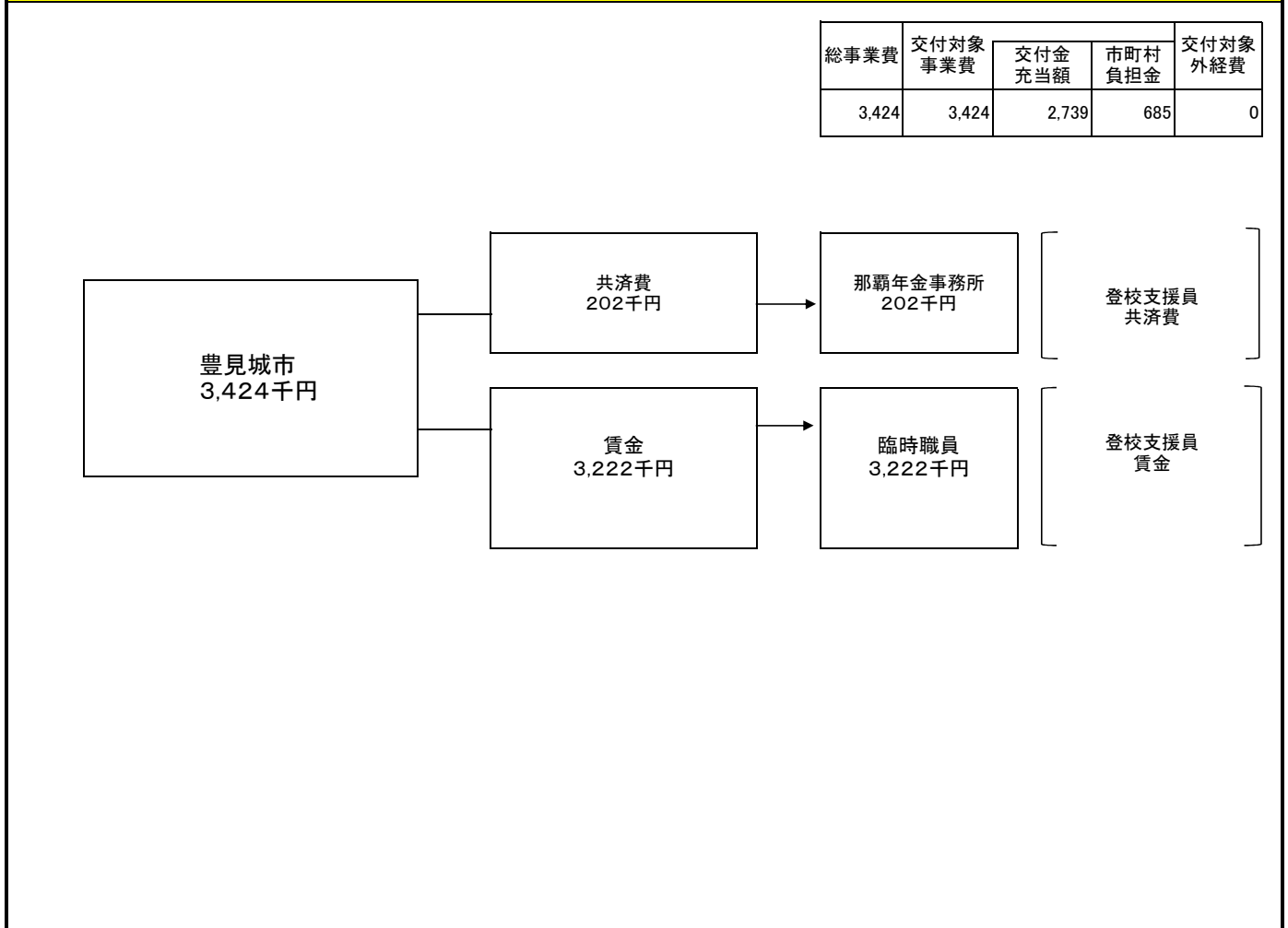
市町村名	豊見城市						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-⑥	登校支援員配置事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-イ	
担当部課名	学校教育課	事業実施(予定)年度	平成25～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	豊かな心とたくましい体を育む教育の推進 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	不登校や不登校傾向にある児童やその保護者に対し、相談等の支援を充実するため、登校支援員を配置し巡回などを行う。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	(a) 当初予算額	2,790	2,787	3,080	3,800		
	(b) 予算現額	2,651	2,422	3,080	3,800		
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 139	▲ 365	0	0		
	(d) 繰越額	—	—	—	—		
	A. 計 (b+d)	2,651	2,422	3,080	3,800		
	B. 執行済額	2,638	2,063	2,756	3,424		
	うち交付金充当額	2,110	1,650	2,204	2,739		
	次年度繰越額	—	—	—	—		
	執行率 (%) (B/A)	99.5%	85.2%	89.5%	90.1%		
予算の状況の説明	年度当初、人員の確保に苦慮したため執行残が生じた。						
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)	達成状況					
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	登校支援員配置数 小学校:4人(小学校2校につき1人)	目標	(4人)	(4人)	(4人)	(4人)	
		実績	4人	4人	4人	4人	
		目標	()	()	()	()	
実績							
達成状況説明	登校支援員4人を雇用し、登校支援を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)	基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(33年度)	
	市内小学校における不登校児の学校復帰率10%	目標	()	(100%)	(10%)	(10%)	(30%)
		実績		100%	4.55%	13.30%	
		目標	()	()	()	()	()
実績							
進捗状況説明	登校支援員を配置することにより、不登校児童や登校しぶりの児童の登校支援を行うとともに、保護者に対するサポートも行った。登校支援対象児童は、簡易な課題から複雑な課題まで様々な環境があり、その環境改善の難度は年度によって違いがある。H28年度は13.30%の不登校児が復帰でき、目標を達成できた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>登校支援員の配置により、不登校気味の児童の居場所作りを行うことができ、登校支援に寄与することもできている。しかし、支援員の配置が他校との兼任であることから、支援員が別の学校の勤務日には登校しない等、継続的な登校に繋がっていない児童もおり、一進一退の状況である。また、常駐体制でないことから、即時対応が難しい部分もある。</p>	<p>現在、週5日勤務で小学校2校を兼務する形で配置しているが、継続的な支援に繋がっていない児童もいるため、養護教諭、民生委員、スクールソーシャルワーカーとも連携を図ることにより早期での状況改善・対応に繋げていく。</p>

今後の取り組み方針

今後も4人の登校支援員を継続的に小学校へ巡回配置し、児童が学校復帰、学級復帰できるよう継続的なサポートを行っていく。また、勤務日を拡大することで一時的な支援となっていた児童に対しても、十分な支援が行き届くよう取り組んでいく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○登校支援員の採用については、面接を行い採用している。</p> <p>○予算規模は、事業に見合った規模と考える。</p> <p>○費目・使途については、出勤簿や業務日誌等の書類により確認、適正である。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		豊見城市					
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-⑦	学習支援補助員配置事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-イ	
担当部課名	学校教育課	事業実施(予定)年度	平成26~33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	豊かな心とたくましい体を育む教育の推進 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	市内各中学校等の別室にて不登校(心因性や遊び・非行型)や問題行動のある生徒の生徒指導や学習支援等を行うため、学習支援補助員を配置する。(主に中学校、状況に応じて小学校に配置する)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
	(a)当初予算額	7,455	6,109	6,291			
	(b)予算現額	7,282	6,012	5,988			
	(c)増減額(b-a)	▲173	▲97	▲303			
	(d)繰越額	-	-	-			
	A.計(b+d)	7,282	6,012	5,988			
	B.執行済額	5,956	5,976	6,013			
	うち交付金充当額	4,764	4,781	4,810			
	次年度繰越額	-	-	-			
	執行率(%) (B/A)	81.8%	99.4%	100.4%			
予算の状況の説明	事業計画通り適正に執行できた。						
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)	達成状況					
		26年度	27年度	28年度	29年度		
	学習支援補助員配置人数 中学校等:3人(中学校区に1人)	目標	(3人)	(3人)	(3人)		
		実績	3人	3人	3人		
	目標	()	()	()			
実績							
達成状況説明	学習支援補助員3人の雇用を行い、別室登校等行う児童生徒へのサポートを行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)	基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(33年度)	
	問題行動等改善率30% (補助員が関わった課題のある児童生徒のうち改善が見られた児童生徒数/補助員が関わった課題のある児童生徒数)	目標	()	(30%)	(30%)	(30%)	(30%)
		実績		78.8%	75.8%	76.5%	
	目標	()	()	()	()	()	
	実績						
進捗状況説明	学習支援補助員を各中学校に配置することにより、生徒への積極的な関わりを持ち、学習に取り組む姿勢等に変化をもたらすことができた。34名中26名について改善が見られ、目標値を達成できた。						

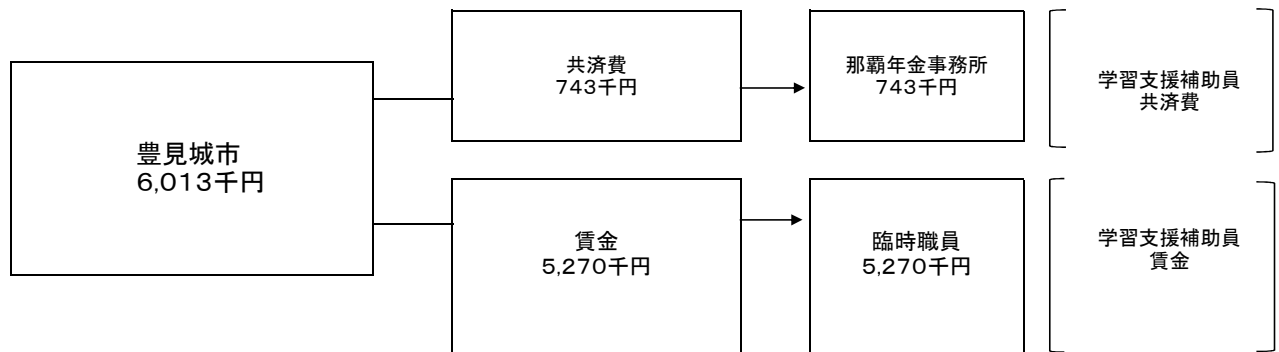
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>昨年度に引き続き、学習支援補助員を配置し、別室登校を行う生徒へ、生活面や学習等に関する指導を行っている。しかし、別室登校には心因性や遊び非行型といった様々な要因があるため、生徒への関わりが難しく、補助員が十分に支援を行えていない状況がある。</p>	<p>個別学習を行うことにより学習意欲に改善が見られ、高校進学を達成できた対象児童生徒もいたが、就職を予定している児童生徒や無気力な児童生徒については学習意欲の改善が見られないところがあり、学校生活に対する気力をあげていく必要がある。</p>

今後の取り組み方針

引き続き、学習支援補助員を各中学校へ配置し、様々な要因で別室登校している生徒達が学級復帰できるよう支援を行っていく。就職をするための学習の必要性の教育や無気力な生徒の家庭状況の把握、また、補助員の支援に関する資質向上のために、各学校の学習支援補助員や生徒指導関係者が情報共有・交換できる場を設け、よりよい学習支援の取り組み方について検証・実践していく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
6,013	6,013	4,810	1,203	0



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○学習支援補助員の採用については、面接を行い採用している。</p> <p>○予算規模は、事業に見合った規模と考える。</p> <p>○費目・使途については、出勤簿や業務日誌等の書類により確認、適正である。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		豊見城市									
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】											
事業番号・事業名	5-⑧		パソコン教室整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(3)-ウ					
	担当部課名	学校教育課 学校教育課		事業実施(予定)年度	平成25~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	多様な情報系人材の育成・確保				
事業内容		パソコンを活用した学習カリキュラムを実施し、生徒の学習への興味、関心を高めながら学力の定着及び向上を図る他、情報端末操作技術の向上等、情報活用能力の向上のため、市内各小中学校におけるパソコン教室に備品(パソコン)を整備する。									
実施方法		<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()									
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	25年度		26年度		27年度		28年度		29年度	
		(a)当初予算額	11,125	22,950	25,000	64,065					
	(b)予算現額	11,125	22,950	22,626	62,843						
	(c)増減額(b-a)	0	0	▲2,374	▲1,222						
	(d)繰越額	-	-	-	-						
	A.計(b+d)	11,125	22,950	22,626	62,843						
	B.執行済額	11,015	22,405	22,626	62,843						
	うち交付金充当額	8,812	17,923	18,100	50,274						
	次年度繰越額	-	-	-	-						
	執行率(%) (B/A)	99.0%	97.6%	100.0%	100.0%						
予算の状況の説明		入札により、事業計画どおり適正に執行できた。入札残について、減額補正した。									
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況								
			25年度	26年度	27年度	28年度					
	5学校のパソコン教室のパソコン整備(サーバー機1台、先生機1台、生徒機42台)		目標 (1校)	(2校)	(2校)	(5校)					
			実績	1校	2校	2校	5校				
			目標	()	()	()	()				
		実績									
達成状況説明		情報化社会に対応する人材育成のため、パソコン教室に新たな機器を購入することにより、情報教育の質の向上が図れた。									
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(33年度)				
	ICT機器等活用率:前年比+0.5ポイント		目標 ()	(小学校:85.1% 中学校:50.1%)	(小学校:72.3% 中学校:25.1%)	(小学校:66.7% 中学校:34.9%)	(小学校:90% 中学校:90%)				
			実績	小学校:71.8% 中学校:24.6%	小学校:66.2% 中学校:34.4%	小学校:65.8% 中学校:45.2%					
			目標	()	()	()	()				
			実績								
進捗状況説明		児童生徒のコンピューターを活用した授業の推進を図るため、5校のパソコン教室にパソコンを整備した。情報化社会に対応する人材育成のため、パソコン教室に新たな機器を購入することにより、情報教育の質の向上が図られた。今後も、パソコンの整備が必要な学校を対象に、順次整備していく。 なお、小学校では、「パソコンで名刺をつくる」ことができる児童が大きく減少した影響で、ICT機器等活用率が65.8%(前年比△0.4ポイント)まで低下し、目標の達成に至らなかった。中学校のICT機器等活用率は45.2%(前年比+10.8ポイント)と大きく上昇し、目標を達成できた。									

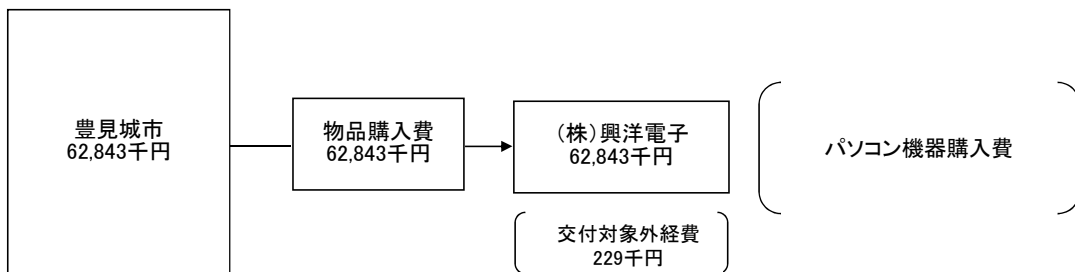
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>小学校では、「パソコンで名刺をつくる」ことができる児童が大きく減少した影響で、ICT機器等活用率が65.8%(前年比△0.4ポイント)まで低下し、H28目標値を達成できなかった。</p> <p>整備したタブレット端末対応の学習支援ソフトには「名刺作成機能」が含まれていないことが原因だと考えられる。</p>	<p>ICT機器等活用率の小学3年生の項目に「パソコンで名刺などをつくることができる。」と表記されているが、名刺作成機能が無いために「名刺作成はできない。」と回答した児童が多くなっている。</p> <p>「パソコンで新聞などをつくることができる。」と分かり易い表現に変更することで「できる。」児童が増え、ICT機器等活用率が向上する可能性が上がる。</p>

今後の取り組み方針

ICT機器等活用率のアンケートにおいて、小学校・中学校ともに、活用する学習支援ソフトに対応した項目を設定し、児童生徒が理解し易い表記をするように心掛ける。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		交付金	市町村負担金	
63,072	62,843	50,274	12,569	229



資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○支出先については、指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。</p> <p>○予算規模は、事業に見合った規模であった。</p> <p>○費目・使途については、事業目的達成のため必要であった。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	豊見城市						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-⑨	中学校デジタル教科書整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(3)-ウ		
担当部課名	学校教育課	事業実施(予定)年度	平成28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	多様な情報系人材の育成・確保 Ⅲ-3-(1)		
事業内容	画像、音声及び動画など、マルチメディア資料を豊富に含むデジタル教科書を各中学校へ整備し、パソコン教室や電子黒板で活用するなど、学習環境の向上を図ることにより、児童生徒の学習に対する興味・関心を高める。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
	(a) 当初予算額	5,448					
	(b) 予算現額	5,441					
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 7					
	(d) 繰越額	—					
	A. 計 (b+d)	5,441					
	B. 執行済額	5,350					
	うち交付金充当額	4,279					
	次年度繰越額	—					
	執行率 (%) (B/A)	98.3%					
予算の状況の説明	随意契約及び入札により、事業計画どおり適正に執行できた。 随意契約分〔国語、地図・地理・歴史、公民、数学、科学、技術・家庭、英語〕(理由:教科書会社が専売契約を行っているため) 入札分〔音楽、器楽、美術〕						
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)	達成状況					
			28年度	29年度	30年度	31年度	
	市立3中学校へのデジタル教科書の配備	目標	(配備)	()	()	()	
		実績	配備				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	市立3中学校の普通教室、特別支援教室及び特別教室へ整備した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)	基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)	
	デジタル教科書の配備:中学校3校完了	目標	()	中学校3校完了	()	()	()
		実績		中学校3校完了			
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	豊見城市立全中学校にデジタル教科書を整備し、目標を達成できた。						

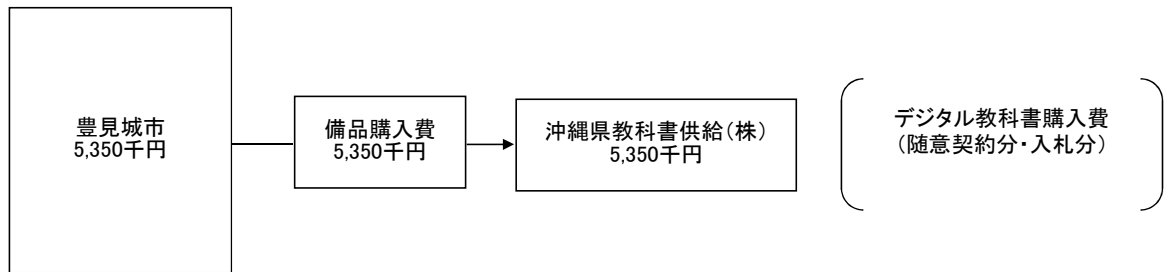
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>市立3中学校にデジタル教科書を整備することで、市内の中学校の全教室において電子黒板及びデジタル教科書を活用した授業が実施できる環境が整った。</p> <p>電子黒板とデジタル教科書を連携して活用することで、児童生徒の学習への興味・関心を高め学力の向上を図る。</p> <p>新任教諭及び他市町村から異動してきた教諭に対して、電子黒板及びデジタル教科書を活用した授業の取り組みへの支援が必要だと考える。</p>	<p>新任教諭及び他市町村から異動してきた教諭を対象とした講習会を実施することで、指導力の底上げを図る。また、教諭同士の勉強会や校内研修で使用方法について情報共有し、デジタル教科書の活用の向上を図る。また、電子黒板の機能を活用した効果的な授業ができるように取り組む。</p>

今後の取り組み方針

電子黒板とデジタル教科書の機能を活用して効果的な授業ができるように取り組む。また、平成30年度には道徳が教科化されるため、デジタル教科書を追加整備する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
5,350	5,350	4,279	1,071	0



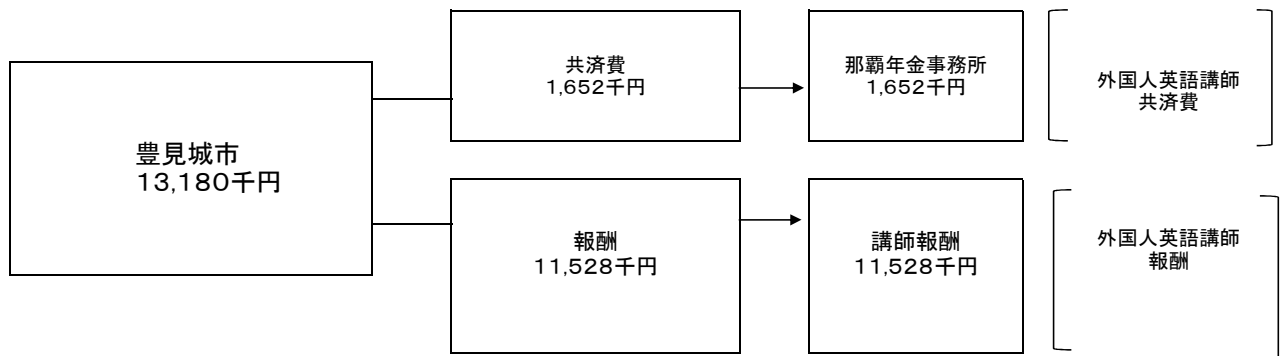
資金の用途の点検・費目・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○支出先については、一部随意契約となっているが、教科書会社が代理店と専売契約を行っている為であり、妥当であったと考えている。</p> <p>○予算規模は、事業に見合った規模であった。</p> <p>○費目・用途については、事業目的達成のため必要であった。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		豊見城市					
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-10	外国人英語講師配置事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア	
担当部課名	学校教育課	事業実施(予定)年度	平成25~33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	児童生徒の英語学習や国際理解教育の向上を図るため、外国人英語講師を配置する。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	15,822	15,905	13,200	13,266	
		(b) 予算現額	14,014	15,715	13,200	13,266	
		(c) 増減額(b-a)	▲1,808	▲190	0	0	
		(d) 繰越額	-	-	-	-	
		A. 計(b+d)	14,014	15,715	13,200	13,266	
	B. 執行済額		14,013	13,026	13,137	13,180	
	うち交付金充当額		11,210	10,421	10,509	10,543	
	次年度繰越額		-	-	-	-	
	執行率(%) (B/A)		100.0%	82.9%	99.5%	99.4%	
予算の状況の説明		事業計画通り適正に執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	外国語英語講師(ALT)の配置数 外国人:4名	目標	(4人)	(4人)	(4人)		
		実績	4人	4人	4人		
			目標	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	外国人英語講師を4人雇用し、市内小中学校へ配置した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(33年度)
	児童生徒の英語学習への興味・関心度 66%	目標	()	(100%)	(66%)	(66%)	()
		実績	/	100%	72.20%	68.50%	/
			目標	()	()	()	()
			実績	/			/
進捗状況説明	外国人英語講師を配置し、小中学校での外国人との実践的なコミュニケーションを図ることで、児童生徒の英語学習に対する興味関心を十分に引き出し、英語活動や国際理解教育に対する関心度の向上を図ったことから目標値を達成できたが、前年度に比べるとアンケート項目の「英語の学習が好き」や「外国に行ったときに英語を使ってみよう」などの関心度が低下した。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>児童生徒の英語学習に対する関心度の向上・維持を行うためにも、さらなる実践的なコミュニケーション能力の向上を養うこととしているが、英語に対して興味薄い児童生徒に対しての取り組みが必要である。</p>	<p>チームティーチングを行う英語科教諭と連携を密にし、児童生徒の興味関心を引き出すよう努める。また、小学校においては、学級担任だけではなく、外部から派遣している英語指導講師とも連携をとり授業を実践していく必要がある。</p>
今後の取り組み方針		
<p>外国人英語講師を継続的に配置し、児童生徒の実践的なコミュニケーション能力を養うことにより、英語学習に対して積極的な取り組みができるよう授業を展開していく。また、各学校の英語担当教諭との意見交換、情報共有を積極的に行っていく。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
13,180	13,180	10,543	2,637	0



資金の 使途の 流れ、 点検 評価 ・ 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○外国人英語講師の採用については、面接を行い採用している。</p> <p>○予算規模は、事業に見合った規模と考える。</p> <p>○費目・使途については、出勤簿や業務日誌等の書類により確認、適正である。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		豊見城市					
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-①	小学校英語活動講師派遣事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア	
担当部課名	学校教育課	事業実施(予定)年度	平成25～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	国際化時代に対応できる人材の育成を目的に、小学校の外国語活動や総合的な学習の時間に日本人英語講師を派遣する。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	(a) 当初予算額	7,086	7,128	7,013	7,277		
	(b) 予算現額	7,087	6,697	6,867	7,277		
	(c) 増減額 (b-a)	1	▲ 431	▲ 146	0		
	(d) 繰越額	—	—	—	—		
	A. 計 (b+d)	7,087	6,697	6,867	7,277		
	B. 執行済額	7,087	6,669	6,771	7,164		
	うち交付金充当額	5,669	5,335	5,416	5,731		
	次年度繰越額	—	—	—	—		
	執行率 (%) (B/A)	100.0%	99.6%	98.6%	98.4%		
予算の状況の説明	小学校へ英語指導講師を派遣。事業計画通りに執行。						
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	英語指導講師派遣校数 小学校:8校	目標	(7校)	(7校)	(8校)	(8校)	
		実績	7校	7校	8校	8校	
	目標	()	()	()	()		
	実績						
達成状況説明	市内8小学校へ7人の英語講師を派遣し、2,605時間の授業を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(33年度)
	児童の英語学習への興味・関心度75%	目標	()	(100%)	(75%)	(75%)	()
		実績		100%	75.20%	69.95%	
		目標	()	()	()	()	()
	実績						
進捗状況説明	市内小学校へ英語指導講師を派遣し、児童の実践的なコミュニケーション能力の向上を図った。また、各学年に応じた授業展開を行うことにより、児童の英語学習に対する興味関心を十分に引き出し、英語活動や国際理解教育に対する関心度の向上を図ったが、関心度について目標にしていた75%を下回る結果となった。						

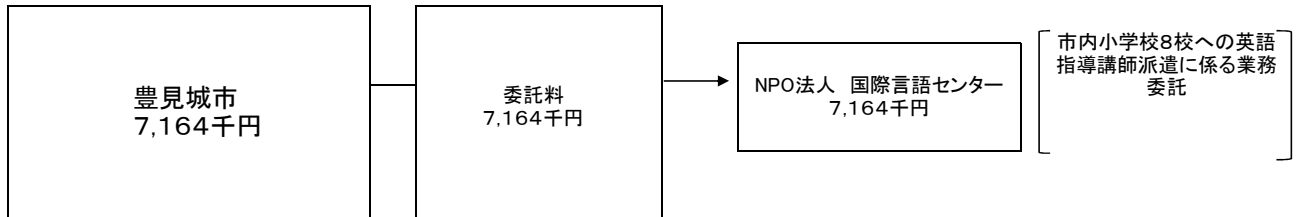
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	国際化時代に対応できる人材の育成を目的に、外国語活動や総合の時間に日本人英語講師を派遣し、小学校から国際理解の充実を図る。そのためにはコミュニケーションの手段として外国語を活用する楽しさを感じることが必要であるが、実際にそのような機会は多くはない。そこで、小学校各学年に応じたカリキュラムで授業の中に機会を設け、コミュニケーションの取り方を工夫する必要がある。	児童が興味関心を持つプログラムの検討、教材の作成が必要となる。また、学級担任や外国人英語講師とともに授業内容について創意工夫を行い、児童が外国語に対して、興味を持ち、積極的に授業に参加できる仕組みを作る。

今後の取り組み方針

英語指導講師の派遣を継続的に行い、児童の実践的なコミュニケーション能力を養うことにより、積極的な取り組みができるよう授業等を検討する。また、スムーズに中学校の英語授業に対応できるよう環境の構築を行っていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
7,164	7,164	5,731	1,433	0



資金の流し、用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の流し、用途の点検・評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	○日本人英語講師を多人数(7人)派遣することが可能である事業者と随契を行った。 ○予算規模は、事業に見合った規模と考える。 ○費目・用途については、業務日誌等の書類により確認、適正である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	豊見城市						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-⑫	児童生徒派遣費補助事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-イ	
担当部課名	学校教育課 生涯学習部	学校教育課 生涯学習振興課	事業実施(予定)年度	平成25~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	能力を引き出し、感性を磨く人づくりの推進 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	本市の児童生徒がスポーツ及び文化活動において、県代表として県外大会へ出場する際に必要な派遣費の助成を行う。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	5,600	15,276	7,200	7,200	
		(b)予算現額	4,742	6,584	7,200	6,676	
		(c)増減額(b-a)	▲858	▲8,692	0	▲524	
		(d)繰越額	-	-	-	-	
		A.計(b+d)	4,742	6,584	7,200	6,676	
	B.執行済額		4,742	6,584	5,361	5,660	
	うち交付金充当額		3,793	5,267	4,288	4,527	
	次年度繰越額		-	-	-	-	
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	74.5%	84.8%	
予算の状況の説明		執行率が84.8%となっており、昨年度に比べて事業を適正に行うことができた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			28年度	29年度	30年度	31年度	
	児童生徒派遣費の一部を助成	目標	(派遣費の一部助成)				
		実績	派遣費の一部助成				
		目標	()			()	
		実績					
達成状況説明	県外大会へ出場する児童生徒に対して、派遣費補助を行うことができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)
	助成対象者へ対する助成件数(%) : 100%	目標	()	(100%)	()	()	()
		実績		99%			
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	県外大会へ出場する児童生徒に対して、派遣費補助を行い、本市の人材育成に役立てることができた。しかし、一部の申請者による必要書類の提出(実績報告)がなかったため、交付決定取り消しを行い、目標値を下回る結果となった。					

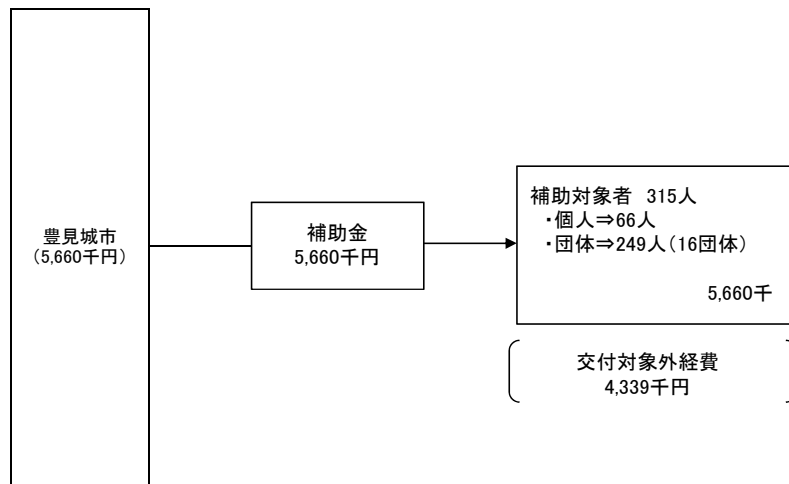
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>補助件数、人数は昨年度よりは微増したが、大きく増加することはなかった。 交付決定後に実績報告がなく、交付決定が取り消しになるケースが2件あった。</p>	<p>保護者への周知を徹底すれば、被補助者の増加が期待できる。 また、交付決定後に申請者への連絡を徹底することで、実績報告書の未提出による交付決定の取り消しを防ぐ。</p>

今後の取り組み方針

市内各学校を通じ文書によるお知らせと、市の広報やホームページを利用して派遣費補助金の周知をして継続して対象となる児童生徒の補助を行い、児童生徒の人材育成に寄与する。
 H28年度までは申請窓口が2課にわかれていたが、今後は申請窓口を一本化し、より分かりやすく申請案内ができるようにする。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
9,999	5,660	4,527	1,133	4,339



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助(支出先)は交付要綱に沿って行っており、選定方法は適正と考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、対象者からの申請に基づいた規模になっているため、適正である。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○交付金での対象は、航空運賃1/2であり、それ以外については、市負担、保護者負担となっているため、受益者との負担関係は妥当である。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○補助は交付要綱に沿って行っており、費目・使途は適正と考えている。

市町村名		豊見城市					
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-⑬		青少年国際交流事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-4-(1)-ア	
	担当部課名	生涯学習部 生涯学習振興課		事業実施(予定)年度	平成25~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際ネットワークの形成と多様な交流の推進 Ⅲ-3-(1)
事業内容	市内在住の中学生をハワイ州へ派遣し、英語環境で生活することを通して、英語に対する興味関心を更に高め、主体的、意欲的に学習する機会を提供して、次代を担う国際的な人材を育成する。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	4,734	6,325	6,300	7,109	
		(b) 予算現額	5,436	6,546	5,869	7,270	
		(c) 増減額 (b-a)	702	221	▲ 431	161	
		(d) 繰越額	-	-	-	-	
		A. 計 (b+d)	5,436	6,546	5,869	7,270	
	B. 執行済額		4,578	5,692	5,165	6,565	
	うち交付金充当額		3,662	4,552	4,131	5,252	
	次年度繰越額		-	-	-	-	
	執行率 (%) (B/A)		84.2%	87.0%	88.0%	90.3%	
予算の状況の説明		計画していた事業内容は全て予算内で執行できており、活動指標及び成果指標の達成状況からも適正であったと考えている。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	市内中学生14名をハワイ州に派遣	目標	(14名)	(14名)	(14名)	(14名)	
		実績	14名	14名	14名	14名	
	報告会の開催(1回)	目標	(1回)	(1回)	(1回)	(1回)	
実績		1回	1回	1回	1回		
達成状況説明	市内在住の中学生(14名)に対して、ハワイ州(オアフ島)へ派遣し、ホームステイ等をしながらか文化・歴史等の視察学習や現地学校での短期留学ができ充実した研修ができた。帰国して報告会を開催し、英語や日本語で現地研修について一人一人発表できた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	語学力向上等の興味関心度90%以上	目標	()	(70%)	(90%)	(90%)	()
		実績		93%	85%	100%	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	派遣後、現地(ハワイ・オアフ島)で学んだ文化・歴史等を派遣生徒や関係者(保護者等)を招いて報告会を行った。また、団員は現地でハワイの方と積極的にコミュニケーションをとっており、研修終了後の団員に語学力が上達したかのアンケート調査を行った結果、全団員が上達したと回答したことから興味関心度100%となった。今年度も昨年度同様、事前研修での英会話教室を充実させ、現地研修を有意義な研修にする。(英会話教室5回:1回1時間30分)						

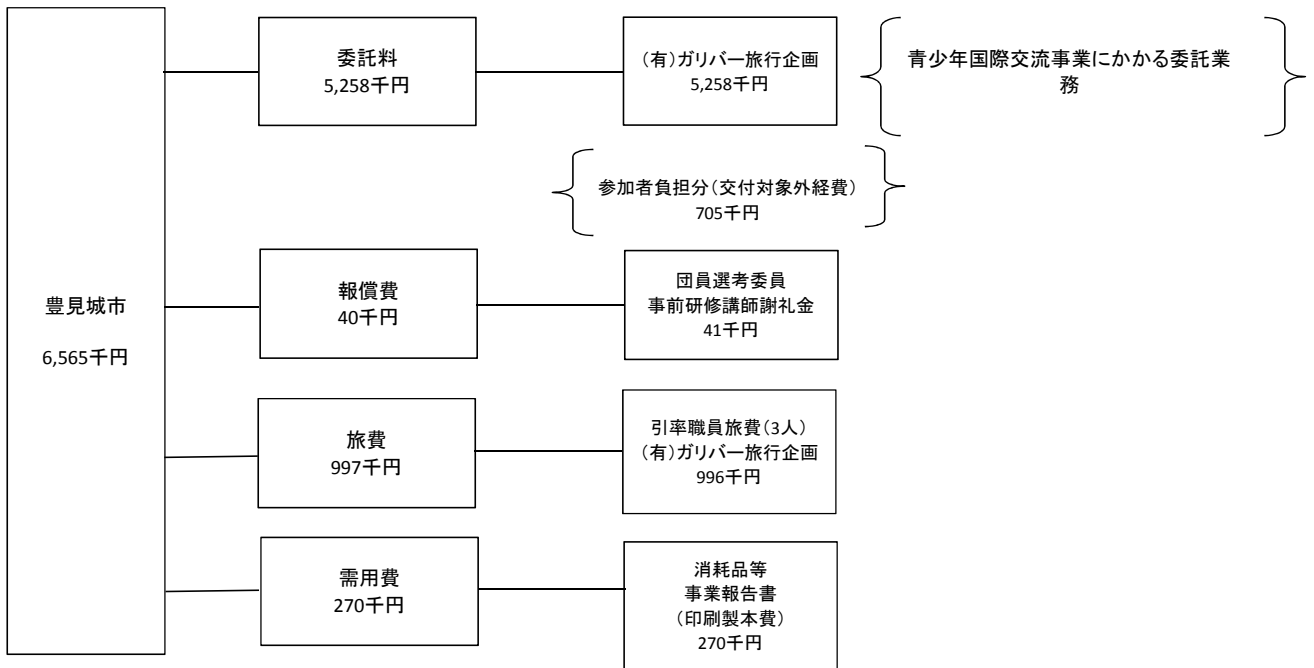
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>当事業は、リーダー育成を目的に行っているものだが、例年市内中学校生は学校で私立中学校生は市教育委員会で面接を実施し派遣団員を決定していた。</p> <p>そのため、現地で積極的に会話する団員もいればそうでない団員もいて各学校で選考された団員によってリーダー性にかたよりがあったことが課題。また、現地(ハワイ州)でコミュニケーションを高めるための英語学習が必要とされる。</p>	<p>平等性が保てて、リーダー性がある団員を選考できる試験方法を考える。</p> <p>コミュニケーションを高めるためには、英語力の強化が必要。英語力が向上することにより、積極的に会話ができるようになり、リーダー育成にも繋がる。</p>

今後の取り組み方針

今後の派遣団員選考試験として一次試験、二次試験に分ける。
 一次試験は英語テストを行い、二次試験は面接を行う。そのときの二次試験は全て市教育委員会で行う。
 そうすることで、語学力を評価でき平等性を保つことができる。また、コミュニケーション向上に繋がるプログラムを計画する。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
7,270	6,565	5,252	1,313	705



資金の流 れの流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は指名競争入札により企業組織、実績、知識等勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	○予算規模は事業内容(期間及び派遣人数等)に適していたと考える。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○参加料及び委託料等の受益者負担割合は適していたと考える。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○事業目的達成に適した使途の支出であったと考えている。

市町村名		豊見城市					
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-14		電子黒板整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(3)-ウ	
	学校教育部 学校教育課		事業実施(予定)年度	平成25~28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	多様な情報系人材の育成・確保	
担当部課名	学校教育部 学校教育課		事業実施(予定)年度	平成25~28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)	
事業内容	ICT活用を図り、効果的な授業を展開することで、児童生徒の理解を深めるため、特別支援教室及び普通教室の増クラス分へ電子黒板を整備する。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	246,400	107,775	16,566	8,445	
		(b) 予算現額	222,201	106,809	16,566	18,213	
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 24,199	▲ 966	0	9,768	
		(d) 繰越額	-	-	-	-	
		A. 計 (b+d)	222,201	106,809	16,566	18,213	
	B. 執行済額		222,201	104,311	16,178	18,212	
	うち交付金充当額		177,760	17,923	12,942	14,569	
	次年度繰越額		-	-	-	-	
	執行率(%) (B/A)		100.0%	97.7%	97.7%	100.0%	
予算の状況の説明		当初予算では、特別支援教室のH28年度増クラス分の予定であったが、普通教室のH29年度増クラス見込分を増額補正した。入札により適正に執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	電子黒板の整備14台	目標	(電子黒板の整備)	(電子黒板の整備)	(12台)	(14台)	
		実績	電子黒板の整備	電子黒板の整備	12台	14台	
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	平成28年度に学級増又は平成29年度に学級増が見込まれた小学校7校及び中学校1校に電子黒板14台を整備した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(27年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(33年度)
	今年度は、電子黒板の整備を行い、ICT機器等活用率:前年比 +0.5ポイントにつなげる(操作・理解、関心・意欲)	目標	()	(小学校:66.7% 中学校:34.9%)	()	()	(小学校:90% 中学校:90%)
		実績		小学校:65.8% 中学校:45.2%			
	電子黒板活用教科数:2教科以上	目標	()	(・電子黒板の整備完了 ・2教科以上)	()	()	()
		実績		・電子黒板の整備完了 ・13教科			
	進捗状況説明	<p>小学校では、ICT機器等活用率のアンケートの一項目である「パソコンで名刺をつくる」ことができる児童が大きく減少した影響で、ICT機器等活用率が65.8%(前年比△0.4ポイント)まで低下し、目標の達成に至らなかった。中学校のICT機器等活用率は45.2%(前年比+10.8ポイント)と大きく上昇し、目標を達成できた。</p> <p>電子黒板活用教科数は、小学校及び中学校において13教科活用された。</p>					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>学級増となる教室に電子黒板を整備することで、市内の小中学校の全教室において電子黒板及びデジタル教科書を活用した授業が実施できる環境が整った。</p> <p>電子黒板とデジタル教科書を連携して活用することで、児童生徒の学習への興味・関心を高め学力の向上を図る。</p>	<p>児童生徒数が毎年増えているので、教室増となる場合には、授業に支障がないように、速やかに電子黒板を整備する必要がある。</p> <p>特別支援教室は1学級8人までなので、普通教室に比べて学級数の増減への影響が大きい。</p>
今後の取り組み方針		
<p>児童生徒数の動向を注視し、予算編成時期までに次年度教室数の増減把握に努める。</p> <p>電子黒板及びデジタル教科書の操作研修会等を行い、発展的な活用を考える。</p>		

資金の流れ					
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
	18,212	18,212	14,569	3,643	0
<pre> graph LR A[豊見城市 18,212千円] --> B[備品購入費 18,212千円] B --> C["(株)オフィスとよみ 8,082千円"] B --> D["(株)興洋電子 10,130千円"] C --- E["(株)オフィスとよみ 8,082千円"] D --- E subgraph E [電子黒板購入費] C D end </pre>					

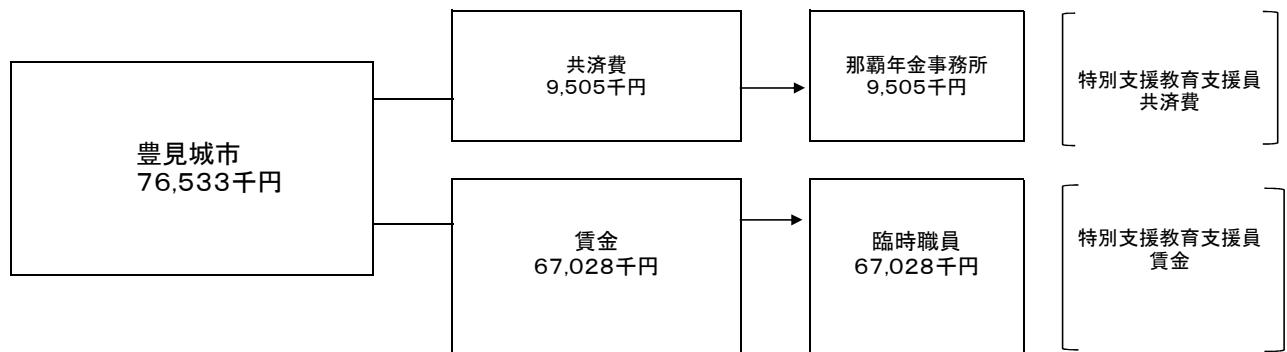
資金の用途の流れ、点検・費目・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○支出先については、指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。</p> <p>○予算規模は、事業に見合った規模であった。</p> <p>○費目・用途については、事業目的達成のため必要であった。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	豊見城市						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-15	特別支援教育支援員配置事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア	
担当部課名	学校教育部 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成28~33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	市立幼稚園・小中学校において、特別に支援を要する幼児児童生徒の教育活動の充実を図るため特別支援教育支援員を配置し支援を行う。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
	(a) 当初予算額	114,576					
	(b) 予算現額	77,449					
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 37,127					
	(d) 繰越額	—					
	A. 計 (b+d)	77,449					
	B. 執行済額	76,533					
	うち交付金充当額	61,226					
	次年度繰越額	—					
	執行率 (%) (B/A)	98.8%					
予算の状況の説明	当初予算額より予算現額少ない理由については、特別支援教育支援員の確保に苦慮し、人材が集まらなかったため予算の減額を行った。補正後、予定通りの執行率となった。						
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			28年度	29年度	30年度	31年度	
	特別支援教育支援員の配置:77人	目標	(77人)				
		実績	58人				
		目標	()				
		実績					
達成状況説明	幼稚園において32人配置予定のうち15人、小中学校においては45人配置予定のうち43人の配置となり、活動目標の達成に至らなかった。特別支援教育支援員については募集を行ったが応募がなく、人材不足により配置ができず未達成となった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(33年度)
	支援を要する園児児童生徒への配置(%):100%	目標	()	(100%)			()
		実績		76.24%			
		目標	()	()			()
		実績					
	進捗状況説明	小中学校においては、特別な支援を必要としている児童生徒に対して、特別支援教育支援員の配置が多かったのは年末となり、45人必要としているなかで43人の確保ができたが、年度始めについて十分な支援員の配置が行えなかった。幼稚園においては、対象児童21名に対し15名の配置となり、人材不足から十分な配置が行えなかった。年度当初より支援員の配置について募集を行ったが人材の確保に苦慮し十分な支援員の配置が行えなかった。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>特別な支援を必要としている児童生徒に対して、特別支援教育支援員の配置が多くなったのは年末となっており、年度初めについては十分な支援員の配置が行えなかった。特別支援教育支援員については教員免許を有していることを採用の優先条件としているが、教員採用試験の時期については募集に対する人員が集まらない現状がある。しかしながら、教員免許保持者を採用することできめ細やかな支援が行われている。</p> <p>幼稚園においては、人材不足から十分な配置が行えなかった。全体的に幼稚園教諭、保育士不足の状況にあるため、目標の人員確保ができていない状況にある。</p>	<p>特別支援教育支援員の基準緩和、待遇見直し等を含め人材確保策を検証していく必要がある。</p>
今後の取り組み方針		
<p>特別支援教育の更なる質向上ときめ細やかな支援を拡充するため、新たに可能な特別支援教育支援員確保策として資格必須の条件の弾力化を検討する。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
76,533	76,533	61,226	15,307	0



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○特別支援教育支援員の採用については、面接を行い採用している。</p> <p>○予算規模は、事業に見合った規模と考える。</p> <p>○費目・使途については、出勤簿や業務日誌等の書類により確認、適正である。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

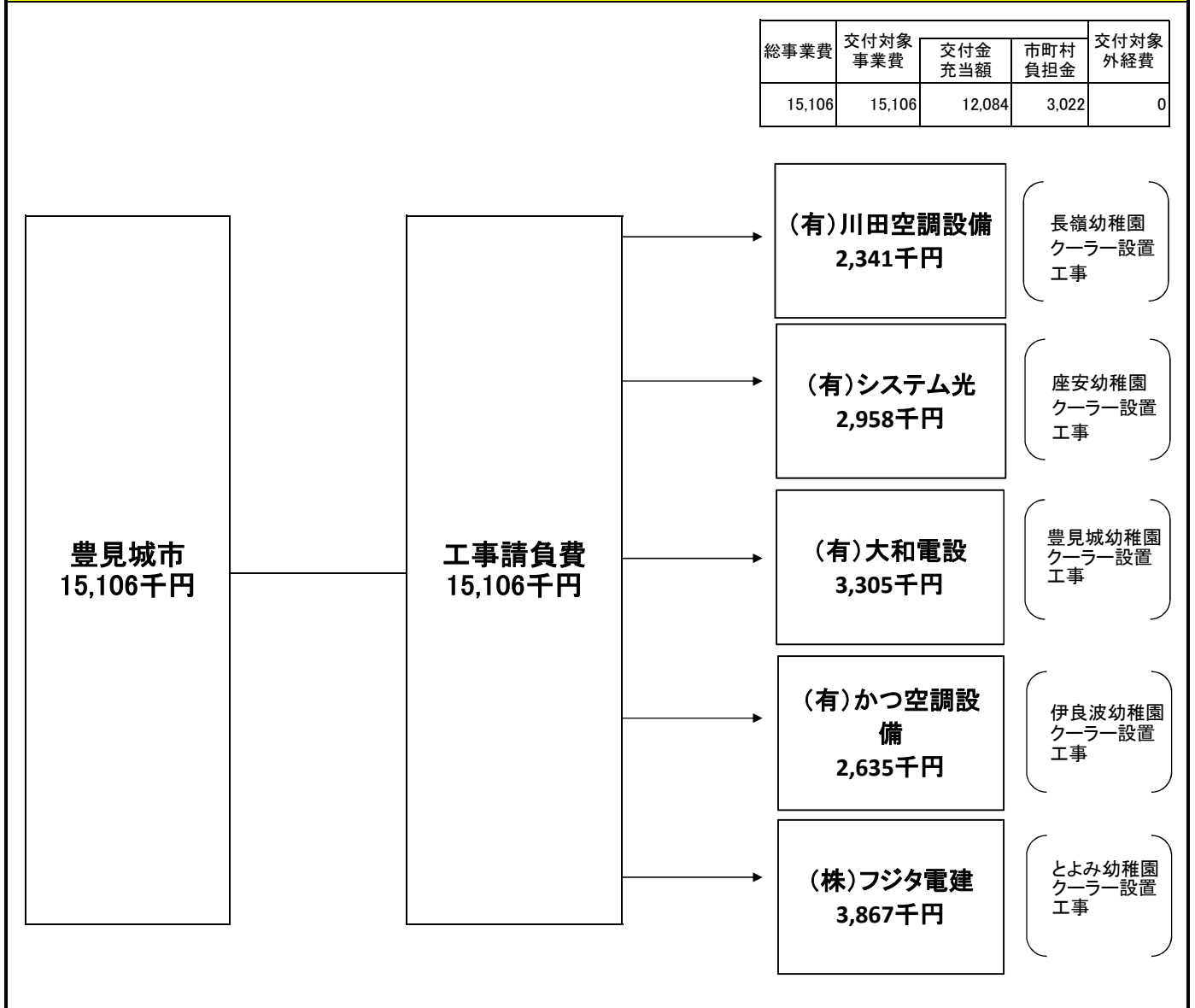
市町村名	豊見城市						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-⑩	幼稚園保育室等クーラー設置事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(3)-ウ		
担当部課名	学校教育部 学校施設課	事業実施(予定)年度	平成28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	多様な情報系人材の育成・確保 Ⅲ-3-(1)		
事業内容	亜熱帯気候である沖縄は、年間を通して高温多湿な状況が長期間続く地域である。園児の健康維持や熱中症対策を行う必要があることから、クーラー設置を行う。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	16,038				
		(b) 予算現額	15,106				
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 932				
		(d) 繰越額	0				
		A. 計 (b+d)	15,106				
		B. 執行済額	15,106				
		うち交付金充当額	12,084				
		次年度繰越額	0				
		執行率 (%) (B/A)	100.0%				
予算の状況の説明	入札により予算に残額が生じたため、減額補正を行った。						
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			28年度	29年度	30年度	31年度	
	整備園数:5幼稚園(13室) 「長嶺幼稚園・座安幼稚園・豊見城幼稚園・伊良波幼稚園・とよみ幼稚園」	目標	(13室)				
		実績	13室				
		目標	()				
	実績						
達成状況説明	活動目標どおりの13室すべての整備がなされた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)
	整備園数:5幼稚園(13室) 「長嶺幼稚園・座安幼稚園・豊見城幼稚園・伊良波幼稚園・とよみ幼稚園」	目標	()	(13室)			
		実績		13室			
		目標	()	()			
		実績					
進捗状況説明	本事業により、市立幼稚園8園すべての保育室にクーラーの設置を完了し、園児が快適に学習できる環境を整えることができた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	熱帯気候である沖縄は、年間を通して高温多湿な状況が長期間続くことから、園児の学習環境をより効率的に改善する必要がある。	空調設備が使用される時期から逆算して工事を発注することで、空調設備が必要とされる時期に良好な学習環境であったため、改善の必要はないものと考えられる。

今後の取り組み方針

推進上の留意点及び改善余地の検証の結果から、学習環境の改善が必要な教室については空調設備の設置を検討していく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。 ○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		豊見城市						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	5-⑪		小中学校クーラー設置事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(3)-ウ		
	学校教育部 学校施設課		事業実施(予定)年度	平成24~28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	多様な情報系人材の育成・確保		
担当部課名						Ⅲ-3-(1)		
事業内容	亜熱帯気候である沖縄は、年間を通して高温多湿な状況が長期間続く地域である。小中学生の健康維持や熱中症対策を行う必要があることから、クーラー設置を行う。							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額			6,278			10,248
		(b) 予算現額	4,644	16,673			7,125	
		(c) 増減額 (b-a)	4,644	10,395			▲ 3,123	
		(d) 繰越額	-				-	
		A. 計 (b+d)	4,644	16,673			7,125	
	B. 執行済額		4,327	14,464			7,021	
	うち交付金充当額		3,460	11,571			5,617	
	次年度繰越額						0	
	執行率 (%) (B/A)		93.2%	86.8%			98.5%	
予算の状況の説明		当初、2小学校・2中学校でクーラーの設置を予定していたが、1中学校においては調査の結果、電気容量が不足することが懸念されたため、平成28年度での工事を取り止め、1中学校分の工事費2,732千円と設計委託料にかかる入札残391千円を減額した。						
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況					
			25年度	26年度	27年度	28年度		
	学校数:2小学校2中学校(9室) 「豊見城小学校・伊良波小学校」 「長嶺中学校・伊良波中学校」		目標 (小学校5校)	()	()	(小学校2校 中学校2校)		
			実績 小学校5校			小学校2校 中学校1校		
			目標 ()	()	()	()		
		実績						
達成状況説明	クーラーの設置(小学校)については当初予定の2小学校にクーラーの設置を実施した。クーラーの設置(中学校)については当初予定では2中学校であったが、伊良波中学校において調査の結果、電気容量が不足することが懸念されたため、平成28年度での工事を取りやめ、年度途中で1中学校の設置を目標とすることに変更し、1中学校の設置がなされた。							
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)	
	学校数:2小学校2中学校(9室) 「豊見城小学校・伊良波小学校」 「長嶺中学校・伊良波中学校」		目標 ()	(小学校2校 中学校2校)	()	()	()	
			実績	小学校2校 中学校1校				
			目標 ()	()	()	()	()	
			実績					
進捗状況説明	クーラーの設置(小学校)については当初予定の2小学校にクーラーの設置を実施した。クーラーの設置(中学校)については当初予定では2中学校であったが、伊良波中学校において調査の結果、電気容量が不足することが懸念されたため、平成28年度での工事を取りやめ、年度途中で1中学校の設置を目標とすることに変更し、1中学校の設置がなされた。							

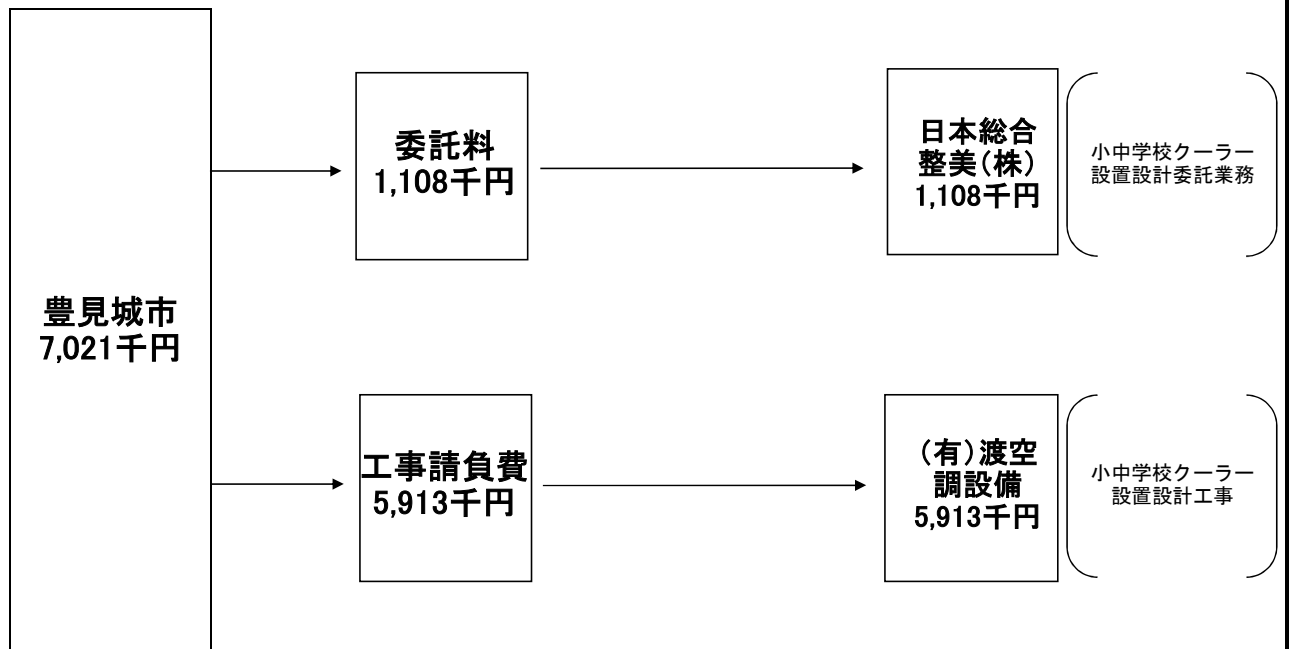
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	亜熱帯気候である沖縄は、年間を通して高温多湿な状況が長期間続くことから、児童・生徒の学習環境の改善をする必要があるために、平成28年度は、2小学校・1中学校について空調設備の設置に取り組んだ。学校からは暑さが増す梅雨明け(6月末)からの供用開始の要望や追加設置の要望がある。	空調設備が使用される時期から逆算して工事の発注計画を立てる必要がある。また、電気容量不足で実施できなかった学校があったことから、現場の調査や学校側との密な調整を事前に行う必要がある。

今後の取り組み方針

推進上の留意点及び改善余地の検証の結果から、今後も学習環境の改善が必要な教室については空調設備の設置を検討していく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
7,021	7,021	5,616	1,405	0



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○請負業者は、企業組織、実績、知識等を勘定した上で指名入札業者を選定し、入札を行っているため妥当であると考えている。 ○予算規模については、工事請負設計書を作成しているため、妥当であると考えている。 ○費目・用途については、書類や現場の確認等により、空調設備に必要なもので適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		豊見城市					
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-①	文化財説明板設置事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(5)-ア	
担当部課名	生涯学習部 文化課	事業実施(予定)年度	平成24~28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	文化資源を活用したまちづくり	
事業内容	本市に存する文化財の説明板を設置し、文化財に係る地域住民の理解を深め、保全を促すとともに、新たな文化、観光資源として活用を目指す。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度	28年度	
		(a)当初予算額	0	4,200	3,769	3,862	3,850
	(b)予算現額	0	4,200	2,883	3,326	3,553	
	(c)増減額(b-a)	0	0	▲886	▲536	▲297	
	(d)繰越額	3,990	-	-	-	-	
	A.計(b+d)	3,990	4,200	2,883	3,326	3,553	
	B.執行済額	3,354	3,296	2,883	3,326	3,553	
	うち交付金充当額	2,683	2,637	2,306	2,661	2,842	
	次年度繰越額	-	-	-	-	-	
	執行率(%) (B/A)	84.1%	78.5%	100.0%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明	委託費の入札残として297千円発生していたが、3月補正予算において不用額として減額した。						
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)	達成状況					
		25年度	26年度	27年度	28年度		
	市内文化財説明板設置件数 5基	目標	(5基)	(5基)	(5基)	(5基)	
		実績	5基	5基	5基	5基	
ホームページを活用した文化財説明板設置個所の紹介	目標	()	(紹介)	(紹介)	(紹介)		
	実績		紹介	紹介	紹介		
達成状況説明	市民に文化財等への理解・関心を深め、保全・継承を促すことを目的に文化財説明板を設置した。平成28年度は、字宜保のビジョン、字名嘉地のシーサー、字伊良波の伊良波収容所、字座安のイシマシモ一と三本松、字保栄茂の馬場と十五夜の5基の設置が完了し、目標数を達成した。 ホームページ上に文化財説明板の設置位置を累計29基(H24~28年度設置分25基+既設4基)を紹介を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)	基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)	
		見学者が文化財へ訪れやすい環境の整備(文化財説明板累計設置件数 25基)(HP内において設置個所の紹介 25件)	目標	()	(整備)	(整備)	(整備完了)
		実績		整備	整備	整備完了	
		目標	()	()	()	()	()
	実績						
進捗状況説明	文化財説明板の設置は当初計画の目標値を達成している。説明板設置によって当該文化財等の詳細な情報の周知が可能となった。そのことで「地域学習」や「地域づくり」「観光振興」にも寄与し、市の文化・歴史の発信につながっている。 また、ホームページ上に文化財説明板の設置位置を累計29基(H24~28年度設置分25基+既設4基)紹介しており、地図や名称をインターネット上で確認できるようにし、現地に訪れやすい環境を整備した。						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 文化財説明板の設置最終目標数である計25基について、平成28年度で5基設置完了した事で全体の100%(計25基)を完了した。 対象となる文化財の選定や地権者、地域との調整等を円滑に取り組むことで事業計画通りに設置する事が出来た。 市内に所在する文化財等の中から、文化財保護や地域の歴史文化に対する意識高揚の寄与が期待できる文化財等を優先的に選定し、説明板を設置した。 説明板を設置した文化財等の歴史資源について、その所在地の周知も設置と同時に行なった。説明板を設置した文化財等の周辺にも数多くの文化財が存在しているので、合わせて紹介することでより効果的な活用が期待される。 	<ul style="list-style-type: none"> 説明板設置した文化財を中心に、近隣にある文化財を周回が可能な周知方法を検討する必要がある。
	今後の取り組み方針	
<ul style="list-style-type: none"> 説明板を設置した文化財を巡る文化講座の開催や広報誌、ホームページ等を通じて市民に周知を図る。 		

資金の流れ					
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
	3,553	3,553	2,842	711	0
<pre> graph LR A[豊見城市 3,553千円] --> B[委託料 3,553千円] B --> C[株式会社アートリンク 3,553千円] C --- D[市内文化財説明板設置 に係る委託業務] </pre>					

資金の 使途の 流れ、 点検 評価 ・ 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ○委託事業者は、指名競争入札方式によって適切に選定している。 ○予算作成の際、毎年見直しを行い、適切に予算を設定している。 ○予算の費目・使途については、事業に必要最低限に設定し、執行している。
	○	予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		豊見城市					
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-②		小中学校「空手」習得事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(5)-ア	
	学校教育部 学校教育課		事業実施(予定)年度	平成27～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	文化資源を活用したまちづくり Ⅲ-3-(2)
事業内容	沖縄空手会館が本市に建設されることに伴い、沖縄の伝統文化である空手を習得し、演武できる児童生徒を輩出するため、市立小学校において、クラブ活動の時間に「空手」指導、中学校において、体育の授業を活用し、「空手」の指導を行う。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	2,208	2,208			
		(b) 予算現額	1,611	1,032			
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 597	▲ 1,176			
		(d) 繰越額	—	—			
		A. 計 (b+d)	1,611	1,032			
	B. 執行済額		921	879			
	うち交付金充当額		736	703			
	次年度繰越額		—	—			
	執行率 (%) (B/A)		57.2%	85.2%			
予算の状況の説明		小学校のクラブ活動及び体育の授業、中学校の武道の時間を活用して空手指導を行ったが、当初予定していた時間を下回ったため、執行残がでた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	空手指導者の派遣 小学校8校、中学校3校	目標	(小学校8校 中学校3校)	(小学校8校 中学校3校)	()	()	
		実績	小学校8校 中学校3校	小学校8校 中学校3校			
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	小学校8校へ12人の空手指導者を派遣し、73時間のクラブ活動を実施した。また、小学校1校へ1人の空手指導者を派遣し、5時間の授業を実施した。中学校3校へ7人の空手指導者を派遣し、215時間の授業を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(26年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(33年度)
	習得率(演武できる割合) 60%(習得人数/受講児童生徒数)	目標	()	(60%)	(60%)	()	(75%)
		実績		67.8%	70.3%		
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	沖縄の伝統文化である空手を演武できるように空手指導者を派遣した。受講した児童生徒における演舞の習得率は70.3%となり、当初の目標を達成できた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	ある中学校において、昨年度に引き続き校区内の空手指導者に依頼した。中学校側は普及型Ⅰ・Ⅱの指導を希望していたが、その指導者の流派では「普及型Ⅲを指導しているので、普及型Ⅰ・Ⅱは指導できない。」とのことだったので、急遽、替わりの指導者を探すことになった。	普及型Ⅰ・Ⅱを取り入れている流派と普及型Ⅲを取り入れている流派があり、全てに対応できる流派はないことが分かった。今後は、事前に学校の要望を確認してから各流派の空手指導者に確認した上で割り当てていく。
今後の取り組み方針		
<p>今後は、事前に学校の要望を確認してから各流派の空手指導者に確認した上で割り当てていく。 平成33年度に習得率が75%になるように、継続して取り組んでいく。</p>		

資金の流れ					
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
	879	879	703	176	0
<pre> graph LR A[豊見城市 879千円] --> B[報償費 879千円] B --> C[空手指導者12名 879千円] subgraph D [空手講師謝礼金] C end </pre>					

資金の 使途の 流れ、 点検 評価 ・ 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○指導員は基本的に校区内の道場に依頼した。 ○予算規模は、事業に見合った規模であった。 ○費目・使途については、活動日誌にて確認しており、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		豊見城市					
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-③		フィルム資料収集事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(5)-ア	
	担当部課名		生涯学習部 文化課	事業実施(予定)年度	平成28~31年度	沖縄振興基本方針該当箇所	文化資源を活用したまちづくり Ⅲ-3-(2)
事業内容	<p>近代の歴史資料であるフィルム資料の収集を通じて、郷土資料の充実に資するため、豊見城に関するフィルム資料を収集し、撮影位置を調査・記録さらに原本の保存および複写を行う。</p> <p>「豊見城市民が歩んだ沖縄戦からの復興と生活」をテーマに、沖縄戦をはじめとする様々な歴史的な出来事に対して、豊見城市民が共に歩んできた様子、さらにそれらに立ち向かい復興を果たしてきた状況を伝える郷土の歴史資料を収集する。</p> <p>収集した写真を基にトークイベントを開催し、市民への公開と更なる収集の呼びかけを行う。合わせて各機関が所蔵する豊見城市に関わるフィルム資料の収集を行う。</p>						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	3,230	-	-	-	-
		(b) 予算現額	3,230	-	-	-	-
		(c) 増減額 (b-a)	0	-	-	-	-
		(d) 繰越額	0	-	-	-	-
		A. 計 (b+d)	3,230	-	-	-	-
	B. 執行済額		3,196	-	-	-	-
	うち交付金充当額		2,556	-	-	-	-
	次年度繰越額		0	-	-	-	-
	執行率 (%) (B/A)		98.9%	-	-	-	-
予算の状況の説明		適正な積算と計画の結果、事業計画通りに執行を行えた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			28年度	29年度	30年度	31年度	
	トークイベントの開催 4回	目標	(4回)	()	()	()	
		実績	4回				
	他機関写真フィルム資料事前調査	目標	(事前調査実施)	()	()	()	
		実績	実施完了				
達成状況説明	<p>収集した写真の公開と更なる収集の呼びかけを目的に、字高安、字嘉数、字渡橋名、字与根の4地域において古写真トークイベントを開催し、目標を達成した。</p> <p>米国立公文書館に収蔵していると予想されている豊見城市に関連する写真資料について、資料の実数や撮影地域、内容、時期について事前調査を行い、資料目録を作成した。</p>						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)
	収集写真枚数 250枚	目標	()	(250)	()	()	()
		実績		813			
	他機関所蔵写真フィルム目録作成	目標	()	(目録作成)	()	()	()
		実績		目録完成			
	進捗状況説明	<p>個人や自治会等が所蔵している写真は、地域の歴史を写した貴重な歴史資料であるが一般に公開されていない状況であった。多くの市民に地域の歴史資料を公開するため、資料のデジタル化と権利処理を行った。収集活動と古写真トークイベントを開催するにあたり、各自治会の積極的な協力が得られたことで、多くの個人から写真資料の寄贈を得られた。その結果、当初計画の目標値250枚を大幅に超え、813枚を収集し目標値を達成した。</p> <p>米国立公文書館で行った事前調査によって、資料の目録が完成した。今後、目録を基に収集計画を策定し収集を進めていく。</p>					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	・写真資料の所有者と調整した結果、原本の寄贈による保存を希望しない所有者が多かったため、資料のデジタル化を行い、原本は返却した。	・原本の保存については、所有者の意向に沿った弾力的な対応を行う。
	・デジタル化した資料データの公開について、所有者によってさまざまな意向が存在した。	・デジタル化した資料データの権利処理については、所有者の意向を確認し文書化する事で、利活用が行われやすい環境を整備していく。
	・写真資料を収集活動を行っていく中で、地域によって人口や沖縄戦、台風被害やカメラ所有者の数など様々な要因で資料数の偏りが見られ、資料数の少ない地域が存在する。	・地域の公民館等で開催するトークイベントや収集活動において、周知活動をより効果的・広域的に行い、当該地域住民でなく広域的に資料収集を呼びかける。

・収集した資料はトークイベントを開催する事で、地域に公開と更なる収集の呼びかけを行っていく。

・収集した資料を展示会や市史編集、また広報等で活用し公開を進めていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
3,196	3,196	2,556	640	0



資金の流 れ、 点検 項目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、公募型プロポーザル方式によって適切に選定している。 ○予算規模は、適切に予算を設定している。 ○予算の費目・用途については、事業に必要最低限に設定し、執行している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		豊見城市					
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7-①		公営墓地整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(6)-ア	
	担当部課名	市民健康部 生活環境課		事業実施(予定)年度		平成27～31年度	沖縄らしい風景づくり
				沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-12		
事業内容	平成27年度建設用地立地可能性調査を基に候補地・土地形態に応じた公営墓地形態の絞込みを行う。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額 (b-a) (d) 繰越額 A. 計 (b+d)		3,478	6,156			
			3,932	5,940			
			454	▲ 216			
			—	—			
			3,932	5,940			
	B. 執行済額		3,726	5,940			
	うち交付金充当額		2,980	4,752			
	次年度繰越額		—	—			
	執行率(%) (B/A)		94.8%	100.0%			
予算の状況の説明		事業計画のとおりに執行する事が出来た。216千円の減額については、入札の結果、業務委託料に216千円の不用額が生じたため、減額補正を行ったためである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	公営墓地整備計画の検討	目標	(公営墓地の候補地選定)	(公営墓地整備計画の検討)	()	()	
		実績	公営墓地の候補地選定	公営墓地整備計画の検討			
		目標	()	()	()	()	
	実績						
達成状況説明	市の関係部署課長等で組織する検討部会、有識者等で組織する策定委員会をそれぞれ3回開催し、候補地や墓地形態について検討を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	平成28年度:公営墓地整備基本計画のとりまとめ完了	目標	()	(候補地の課題等を把握)	(整備計画のとりまとめ)	()	()
		実績		候補地の課題等を把握	整備計画のとりまとめ		
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 公営墓地の5候補地を調査、比較し複数項目での評価付けを行い、第1候補地、第2候補地を決定した。 墓地形態について、納骨堂、合葬墓の採用を決定した。又、墓地エリアについては芝生墓等の新しい墳墓形態の採用を決定した。 						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・今後は候補地の地域住民や地権者へ公営墓地建設の理解を得るため、説明を行う必要がある。 ・少子高齢化の進行、未婚者や子供を持たない世帯の増加による無縁墓地の増加など、ライフスタイルの多様化に対応するために、公営墓地の使用期限や使用条件、納骨堂の参拝方式などを検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民や地権者の理解を得るために、公営墓地の必要性や候補地を決定した経緯等を含め、粘り強く説明を行っていく。 ・住民のライフスタイルの変化などを考慮し検討を行う。又、先進地の状況なども参考にし、検討を行っていく。
	今後の取り組み方針	
<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度では、候補地の測量や地質調査等を行い、周辺環境や景観に配慮した設計(基本設計)を行う。 ・基本設計を行う中で公営墓地建設範囲を決定し、地域住民や地権者への説明会を開催していく。 ・少子高齢化の進行、未婚者や子供を持たない世帯の増加による無縁墓地の増加などに対応する為、納骨堂及び合葬墓の採用を決定し、納骨堂においては使用期限を設ける事とした。墓地エリアでは、門中墓や破風墓などの従来の形態ではなく、今までの墓地のイメージを払拭できるよう、芝生墓等の新しい墳墓形態を採用する事とした。今後は公営墓地先進地や近隣市の状況なども参考に検討を行っていく。 		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
	6,025	5,940	4,752	1,188	85
<pre> graph LR A[豊見城市 5,940千円] --> B[委託料 5,940千円] B --> C[株式会社 沖縄チャンドラー 5,940千円] subgraph D [豊見城市公営墓地整備計画策定業務] C end E[豊見城市公営墓地整備計画策定委員報酬 (交付対象外経費) 85千円] </pre>					
資金の用途の点検・費目・評価	評価	点検項目			評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。			○委託事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○不用額は事業費の約5%であり適正な規模であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。			
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。			○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。			

市町村名	豊見城市						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	8-①	豊見城総合公園体育施設機能強化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(1)-イ		
担当部課名	生涯学習部 生涯学習振興課	事業実施(予定)年度	平成28~31年度	沖縄振興基本方針該当箇所	「スポーツアイランド沖縄」の形成 Ⅲ-1-(1)		
事業内容	オリンピック・パラリンピック等のスポーツコンベンション誘致を推進するため、施設の現状と課題を抽出し、誘致に必要な条件、計画的な整備を推進するための検討を進め、市民のスポーツ振興及び競技力向上と観光客等の増加により地域活性化を図る						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	13,878				
		(b)予算現額	12,572				
		(c)増減額(b-a)	▲1,306				
		(d)繰越額	—				
		A.計(b+d)	12,572				
	B.執行済額		12,571				
	うち交付金充当額		10,056				
	次年度繰越額		—				
	執行率(%) (B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		事業計画どおり適正に執行できたが、執行残が見込まれたので、減額補正した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			28年度	29年度	30年度	31年度	
	基本計画の検討	目標	(基本計画検討実施)	()	()	()	()
		実績	基本計画検討実施				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	計画の策定業務を発注(専門家からのアドバイス、競技団体へのヒアリング、審議会3回)し、豊見城総合公園体育施設機能強化計画を策定した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)
	基本計画の取りまとめ完了	目標	()	(とりまとめ完了)	()	()	()
		実績		とりまとめ完了			
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	豊見城総合公園体育施設機能強化計画を作成し、基本構想・基本計画の策定ができた。					

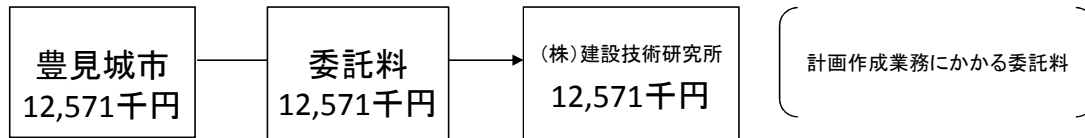
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>豊見城総合公園を活用したスポーツコンベンション誘致については、陸上競技場をメインとして取り組んでいくが、現在トラックが土舗装となっており、雨天時の利用ができないこと及び、トイレ、更衣室等の設備が整っていないという課題がある。</p> <p>また、総合公園施設に隣接し市中央公民館等もありイベントの際には駐車場が不足になり課題である。</p>	<p>現在土舗装のトラック及びインフィールドを全天候型舗装へ強化することで改善が図られる。</p> <p>その他競技施設や駐車場についても基本計画に基づき公園施設全体での動線や利活用など検討を行っていく。</p>

今後の取り組み方針

今後は、合宿誘致に必須である競技施設について、現在土のグラウンドを全天候型へ整備を行う。
 平成29年度にグラウンドの実施設設計。平成30年度工事。
 また、その他スタンド施設等についても随時整備を行い、合宿誘致を推進し市のスポーツ振興及び競技力向上と観光客等の増加による地域活性化を図る。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
12,571	12,571	10,056	2,515	0



資金の流 れ、費目 ・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○委託事業者は、指名型プロポーザル方式により選定しており妥当であったと考える。</p> <p>○予定した価格内で執行でき、適正な規模であった。</p> <p>○費目・用途については、完了検査を実施し適正なものであったと判断した。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	豊見城市						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	8-②	豊崎海浜公園テニスコート機能強化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(1)-イ		
担当部課名	生涯学習部 生涯学習振興課	事業実施(予定)年度	平成28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	「スポーツアイランド沖縄」の形成 Ⅲ-1-(1)		
事業内容	本市ではオリンピック・パラリンピック強化合宿を推進するため協議会を発足させ、誘致を強力に推進することとしている。新設される、豊崎海浜公園テニスコートにおいて、スポーツコンベンションを誘致するにあたり、観光振興の観点から大会・スポーツイベント等の開催を推進し、また、市民のスポーツへの参加意欲向上や健康増進と体力づくりを推進するためテニスコートの備品整備を行う。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
	(a) 当初予算額	0					
	(b) 予算現額	3,623					
	(c) 増減額 (b-a)	3,623					
	(d) 繰越額	-					
	A. 計 (b+d)	3,623					
	B. 執行済額	3,283					
	うち交付金充当額	2,626					
	次年度繰越額	-					
	執行率 (%) (B/A)	90.6%					
予算の状況の説明	事業計画どおり適正に執行できた。						
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)	達成状況					
			28年度	29年度	30年度	31年度	
	テニスコートの備品購入	目標	(備品整備)	()	()	()	
		実績	備品整備				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	新設の豊崎海浜公園テニスコートにおいて備品整備を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)	基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)	
	テニスコートの備品購入完了	目標	()	(備品購入)	()	()	()
		実績		備品購入			
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	豊崎総合公園テニスコートにおいて、スポーツコンベンション等を推進するにあたり、備品購入を行い受入環境が整った。						

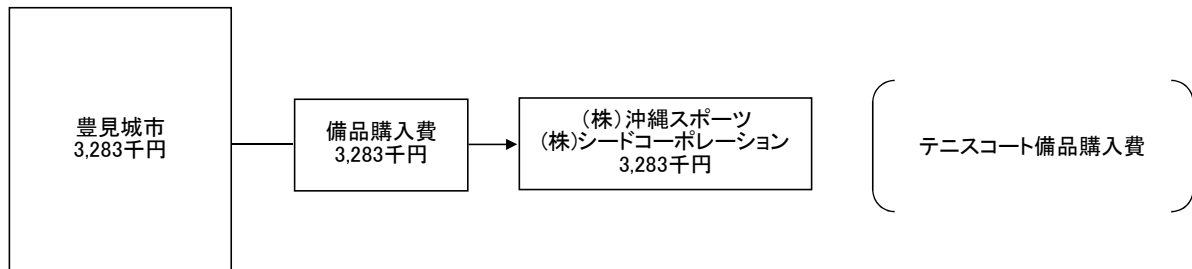
推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	交通アクセスに恵まれた立地条件を活かし、合宿誘致等を進めていく中での次の課題がある。	1.合宿実施時の雨天時については、市民体育館でトレーニングを行うなど、連携した利用が可能である。
	1.雨天時の練習場所の対応。 2.宿泊施設について繁忙期には予約が取りづらい。 3.新施設であるため、広く周知を行う必要がある。	2.現在もホテルと連携し誘致を行っているが、今後、近隣にホテル建設予定があることから将来、さらに充実した宿泊施設等と連携した取り組みが期待できる。 3.新施設であることから、施設周知を広く市内外へ行い利用者増へ繋げる。

今後の取り組み方針

合宿受入時には、早めの事前調整を県体協や競技連盟、施設管理者、宿泊施設等と連携し行うことで、施設予約など合宿誘致のスムーズな対応を行っていく。また、ホームページ等により市内外へ施設周知を図るとともに、積極的に競技団体等へ合宿誘致活動を行うことで利用者増へ繋げていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
3,283	3,283	2,626	657	0



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先については、指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模は、事業に見合った規模であった。 ○費目・用途については、事業目的達成のため必要であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	